

昭和 4 5 年度

地力保全基本調査成績書

〔石狩南部地域 千歳市・恵庭市・広島町〕

北海道立中央農業試験場

20

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和45年度に行なつた11地域23市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和46年3月

北海道立中央農業試験場

場長 和田 忠 雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

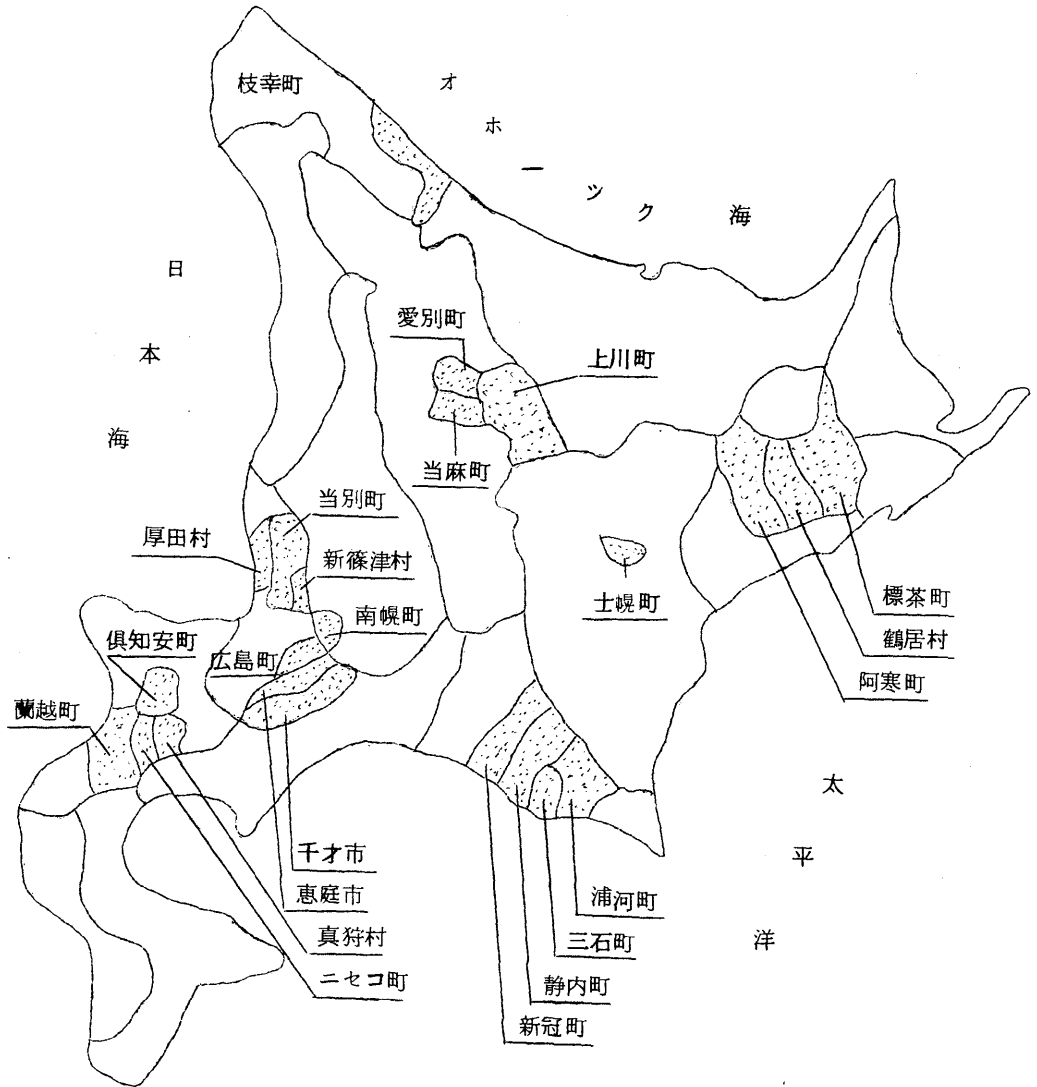
1. 土壤断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号(昭和36年9月、農林省振興局農産課)によつた。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号(昭和40年3月、農林省農政局農産課)及び水田土壤統設定第1次案(昭和38年12月、農技研化学部第3課)による。
3. 土壤統及び土壤区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤肥料第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部	長	森	哲	郎
土壤改良科	科	長	後 藤	計	二
	第 1 係	長	小 林	莊	司
	研 究	職 員	水 元	秀	彰
	"		伊 東	輝	行
	"		木 村		清
	"		松 原	一	実
	第 2 係	長	山 口	正	栄
	研 究	職 員	小 林		茂
	"		宮 脇		忠
	"		山 本	晴	雄
	"		高 橋	市	十郎
	"		上 坂	晶	司
	十 勝 農 試		菊 地	晃	二
	"		関 谷	長	昭
	"		横 山	義	雄
	北 見 農 試		秋 山	喜	三郎
	上 川 農 試		野 崎	輝	義
	"		土 居	晃	郎
	天 北 農 試		奥 村	純	一

1. 調査地域一覽

調査地域名	該当市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
石狩川下流	当別町	4,969	4,748	-	-	4,969	4,748
	新篠津村	3,831	1,017	-	-	3,831	1,017
石狩北部沿海	厚田村	617	1,605	-	-	617	1,605
石狩川下流	南幌町	4,688	1,030	-	-	4,688	1,030
羊蹄山麓	倶知安町	1,263	3,153	-	-	1,263	3,153
	真狩村	276	3,788	-	2,900	0	637
	ニセコ町	563	3,537	-	1,700	563	1,837
ニセコ山麓	蘭越町	2,188	2,104	-	-	2,188	2,104
日高沿海	新冠町	676	5,282	-	-	676	5,282
	静内町	948	3,353	-	-	948	3,353
	浦河町	730	2,917	-	-	730	2,917
	三石町	1,188	1,245	-	-	1,188	1,245
阿寒	阿寒町	20	2,897	-	-	20	2,897
	鶴居村	0	2,223	-	-	0	2,223
石狩南部	千歳市	939	3,465	-	-	939	3,465
	恵庭市	3,161	2,413	-	-	3,161	2,413
	広島町	1,018	2,063	-	-	1,018	2,063
上川中部	上川町	851	665	-	-	851	665
	愛別町	1,803	669	-	-	1,803	669
	当麻町	4,071	863	-	-	4,071	863
枝幸雄武	枝幸町	0	2,558	-	-	0	2,558
弟子屈	標茶町	0	10,150	-	-	0	10,150
上士幌	士幌町	13	11,680	-	1,500	13	10,180
合計		33,813	73,425	-	6,100	33,250	67,325

調査地区位置図



石狩南部地域 千歳市・恵庭市・広島町

1. 地区の概要

1) 位置及び調査面積

(1) 位置 北海道千歳市・恵庭市・札幌郡広島町

(2) 調査面積 (ha)

郡市町	農地 総面積				調査対象面積				過年度調査面積			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
千歳市	939	3,465	—	4,404	939	3,465	—	4,404	—	—	—	—
恵庭市	3,161	2,413	—	5,574	3,161	2,413	—	5,574	—	—	—	—
広島町	1,018	2,063	—	3,081	1,018	2,063	—	3,081	—	—	—	—

郡市町	本年度調査面積				次年度以降調査計画面積				備 考
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	
千歳市	939	3,465	—	4,404	—	—	—	—	
恵庭市	3,161	2,413	—	5,574	—	—	—	—	
広島町	1,018	2,063	—	3,081	—	—	—	—	

2) 気候

(1) 苫小牧測候所 (2) 島松気候観測所
(3) 千歳航空測候所 (4) 札幌管区気象台

項目		月別									
		4	5	6	7	8	9	10	11	全 年	
(1)	平 均	4.6	9.2	12.9	17.6	20.2	16.7	10.7	3.7	7.0	
	最 高 平 均	8.7	13.1	15.7	20.2	23.0	20.8	15.7	8.4	10.8	
	最 低 平 均	0.8	5.4	10.3	15.4	17.7	12.9	6.1	-0.5	3.2	
小 牧	降 水 量 (mm)	84.3	94.6	119.9	155.1	176.0	155.0	127.1	70.6	1,207.0	
	湿 度 (%)	78	81	89	90	88	82	76	72	79	
	霧 日 数 (日)	4.5	7.1	10.3	10.7	5.1	1.0	1.0	0.5	44.8	
	日 照 時 数 (h)	197.3	195.6	136.9	130.5	144.6	164.8	170.4	141.9	1,887.9	
	風 速 ($\frac{m}{s}$)	4.8	4.5	4.1	4.1	4.2	4.7	4.6	4.1	4.4	
	最 多 風 向	N	S N	S	S	S	N	N	N	N	
	積雪 (平均) (cm)	0.4	—	—	—	—	—	0	0.2	—	
晩霜：5月13日、初霜：10月14日、初雪、11月上旬、晩雪：4月中旬											

(ロ) 千歳	気温	平均	6.8	10.8	14.9	19.1	20.6	17.1	10.3	3.8	7.5
		最高平均	10.6	16.0	18.3	23.0	24.9	21.7	15.6	8.8	12.0
	(°)	最低平均	0.3	5.5	10.5	15.5	17.4	12.5	4.9	-1.1	2.6
歳	降水量	(mm)	71.3	63.4	65.7	128.2	151.1	142.5	77.2	50.2	981.0
	霧日数		2.8	7.4	9.2	10.6	8.2	3.6	3.2	1.8	59.0
(カ) 島松	気温	平均	5.6	11.0	15.0	19.4	21.3	16.4	10.3	2.7	6.9
		最高平均	10.9	17.0	19.7	23.6	25.4	21.5	15.9	7.6	12.1
	(°)	最低平均	0.2	5.0	10.2	15.1	17.1	11.3	4.6	-2.3	1.6
	降水量	(mm)	7.4	7.7	10.0	10.8	13.1	15.5	12.9	8.5	1,151
(ニ) 札幌	気温	平均	5.7	11.3	15.5	20.0	21.7	16.8	10.4	3.6	7.6
		最高平均	10.8	16.9	21.0	25.0	26.6	22.2	16.2	8.1	12.5
	(°)	最低平均	0.7	5.9	10.9	16.0	17.5	12.0	5.2	-0.6	3.0
幌幌	降水量	(mm)	66.1	59.2	67.4	100.0	107.4	145.4	113.1	111.8	1,135.7
	湿度	(%)	69	72	78	82	82	80	77	74	76
	霧日数	(日)	0.7	1.7	3.8	4.0	2.4	1.1	1.3	1.0	17.0
	日照時数	(h)	198.6	212.6	204.5	189.7	200.4	173.0	165.6	111.5	1,916.1
	風速	($\frac{m}{s}$)	4.2	4.4	3.8	3.4	3.1	3.0	2.9	2.9	3.4
	最多風向		SE NNW	SE NNW	SE	SE	SE	SE	SE	SE SW	SE NNW
	積雪(平均)	(cm)	3.7	0	-	-	-	-	0	2.2	-
晩霜：5月11日、初霜：10月9日、初雪：10月下旬、晩雪：4月下旬											

本地帯の特色は海洋の影響をうけ、特に春先～盛夏にかけて濃霧が襲来する日が多いことである。これが日照不足など低温を招き、作物が最も高温快晴を必要とする時期に致命的な障害を及ぼしている。即ち本地帯には二つの異った季節風があるが、一つは冬期間札幌方面より吹き込む北～北西の季節風で、他の一つはこれに代つて春季～夏季にわたつて噴火湾より吹き上げる南～南東の季節風で、後者は千島寒流及び津軽海峡から流れ込んで来た対馬暖流の亜流との接点で発生する霧を抱いて、苫小牧の海岸に上陸し、しばしば千歳、恵庭及び広島までも北上して来るのである。このため千歳では航空機の離着陸も時々阻げられている。なお秋口から冬にかけては比較的晴天の日が多くなり、冬の積雪は極めて少ない。このような傾向はとくに千歳市市街以南に於いて著しい。

3) 土地条件

本調査地区内の北東部地域は石狩平野に連なる標高10～20m内外の低平地で、南西部に向つて標高20～160mの段丘ないしは台地及び丘陵地(標高200m以上)を形成している。その基盤地質は主として第四紀古層の野幌層で、この上部は支笏火山噴出物(豊平浮石部層)、第四紀新層に属する恵庭岳及び樽前山火山灰により厚く被覆されており、これらの各種の層に由来する土壌が存在している。

また千歳川流域の広い低地帯のうち河川流域には第四紀層に属する河成土壌(前記段丘・台地及び丘陵地内にも存在)が、更には泥炭土が広範にわたつて形成されている。

これらを詳しく述べると、本地区内の土壌は一部の堆積時期の新しい沖積土、泥炭土地を除き、その殆んどが樽前山及び恵庭岳からの火山噴出物で覆われた火山性土地となつている。これらの火山灰層の分布、性状を次に述べる。

- (1) 樽前山火山灰 a 層 (Ta-a と略記) 1,739 年の噴出物とされ、新しい沖積地を除いては、千歳、恵庭、広島町全域に降灰し、地表を覆っている。降灰主軸は噴出源より東千歳南部に向つており、その層厚 (カッコ内は主浮石の粒径) は千歳市柏台 90 cm (2.0 ~ 3.0 cm)、東千歳南部 50 cm (1.0 ~ 2.0)、美々 60 cm (1.0 ~ 1.5)、恵庭市島松 15 cm (0.2 ~ 0.5 cm) 程度となつている。本層は有色鉱物の多い灰白色の未風化な浮石砂礫を主体とし、熔岩小粒の混合したものである。
 - (2) 樽前山火山灰 b 層 (Ta-b と略記) 1,667 年の噴出物とされ、千歳市南部の美々方面に分布している。層厚は本調査地区内では最も厚い処でも 5 cm 程度で、2 ~ 3 cm のやや丸味を帯び、色は腐植の集積により暗褐色を呈した硬い浮石礫で、Ta-a 同様有色鉱物が混じている。
 - (3) 樽前山火山灰 1 C 層 (Ta-1 C と略記) 後述の 2 C 層とともに約 1,500 ~ 2,000 年前の噴出物とされている。千歳市柏台から駒里、美々方面にかけて分布し、南方に向つて層厚を増し、最南部で 50 cm の層厚を有している。浮石砂礫 (0.1 ~ 0.5) からなり上部 15 cm 内外は腐植に頗る富み黒色を呈しているが、以下漸次やや黄味を帯びた未風化層となつている。
 - (4) 樽前山火山灰 2 C 層 (Ta-2 C と略記) 降灰主軸は千歳市南部から東千歳南部方向で、千歳市全域及び恵庭市南半分に渡つて分布する。千歳市柏台附近が最も厚く 30 cm 内外、美々 20 cm、長都 20 cm、恵庭市街 10 cm となつている。本層は主として熔岩砂礫 (大礫で 1.0 ~ 1.5 cm) 層で、比較的風化されて褐色を呈しているが、上部は腐植含量が多い。
- しかし、千歳市街以南の本層上部に Ta-1 C 層の堆積している地域では本層は未風化な暗青灰色の硬い熔岩砂礫層となつている。
- (5) 樽前山火山灰 1a (Ta-1 a と略記) 後述の Ta-2 d 層とともに約 5,000 ~ 6,000 年以前の噴出物とされている。千歳市柏台以南に分布し、南部に層厚を増して最南部で 20 cm 内外の層厚を有している。土壌は腐植に頗る富み黒色を呈する壤土型で、2 ~ 3 cm の熔岩礫を多く混入している。なお、美々以南の厚層地では本層下に熔岩砂礫のみからなる未風化層が存在する。
 - (6) 樽前山火山灰 2 d 層 (Ta-2 d と略記) Ta-1 d と同様千歳市柏台以南に分布し、南部に層厚を増して最南部で 50 cm 内外の層厚を有する。色は独特な赤褐色を呈し、すこぶる腐朽、保水した浮石礫 (1.0 ~ 2.0 cm) からなる。なお厚層地では本層下部は白色の浮石礫層となつている。
 - (7) 恵庭層 (En と略記) 後述の En-a、En-b とともに沖積初期の噴出物とされている。千歳市、恵庭市全域及び広島町に至る台地上に堆積している。有色鉱物の多く混入する黄褐色の土層で、層厚は 50 ~ 100 cm と処によつて不規則である。南部の千歳市ならび恵庭市では砂壤土型で土層中に En-a 層と同質の浮石礫を混入しているが、島松以北では礫の混入は不明瞭で、壤土 ~ 植壤土型と細粒質になる。
 - (8) 恵庭岳火山灰 a 層 (En-a と略記) 千歳市及び恵庭市の台地に前記恵庭層の下部層として存在する。粒径 2 ~ 3 cm 内外で熔岩片や有色鉱物などの混入の多い黄白色の浮石礫層である。
 - (9) 恵庭岳火山灰 b 層 (En-b と略記) 詳細な分布は明らかでないが千歳市街附近から恵庭市島松附近

にかけて存在する。層厚 10cm内外を有し、赤褐色の比較的腐朽した有色鉱物の混入しない浮石砂礫層で、上部には青灰色のやや脆い熔岩粗砂薄層を伴っている。

なお本調査地区内の低平地は地下水位が高く、河川改修及びその他暗渠排水等により水位は下つているが、その効果は未だ充分でない。

交通の便は地区中央部を国道 36 号線が縦断し、道々及び市町村道も良く整備され、道内に於ては最も良く恵まれている。

4) 土地利用及び営農状況

イ 千歳市

耕地面積は約 4,680 ha、そのうちほぼ 50%弱が畑地、30%が牧草地、20%強が水田という配分になっている。しかし土地総面積に対する耕地面積割合は 7.9%とかなり低く、山岳地や湖沼の未耕地が多いことを物語っている。経営形態別には田作、畑作、田畑作、酪農、混同経営とほぼ平均化されているが、南部～南西部の台地及び山岳丘陵地帯は畑作及び酪農が、北東部の沖積低地帯は水田が主体となっている。また他町村に比べて、臨時雇傭者の多いのが注目され、作付面積は水稻が筆頭で、次に小豆を主体とする豆類、てん菜、麦類、馬鈴薯の順に続き、そ菜類及び牧草その他の飼料作物が多く、これに伴って家畜飼養頭数も多く、一戸当平均乳牛 10.4 頭、豚 22.5 頭、にわとり 307.3 羽と、後に掲げる恵庭市、広島町と同様バライテイに富んでいるが、都市近郊的な様相を呈しているのが特色である。

ロ 恵庭市

耕地総面積はほぼ 5,000 ha で、そのうち約 65%を沖積低地帯に分布する水田面積が占め、経営形態別では田作は約 60%で、石狩空知一大穀倉地帯の一端を担っている。作付面積は水稻の他に麦類、てん菜、馬鈴薯、豆類の順に続き、他にアスパラガス、かぼちやを含めたそ菜類及び飼料作物が多く、酪農を含めて市販を前提とした集約的な商品生産農家がかかなり発展しているのが特色である。特に乳牛飼養頭数は近年増加の一途を辿り、昭和 43 年現在で 1,632 頭、一戸当り平均 9.3 頭を飼養して年間 4,500 t に及ぶ牛乳を生産している。

ハ 広島町

耕地面積は約 2,300 ha、そのうち水田、畑地がほぼ半ばし、他に牧草が 330 ha 以上で、土地総面積に対する耕地面積割合は 19.2%と比較的高く、良く耕地利用されていることを示している。経営形態別に見ると、田作、畑作、田畑作、酪農とほぼ平均化され、僅かに田作農家が多い。作付面積は東部低地帯の水稻を筆頭に、畑作物では馬鈴薯、麦類、豆類、てん菜の順に続き、そ菜類及び飼料作物の比較的多いのが特色で、僅かながら、リンゴ、ぶどう等の果樹類も作付されている。乳牛の飼養総頭数は 1,586 頭で、一戸当り平均 8.6 頭を飼養し、年間の牛乳生産量は 4,140 t を示している。又戸数は少ないが肉牛を主体としている農家もある。なお本町は北海道の中心都市である札幌市に隣接し、近隣都市への上記そ菜の給源地として、近年はまた、立地条件から工業団地及び住宅地として年々耕地面積が減少しているのが現状である。

千 歳 市

(1) 専兼業別・経営形態別農家数と農業従事者数

(S43・2・1)

	農家数 (戸)	専業 (戸)	兼業 (戸)	自給 (戸)	経営形態別農家数					従事者数(人)		
					田作	畑作	田畑作	酪農	混同	世帯員	常員	臨時雇 (延)
全体	751	581	135	35	142	168	112	159	135	1,992	66	29,515
一戸当	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.7	0.1	39.3

(2) 経営耕地面積

(S43・2・1)

	総数	田	畑	牧草地	樹園地	その他	土地総面積 に対する割合
総面積(ha)	4,676.56	1,014.72	2,258.74	1,402.55	0.55	-	7.9%
一戸当(ha)	6.2	1.3	3.0	1.9	-	-	-

(3) 主要農作物作付面積と収量

(S42)

	水稲	えん麦	その他の 麦類	小豆	その他の 豆類	馬鈴薯	てん菜	野菜類	とうもろ こし (青刈)	ぶどう
作付面積(ha)	939	196	94	381	112	121	374	260	320	1
10a当収量(kg)	411	278	-	226	-	2,650	3,480	-	6,500	420

(4) 家畜飼養農家数と飼養頭羽数

(S43・2・1)

	牛		馬	豚	めん羊	にわとり	(S42) 牛乳生産量 (t)
	乳用	役肉牛					
総数(頭羽)	2,723	28	420	2,633	66	66,678	7,502
農家数(戸)	261	2	387	117	21	217	261
一戸当(頭羽)	10.4	14.0	1.1	2.25	3.1	307.3	28.7

(5) 農用機械所有数

(S43・2・1)

	農家数 (戸)	台数 (台)	
10馬力未満	個人有	258	267
	共有	21	7
10馬力以上	個人有	111	112
	共有	213	40

恵庭市

(1) 専業別・経営形態別農家数と農業従事者数

(S43・2・1)

	農家数 (戸)	専業 (戸)	兼業 (戸)	自給 (戸)	経営形態別農家数(戸)					従事者数(人)		
					田作	畑作	田畑作	酪農	混合	世帯員	常雇	臨時雇 (延)
全体	1,053	857	131	65	608	52	146	85	97	3,026	65	33,851
一戸当	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.9	0.1	32.1

(2) 経営耕地面積

(S43・2・1)

	総数	田	畑	牧草地	樹園地	その他	土地総面積 に対する割合
総面積 (ha)	4,995.06	3,229.89	1,368.14	396.54	0.49	-	16.9%
一戸当 (ha)	4.7	3.1	1.2	0.4	-	-	-

(3) 主要農作物作付面積と収量

(S42)

	水稲	えん麦	その他 の 麦類	小豆	その他 の 豆類	馬鈴薯	てん菜	アスパ ラガス	かぼちや	その他 の 野菜類	とうも ろこし (青刈)	ぶどう
作付面積 (ha)	3,210	210	18	137	26	193	204	137	124	182	361	1
10a当収量 (kg)	4,111	293	-	216	-	2,750	3,910	439	2,100	-	6,530	420

(4) 家畜飼養農家数と飼養頭羽数

(S43・2・1)

	牛		馬	豚	めん羊	にわとり	(S42) 牛乳生産量 (t)
	乳用	役肉牛					
総数 (頭羽)	1,632	6	486	1,566	11	10,846	4,491
農家数 (戸)	176	4	480	163	8	341	176
一戸当 (頭羽)	9.3	1.5	1.0	9.6	1.4	31.8	25.8

(5) 農用機械所有数

(S43・2・1)

	農家数 (戸)	台数 (台)	
10馬力未満	個人有	721	755
	共有	17	10
10馬力以上	個人有	169	170
	共有	89	25

広島町

(1) 専兼業別・経営形態別農家数と農業従事者数

(S43・2・1)

	農家数 (戸)	専業 (戸)	兼業 (戸)	自給 (戸)	経営形態別農家数(戸)					従事者数(人)		
					田作	畑作	田畑作	酪農	混同	世帯員	常雇	臨時雇 (延)
全体	644	466	116	62	184	110	128	129	31	1,111	109	17,562
一戸当	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.7	0.2	27.3

(2) 経営耕地面積

(S43・2・1)

	総数	田	畑	牧草地	樹園地	その他	土地総面積 に対する割合
総面積(ha)	2,325.98	939.61	1,051.16	334.00	1.21	-	19.2%
一戸当(ha)	3.6	1.5	1.6	0.5	-	-	-

(3) 主要農作物作付面積と収量

(S42)

	水稲	えん麦	その他の 麦類	小豆	その他の 豆類	馬鈴薯	てん菜	そ菜類	とうもろ こし (青刈)	りんご	ぶどう
作付面積 (ha)	901	124	5	92	14	164	90	219	223	3	2
10a当収量 (kg)	413	297	-	197	-	2,740	3,670	-	6,280	1,770	450

(4) 家畜飼養農家数と飼養頭羽数

(S43・2・1)

	牛		馬	豚	めん羊	にわとり	(S42) 牛乳生産量 (t)
	乳用	役肉用					
総数(頭羽)	1,586	140	377	1,099	15	5,290	4,140
農家数(戸)	190	3	367	59	10	108	190
一戸当(頭羽)	8.3	46.7	1.0	18.6	1.5	49.0	21.8

(5) 農用機械所有数

(S43・2・1)

	農家数 (戸)	台数 (台)
10馬力未満 { 個人有	479	488
共有	12	6
10馬力以上 { 個人有	91	91
共有	4	2

2 土壤類型区分及び説明
1) 土壤統一覧及び土壤区一覧

(1) 土壤統一覧
(水田)

土壤統一名	色層序	腐植層序	礫層・砂層 砂を混在する 砂層	酸化 沈積物	土性		泥	炭	黒泥	グライ	母材	堆積様式
					表土	次層						
梶加(1)	Y/Y	表層腐植層な し	あり	あり	壤	質	なし	なし	なし	あり (5.0以下)	非固結火成岩 非固結水成岩	風積(火山性) 水積(河成)
根志越	YR/YR	"	"	"	粘	質	あり (6.8以下)	あり (6.8以下)	"	あり (6.8以下)	"	"
春日	YR/Y	全層腐植層	"	"	壤	質	あり (25~60)	あり (25~60)	"	あり (7.2以下)	非固結火成岩 ヨシ	風積(火山性) 集積(低位)
協和	YR/N	表層腐植層な し	"	"	"	質	なし	なし	"	あり (3.9以下)	非固結水成岩	水積(河成)
南島松	YR/Y	"	"	"	"	質	あり (6.5以下)	あり (6.5以下)	"	あり (6.5以下)	"	"
泉郷	YR/YR	"	"	"	"	質	あり (8.0以下)	あり (8.0以下)	"	あり (6.0以下)	"	"
中ノ井	YR/Y	表層腐植層	"	"	強粘質	質	なし	なし	"	あり (4.0以下)	"	"
舞鶴	G/Y	"	なし	"	"	質	"	"	"	あり (1.3以下)	"	"
島松中央	Y/G	表層腐植層な し	あり	"	壤	質	"	"	"	あり (5.0以下)	"	"
漁大	YR/Y	"	"	"	"	質	あり (9.0以下)	あり (9.0以下)	"	あり (4.0以下)	非固結水成岩 ヨシ	"
中ノ里	Y/YR	全層腐植層	なし	"	強粘質	質	あり (12~53)	あり (12~53)	"	あり (5.3以下)	非固結水成岩 ヨシ	"
林田	YR/Y	表層腐植層な し	"	"	壤	質	なし	なし	"	あり (1.3以下)	非固結水成岩	"
東ノ里	Y/Y	"	"	"	強粘質	質	"	"	"	あり (1.8以下)	"	"
拓北	YR/Y	"	"	"	"	質	あり (12~30)	あり (12~30)	"	あり (3.0以下)	非固結水成岩 ヨシ	集積(低位)
穂栄	Y/YR	全層多腐植層	"	"	"	質	あり (1.3以下)	あり (1.3以下)	"	あり	ヨシ, ハンノキ	"
北島	YR/Y	"	"	"	粘	質	あり (1.4以下)	あり (1.4以下)	"	"	スマガヤ	"(中間)
下北	YR/YR	"	"	"	"	質	あり (1.5以下)	あり (1.5以下)	"	"	ミズゴケ, スマガヤ	"(高位)

(畑)

土壌総名	色層序	腐植層序	礫層・砂礫層を混在する砂層	酸化沈着物	土質		性層	泥炭	黒泥	グライ	母材	堆積様式
					表土	次土						
駒里	YR/YR	表層腐植層なし	あり	なし	砂質	砂質	質	なし	なし	なし	非固結火成岩	風積(火山性)洪積
千島	"	埋没腐植層	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
島松	"	表層多腐植層	"	"	壤質	壤質	質	"	"	"	"	"
中島松	"	"	"	"	"	粘質	粘質	"	"	"	非固結火成岩	風積(火山性)水積(河成)
幌加(2)	"	表層腐植層なし	"	あり	砂質	砂質	質	"	"	あり(77以下)	"	"
幌加(1)	"	表層多腐植層	"	なし	"	粘質	粘質	"	"	"	"	"
牧場	"	表層多腐植層	"	なし	"	粘質	粘質	"	"	"	"	"
新川	"	表層腐植層	"	"	壤質	砂質	質	"	"	"	"	"
上山口北	"	"	"	"	"	砂質	質	"	"	"	非固結水成岩	水積(河成)
長都	"	"	"	あり	泥炭質	砂質	質	あり(0~12)	"	あり(57~66)	ヨシ	集積(低位)水積(河成)
石山	"	"	なし	なし	壤質	粘質	質	なし	"	なし	非固結火成岩	洪積
西ノ里	"	表層多腐植層	"	あり	粘質	強粘質	質	"	"	"	"	"
野幌南	"	表層腐植層	"	"	"	壤質	質	"	"	"	"	"
広島	"	表層多腐植層	"	なし	壤質	"	質	"	"	"	"	"
厚輪	"	"	"	"	"	粘質	質	"	"	"	"	"
南ノ里	"	"	"	"	"	壤質	質	"	"	"	"	"
中の沢	"	表層腐植層	あり	"	"	"	質	"	"	"	"	"

(2) 土壤区一覽
(水田)

土壤区名	簡略分級式	耕地面積 (ha)			
		3市町計	千歳市	恵庭市	広島町
幌加-1	II t g l r f	104	104		
根志越-根志越	III d r II t g l f i	250	250		
春日-1	III n II t l f	780	340	440	
"-2	III n II t l r f	540	50	490	
協和-協和	II t l r	35	35		
南島松-南島松	II t r f n	410		410	
泉郷-泉郷	II g l r	80	80		
中ノ榭-中ノ榭	II p r n	220	80	140	
舞鶴-舞鶴	III p II r n a	141		141	
島松中央-島松中央	II t l r n	340		120	220
漁太-漁太	II t r f	175		160	15
中ノ里-中ノ里	II t p r n	75			75
林田-林田	II t p r f n	120		120	
東ノ里-東ノ里	III p II t r a	285		95	190
拓北-拓北	II t r n	103			103
穂栄-1	II t p l r f n	695		480	215
"-2	II t p l r f n	195			195
北島-北島	II t l r f n	495		495	
下北-下北	II t l r f n	75		70	5
	計	5,118	939	3,161	1,018

(畑)

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	耕 地 面 積 (ha)			
		3市町計	千 歳 市	恵 庭 市	広 島 町
駒 里- 1	Ⅲ(w)fm lg	270	270		
" - 2	Ⅲ(w)fn lg	240	240		
千 歳- 1	Ⅲg(w)fn lp	685	685		
" - 2	Ⅲ(w) l gfnse	200	200		
" - 3	Ⅲ(w)fn ltgse	2,010	1,380	630	
島 松- 1	ltfn	445		445	
" - 2	ltgfn	450		450	
中島松-中島松	Ⅲw ltgn	360		360	
幌 加- 2	lgwtfn	250	250		
" - 3	lgwf	20	20		
牧 場- 1	ltg(W)fn	143		143	
" - 2	ltg(w)fn	145		145	
新 川-新 川	Ⅲ(w) l gfnse	20	20		
上山口北-上山口北	ltgfn	240		240	
長 都-長 都	Ⅲt l dgwfn	400	400		
石 山-石 山	lwf nse	150			150
西ノ里- 1	ltdpwf	195			195
" - 2	Ⅲw l tpf	175			175
" - 3	Ⅲw l tpf	60			60
野幌南-野幌南	ltpwf	40			40
広 島- 1	ltf	370			370
" - 2	lwf	460			460
輪 厚- 1	ltse	260			260
" - 2	ltfse	170			170
南ノ里-南ノ里	ltf	143			143
中の沢-中の沢	ltgfnse	40			40
	計	7,941	3,465	2,413	2,063

2) 土壤統別説明

幌 加 統 (1)

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量3~4%、1~2cmの頁岩の角礫に富み(客土材料?)土性はSLが主でまれにL~CLの場合もある。色は2.5Yで彩度2、明度4内外である。糸根状斑紋あり~なし程度。ち密度は疎、PH(H₂O)5.3、層界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ9cm内外で腐植含量6%内外、粒径3mm内外の浮石礫あり程度で土性はSLである。色は1.0YRで彩度1、明度3内外である。盤状構造を呈し、糸根状斑紋に頗る富む。ち密度1.8で疎。PH(H₂O)5.4、層界平坦明瞭である。

第3層は厚さ10cm内外、腐植を欠き浮石礫を含むSである。色は2.5Y彩度3、明度7内外である。単粒状構造で膜状斑紋あり程度。ち密度1.7で疎。層界平坦明瞭。

第4層は厚さ16cm内外で腐植及び礫を欠き、土性はSである。色は2.5Y、彩度1、明度8内外である。単粒構造で斑紋なし。ち密度1.5で疎。以下グライ状を呈する。層界平坦明瞭。第3、第4層は樽前山火山灰a層(Ta-a層)である。

第5層は深さ50cm以下で、土性はSL(触感)である。色は5Yで彩度1、明度4内外である。連結状構造でち密度は疎である。一部木を混入する場合がある。

代 表 的 断 面 形 態 (所在地) 千歳市字幌加 No.千27

第1層	0~15cm	腐植を含む灰色(2.5Y 4/2)のSL、1~2cmの頁岩の小礫に富む、無構造、糸根斑紋あり程度、ち密度は疎、層界平坦明瞭。
第2層	15~24cm	腐植に富む黒色(1.0YR 3/1)のSL、浮石礫あり程度、盤状構造で孔隙含む、糸根状斑紋に富む、ち密度1.8で疎、層界平坦明瞭
第3層	24~34cm	腐植を欠き浮石礫を含む黄褐(2.5Y 7/3)のS、単粒状構造で孔隙富む、膜状斑紋あり、ち密度1.7で疎、層界平坦明瞭
第4層	34~50cm	腐植及び礫を欠く灰色(2.5Y 8/1)のS、単粒状構造で孔隙頗る富む、本層以下グライ状を呈し40cm内外より湧水、ち密度1.5で疎、層界平坦明瞭、第3、第4層はTa-a層
第5層	50cm以下	腐植及び礫を欠く灰色(5Y 4/1)のSL(触感)、連結状構造で孔隙なし、ち密度は疎、一部木を混入する場合がある。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現 地 容 積 重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	3.8		53.1	17.1	16.3	13.5	SL	102.0	2.54	2.48	0.19	13.2	4.1
2	~24	2.6		72.1	9.0	10.8	8.1	SL	-	-	3.53	0.29	12.4	6.0

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			塩 基 飽和度 %	磷 酸 吸収係数	有効態 磷 酸 mg/100g	30CNH ₄ -N 発 生 量 mg/100g	遊 離 酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.3	4.7	0.6	16.7	7.9	4.3	0.2	47.3	5.54	31.0	12.37	1.13
2	5.4	4.7	1.3	11.4	5.6	1.4	0.1	49.1	3.34	17.5	14.37	0.59

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては千歳統及び、協和統などがあるが、母材、堆積様式及び地形が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/水積(河成)

B 地 形 沢地に分布しほぼ平坦

C 気 候 年平均気温 7.5℃ 年降水量 981mm (千歳航空測候所)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、有機物施用、施肥の合理化

F 分 布 北海道千歳市字幌加

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
幌 加 - 1	Itglrf

(2) 土壌区別説明

幌 加 統 - 1 区

示 性 分 級 式 (水田)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 粘 着 性	耕 土 の 乾 硬 性	表 土 の 透 水 性	表 土 の 透 水 性	表 土 の 透 水 性	作 土 下 50cm の 最 高 土 密 性	易 分 解 性	遊 離 酸 機 物 含 量	土 質 の 水 潤 乾 性	自 然 肥 沃 度	養 分 保 固 力	置 換 性	有 効 態	微 酸 量	障 害 性	災 害 性					
	t	d	g	p	l	r	w	f									i	a					
(稻) II	II	I	II	I 1	1 1	II 3	2	II 2	2 2	----	II 2	1 2	I 1	1	2	1	2	2	2	I 1	1	I 1	1
(畑)																							
簡 略 分 級 式 (稻) II t g l r f (畑)																							

A 土壤区の特徴

この土壤区幌加-1区は幌加等に属し、水田主体である。他に幌加-2、幌加-3区は畑主体である。表土の厚さは15cmで浅く、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質で粘着性は弱い。土性は全層的に粗く、土層の透水性そのものは大きい。地形的に凹地状を呈して地下水位が高い。易分解性有機物含量、鉄、グライ化度はいずれも中庸であり、還元化による水稻の根系障害のおそれがある。保肥力中、固定力ごく小、土層の塩基状態中庸で、自然肥沃度は不良である。しかし、有効態の石灰、苦土、磷酸などは多く、他の養分は中庸で養分の豊否は良好である。障害性、および災害性のおそれはない。

B 植生及び利用状況

水田(一毛作田)

C 地力保全上の問題点

地下水位が高いため、基幹明渠により、水位の低下を図ることが先ず第1である。更に有機物を施用しながら徐々に作土層を深めるべきである。また施肥の面では分追肥、遅効性肥料の利用などの考慮も必要である。

D 分布

北海道千歳市字幌加

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

根 志 越 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12cm内外、腐植含量7%内外、浮石礫含量10~15%で土性はSiCLを主とする。色は10YRで彩度2、明度3内外である。斑紋なくち密度は疎。PH(H₂O)5.3内外。一部氾濫を混入し、層界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で、腐植を欠き、粒径1~1.5cm内外の浮石礫含量20~30%内外、土性はSを主とする。色は10YRで彩度2~4、明度4~6である。以下単粒状構造で膜状斑紋富む。層界平坦やや明瞭。

第3層は厚さ36cm内外で腐植を欠き、砂礫層の互層で土性はSが主である。色は10YRで彩度1~4、明度7~8である。一部膜状斑紋富む。層界平坦明瞭である。本層以上はTa-a層である。

第4層はヨシを主材とする低位泥炭層を主とし、C~CLもある。色は10YR彩度で、明度3内外である。湧水面70cm内外である。

代 表 的 断 面 形 態 (所在地) 千歳市字根志越 No千11

第1層	0~12cm	腐植に富み、浮石礫に富む灰褐(10YR 3/2)のSiCL、発達弱度の塊状構造で孔隙富む、斑紋なし、ち密度は疎、層界平坦明瞭。
第2層	12~32cm	腐植を欠き、浮石礫に頗る富む黄褐(10YR 4/4)のS、単粒状構造を呈し、孔隙頗る富む、膜状斑紋富む、ち密度は疎、層界平坦やや明瞭
第3層	32~68cm	腐植を欠き、浮石礫を含むSと礫を含まないSの互層で十色は灰褐(10YR 8/2~7/2)である、単粒状構造を呈し、孔隙頗る富む、一部膜状斑紋富む、層界平坦明瞭、本層以上はTa-a層
第4層	68cm以下	ヨシを主材とする低位泥炭を主とし、C~CLもある。色は灰褐(10YR 3/2)である、湧水面は70cm内外である。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現 地 容積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~12	3.2	-	8.7	14.9	60.8	15.6	SiCL	72.8	2.33	4.44	0.40	11.0	7.4

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩 基 飽和度 %	燐 酸 吸 收 係 数 mg/100g	有効態 燐 酸 mg/100g	30°CNH ₄ -N 発 生 量 mg/100g	遊離 酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.3	4.6	1.3	16.7	8.2	0.8	0.4	49.1	688	55.8	26.52	0.79

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては千歳統、長都統などがあるが、本統は水田を主体とするのに対し
て他は畑が主体であり、母材、堆積様式、地形などがそれぞれ異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積（火山性）／水積（河成）

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 7.5℃ 年降水量 981.0mm（千歳航空測候所）

D 植生及び利用状況 水田（一毛作田）

E 農業上の留意事項

排水、有機物の施用、客土、施肥の合理化

F 分布 北海道千歳市字根志越、長都、泉郷の一部

調査及び記載責任者 高橋 市十郎（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌等の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
根 志 越	III dr II tgl fi

② 土壌区別説明

根 志 越 統—根 志 越 区

示 性 分 級 式（水田）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	土 効 的 厚 深 さ	表 土 層 的 容 積 率	表 土 層 的 粘 着 性	表 土 層 的 乾 燥 性	作 業 土 層 下 50cm 以 上 の 最 高 土 密 度	遊 離 酸 性 有 機 物 含 量	遊 離 酸 性 有 機 物 含 量	地 盤 乾 燥 性	自 然 肥 沃 度	養 分 置 換 率	養 分 置 換 率	養 分 置 換 率	養 分 置 換 率	障 害 物 質 有 無	災 害 物 質 有 無
t d g p	II III II I 2 2 1	II 3 2	III 3 3 2	---	---	---	---	II 2 1 2	I 1 2 1 1 1 2 2 2	II 1 2	I 1 1	II 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 1
(稱) III	(畑)														
簡 略 分 級 式 (稱) III dn II tgl fi (畑)															

A 土壤区の特徴

この土壤区は根志越統に属する。表土の厚さは12cm内外と浅く、有効土層も心土層が砂礫層になるため15～25cm内外で浅い。土性は粗く、土層そのものの透水性は大きい。周囲の水位が全般的に高く、易分解性有機物の量は多く、鉄は少、グライ化度は中で還元化が極めて大きく、水稻の根系障害のおそれが極めて大きい。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態中庸で、自然肥沃度は不良。有効態成分は苦土が中庸で他の養分は多く、養分の豊否は良好である。礫層が浅く、除去やや困難な障害性があり、豪雨の場合の増冠水の心配はない。

B 植生及び利用状況 水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

地下水位が高いため、先ず基幹明渠により全般的な水位の低下を促し、作土層が浅く、かつ砂礫層が浅いため、良質な粘土の客土を行ない有機物を施用しつつ作土の深化に努めることが肝要と思われる。遅効性肥料及び分追肥等施肥面での注意も必要である。

D 分布

北海道千歳市字根志越、長都、泉郷の一部

記載責任者 高橋 市十郎（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和46年3月31日

春	日	統
---	---	---

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14cm内外で腐植含量4～5%、浮石礫含量5～10%、土性はSLを主とするが、客土の混入程度によりLの場合もある。色は10YRで彩度1、明度3内外である。発達弱度の粉塊状構造で孔隙に富む。斑紋なく、ち密度1.7で疎である。層界は平坦やや明瞭である。本層はTa-a層を主体とする。

第2層は厚さ11cm内外で腐植を欠き浮石礫を含む（含量5～10%）、土性はSが主である。色は10YRで彩度4、明度6内外である。単粒状構造を呈し、斑紋はあり程度である。ち密度は1.8内外で疎である。PH(H₂O)は5.0、層界は不規則漸変である。本層はTa-a層である。

第3層は厚さ15cm内外、ヨシを主とする低位泥炭層である。色は彩度1、明度1.7内外で分解度は良好である。

第4層は厚さ20cm内外で前層同様の低位泥炭層であるが分解程度がやや落ちる。

第5層は厚さ12cm内外でヨシの根を含むCL（触感）である。色は2.5Yで彩度1、明度3内外である。均質連結状構造を呈し、孔隙はなし。ち密度は疎で本層以下グライ状を呈する。層界は漸変である。

第6層は前層同様ヨシの根を含むC(触感)である。色は2.5Y、彩度2、明度5内外である。均質連結状構造で孔隙なし。

代表的断面形態 (所在地) 恵庭市字春日 No.恵42

第1層	0~14cm	腐植を含み、浮石礫を含む黒色(10YR3/1)のSLで客土を混入、粉塊状構造を呈し、孔隙は富む、斑紋なくち密度1.7で疎、層界平坦やや明瞭、本層はTa-aを主体とする。
第2層	14~25cm	腐植を欠き、浮石礫を含む黄褐(10YR6/4)のS、単粒状構造を呈し孔隙は富む、斑紋はあり程度でち密度は1.8で疎、層界不規則漸変、本層はTa-a層
第3層	25~40cm	黒色(10YR1.7/1)のヨシを主材とする低位泥炭で分解程度は良好、層界平坦やや明瞭。
第4層	40~60cm	黒色(10YR1.7/1)のヨシを主材とする低位泥炭で分解程度は中庸、層界漸変
第5層	60~72cm	ヨシを含む黒色(2.5Y3/1)のCL(触感)、均質連結状構造で孔隙なし、ち密度は疎で本層以下グライ状を呈する、層界漸変。
第6層	72cm以下	ヨシを含む灰色(2.5Y5/2)のC~L、(触感)、均質連結状構造で孔隙なし。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~14	1.6	-	78.2	1.0	12.4	8.4	SL	132.1	2.57	2.75	0.17	16.2	4.6
2	~25	1.3	-	87.9	5.0	6.4	0.7	S	127.6	2.40	-	-	-	-
3	~40	8.6	-	-	-	-	-	泥炭質	87.5	2.80	-	-	-	-

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩 基 置 換 性 塩 基 me/100g				塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g	30°C NH ₄ -N 発 生 量 mg/100g	遊 離 酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl		置換容量 me/100g	CaO	MgO	K ₂ O					
1	4.8	4.0	2.5	8.8	3.6	0.7	0.1	50.0	291	6.0	7.1	0.71
2	5.0	4.3	1.9	5.7	1.6	0.4	0.1	36.8	369	5.8	2.1	0.97
3	4.7	3.9	2.5	62.5	23.3	0.7	0.4	39.0	494	4.4	-	1.75

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては中ノ柵統、穂栄統、南島松統、中島松統があるが母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩/ヨシ

A-4 堆積様式 風積（火山性）／集積（低位泥炭）

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 1,151mm（島松気候観測所）

E 農業上の留意事項
排水、混層耕、客土、施肥の合理化

F 分布 北海道恵庭市字春日、山口、千歳市長都

調査及び記載責任者 高橋 市十郎（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

- (2) 土壤統の細分
- (1) 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
春日-1	III n II t l f
春日-2	III n II t l r f

- (2) 土壤区別説明

春日統-1 区

示 性 分 級 式（水田）

土 表 有 表 耕		濕 酸 土			自 養				障 災	
壤	効 土	表 表 表	作 作	易 遊	透 保 濕	保 固 土	置 有	微 酸	有 物	增 地
生 土	土 土	土 土	土 土	分 離	地	然	層 分 換	効	害 理	冠 す
力 可	の 層	の の	の 乾	性 性	の 水 水	肥 肥	の 石 苦	量	害 質	物 的
能 性	厚 深	有 難	粘 土	機 鐵	乾	沃 状	塩 基 灰 土	量	害 質	障 害
等 級	さ さ	量 易	性 性	性 性	濕 度	力 力 態	量 量	素 度	無 性	無 性
	t d g p		性 性	性 性	濕 度	力 力 態	量 量	素 度	無 性	無 性
①	III	I I I I	II 3 2	I 1 3 2	— — —	II 2 1 2	III 2 2 3 2 3 2 2 3	I 1 1	I 1 1	J 1 1
②	畑									
簡 略 分 級 式		① III n II t l f			②					

A 土壤区の特徴

この土壤区は春日統に属する。表土の厚さは15cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土25cm内
外は浮石礫を含むT a - a 層に客土を混入し砂壤土を呈し、以下40~50cmは低位泥炭で分解も割合
進んでおり、土壤そのものの透水性は大きい。作土の易分解性有機物及び鉄含量も少なく、還元化によ
水稻の根系障害のおそれはない。保肥力中、固定力ごく小、土層の塩基状態中庸で、自然肥沃度はやや
不良である。作土の有効態加里、窒素が少く、他の養分は中庸、酸度は強く、養分の豊否は不良である。
有害性及び災害性はない。

B 植生及び利用状況 水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

一部地下水位の高いところは先ず排水が必要で、一般に作土の土性は粗いが、泥炭層の浅く出現する
ところは、粘質土壤の客土、更には下層に粘質土壤の比較的浅く存在するところは混層耕も大切である。
又酸度が強いので酸性矯正を要する。

D 分布

北海道恵庭市字春日、中央、山口、千歳市長都の一部

記載責任者 高橋 市十郎 （北海道立中央農業試験場）

日付 昭和46年3月31日

② 土壤区別説明

春 日 統 - 2 区

示 性 分 級 式 (水田)

	土 表 有 表 耕	湛	酸	土	自	養	障	災	
壤	効 土 耘	表 表 表	作 作	易 遊	透 保 湿	保 固 土	置 有 微	有 物 增	
生 土 土	土 土 土	土 土 土	土 土 土	化 分 離	地 然	性 性 性	換 効 効	害 理 冠	
産 土 土	の の の	の 乾 透	の 50	性 性 性	の 水 水 潤	肥 肥 定	の 石 苦 加 磷 窒 珪	害 質 的 害	
力 的 層	の 礫	粘 土 着	の 最 高	機 鐵 物 含 化	乾 沃 状	塩 基	灰 土 里 酸 素 酸	の 障 危	
可 能 厚	深 含	性 性 性	水 土 密	元 含 量 度	性 性 度	力 力 態	豊 含 量 度	有 害 無 性	
性 等 級	さ さ 量 易	性 性 性	性 性 性	性 性 度	度 力 力 態	否 量 度	性 性 性	性 性 性	
	t d g p	l	r	w	f	n	i	a	
(稻)	III	I I I 1 (1)	II 3 2	II 2 2 3	----	II 2 1 3	III 2 2 3 3 2 2 3	I 1 1 I 1 1	
(畑)		----	----						
簡略分級式		(稻) III n II t l r f	(畑)						

A 土壤区の特徴

この土壤区は春日統に属する。前区とほぼ同様な堆積状態を示すが、表土のTa-a層が若干薄く、泥炭層は逆に厚くなり、全般的により湿性を呈する。従つて、還元化による水稻の根系障害のおそれかなりあり、保肥力が中、固定力ごく小、塩基状態は不良で自然肥沃度は不良。有効態加里、磷酸が少く、他の養分は中庸であるが、強酸性を呈する。障害性、災害性のおそれはない。

B 植生及び利用状況 水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

全般的に湿性を呈するため、先ず基幹明渠による地下水分の低下と、泥炭層の浅いところは客土が望まれる。自然肥沃度は悪く、養分も不足しているため、施肥面での注意並びに酸性矯正の必要がある。

D 分布

北海道恵庭市宇春日、中央、千歳市長都の一部

記載責任者 高橋橋 市十郎（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和46年3月31日

協 和 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、腐植含量4~5%、浮石礫含量5~10%で土性はSLを主とし客土の混入程度によつてはLもある。色は10YRで彩度2、明度3~4である。発達弱度の塊状構状を呈し、孔隙は富む。斑紋なし、ち密度は1.2で疎、層界は平坦やや明瞭である。

第2層から第5層まではTa-a層で、いずれも土性はSで単粒構造を呈し、ち密度は1.5内外で疎である。

第2層は厚さ7cm内外で腐植及び浮石礫を含み色は10YRで彩度2、明度3である。

第3層は厚さ6cm内外で浮石礫を含み色は10YRで彩度4、明度7で膜状斑紋に頗る富む。

第4層は厚さ11cm内外で暗赤色を呈し、膜状斑紋に頗る富む。色は2.5YRで彩度4、明度3である。

第5層は厚さ18cm内外で色は10YRで彩度1、明度7内外である。斑紋なく本層より下部はややグライ状を呈する。

第6層は腐植土で色はNである。湧水面は60cm内外である。

代表的断面形態 (所在地) 千歳市宇協和 No.千24

第1層	0~15cm	腐植を含み、浮石礫を含む灰褐(10YR3/2)のSL、客土を混入、塊状構造で孔隙富む、斑紋なし、ち密度1.2で疎、PH(H ₂ O)5.0、層界平坦やや明瞭
-----	--------	---

第2層	15~22cm	腐植を含み、礫を含む灰褐(10YR 3/2)のS、単粒構造を呈し孔隙頗る富む、斑紋なし、ち密度15で疎、層界漸変
第3層	22~28cm	礫を含む黄褐(10YR 7/4)のS、単粒構造を呈し、孔隙頗る富む、膜状斑紋頗る富む、ち密度疎、層界平坦明瞭
第4層	28~39cm	赤色(2.5YR 3/4)のS、単粒状構造を呈し孔隙頗る富む、膜状斑紋頗る富む、ち密度疎、層界平坦明瞭
第5層	39~58cm	灰褐(10YR 7/1)のS、単粒状構造を呈し孔隙頗る富む、斑紋なし、ち密度疎、層界平坦やや明瞭、本層以下ややグライ状を呈する。
第6層	58cm以下	黒色(N)を呈する腐植土で連結状構造を呈する、湧水面は60cm内外。

代表的断面の分析成績

層厚	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重 %	粒 径 組 成 %				土性	現 地 容 積 重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	4.1	-	5.13	19.2	15.6	13.9	SL	98.4	2.56	2.59	0.20	13.1	43
2	60~	11.5	-	-	-	-	-	-	-	-	13.21	0.68	19.5	20.1

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			塩 基 飽和度 %	燐 酸 吸 收 係 数	有効態 燐 酸 mg/100g	30°CNH ₄ -N 発 生 量 mg/100g	遊 離 酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.0	4.3	3.8	20.7	10.6	2.0	1.2	51.2	54.6	45.1	124.0	0.93
2	5.2	4.6	1.3	76.8	41.8	9.7	0.7	54.4	20.44	12.6	263.7	1.68

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては、幌加統、泉郷統があるが、堆積様式の違いにより本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地 形 平坦

C 気 候 年平均気温 7.5°C 年降水量 981mm (千歳航空測候所)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、有機物施用、施肥の合理化

F 分 布

北海道千歳市協和

調査及び記載責任者

高 橋 市 十 郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
協和	lltℓr

(2) 土壤区別説明

協和統一協和区

示性分級式(水田)

土壤	表土	有効層	耕土	表土	表土	表土	作土	易遊	グ	透濕	保固	土層	置換	有効	微酸	有物	障	災
生土	土	土	土	土	土	土	土	化	離	地	然	層	の	性	態	害	害	害
産力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性厚	深	難	着	硬	密	元	物	化	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃
等	さ	さ	景	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	t	d	g	p	ℓ	r	w	f	n	.	i	a						
(稱)	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll	ll
(畑)																		
簡略分級式		(稱) lltℓr (畑)																

A 土壤区の特徴

この土壤区は協和統に属し、沢地に僅少分布する。表土の厚さは15cm以下で浅く、有効土層は1m以上で深い。一般に土性が粗く、土層そのものの透水性は大きい。しかし本土壤区は沢地に分布するため、地下水位そのものが高いため、かなり湿性を呈している。易分解性有機物含量は中、鉄含量中、グライ化度中庸で還元化による水稻の根系障害のおそれはかなりある。保肥力大、吸収力ごく小、塩基状態中庸で自然肥沃度は中程度、酸度が中庸で有効態養分は概して多い。障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

C 地力保全上の問題点

基幹明渠等により、排水することが必要で、更に有機物を施用しつつ作土層の深化を図る必要がある。また、遅効性肥料の利用、分追肥など施肥面での注意も必要である。

D 分布

北海道千歳市字協和

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

南 島 松 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、腐植含量4~5%で土性はSLが主である。色は10YRで彩度2、明度3で浮石礫を含む。粉塊状構造を呈し孔隙は富む。斑紋はあり程度、ち密度は9で頗る疎である。PH(H₂O)4.9、層界は平坦明瞭。

第2層は厚さ5cm内外、腐植含量10%内外で土性はLを主としCLの場合もある。色は2.5Yで彩度3、明度3、塊状~板状構造を呈し孔隙あり。斑紋は頗る富み、ち密度は15で疎である。PH(H₂O)4.7、層界は平坦明瞭。本層は鋤床層。

第3層は厚さ10cm内外、腐植含量11~12%で土性はSiLが主でCLの場合もある。色は10YRで彩度2、明度4、塊状構造を呈し中小孔に富む、結核あり、ち密度14で疎、PH(H₂O)4.8、層界は漸変である。

第4層は厚さ22cm内外で腐植を欠き土性はSiCを主とする。色は10YRで彩度2、明度7、均質連結状構造を呈し孔隙はなし。斑紋富み、ち密度13で疎、PH(H₂O)4.8で層界は平坦明瞭である。

第5層は厚さ12cm内外で腐植を欠き土性はCLを主とする。色は10YRで彩度4、明度7である。均質連結状構造で孔隙なし。膜状斑紋富みち密度は9で頗る疎である。PH(H₂O)4.9、層界は平坦明瞭。

第6層はヨシを含み土性はHCを主とする。色は2.5Yで彩度1、明度2である。均質連結状構造を呈し孔隙はなし。ち密度は9で頗る疎、斑紋はあり。PH(H₂O)4.6。

代表的断面形態

(所在地) 恵庭市

No.恵3

第1層	0~15cm	腐植を含み礫を含む灰褐(10YR3/2)のSL、粉塊状構造で孔隙富む。結核あり、ち密度9で頗る疎、PH(H ₂ O)4.9、層界平坦明瞭。
第2層	15~20cm	本層は鋤床層、腐植に富む灰色(2.5Y3.3)のL、塊状~板状構造で孔隙あり程度、斑紋頗る富みち密度は15で疎、PH(H ₂ O)4.7、層界漸変。
第3層	20~30cm	腐植に頗る富む黄褐(10YR4/2)のSiL、塊状構造を呈し中小孔富む、結核あり、ち密度14で疎、PH(H ₂ O)4.8、層界平坦明瞭。
第4層	30~52cm	腐植を欠く灰褐(10YR7/2)のSiL、均質連結状構造を呈し、孔隙なし、斑

		紋富みち密度 1.3 で疎、PH(H ₂ O) 4.8、層界平坦明瞭。
第 5 層	5.2~6.5 cm	腐植を欠く黄褐(10YR7/4)の CL、均質連結状構造を呈し、孔隙なし、斑紋富みち密度 9 で頗る疎、PH(H ₂ O) 4.9、層界平坦明瞭。
第 6 層	6.5 cm 以下	ヨシを含む黒色(2.5Y2/1)の HC、均質連結状構造を呈し、孔隙なし、斑紋あり程度、ち密度 9 で頗る疎、PH(H ₂ O) 4.6、本層はやや黒泥的。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~1.5	1.2	-	69.2	9.5	13.7	7.7	SL	142.7	2.47	2.48	0.18	14.0	4.1
2	~2.0	8.2	-	18.1	35.5	27.1	19.2	L	140.6	2.88	5.64	0.34	16.5	9.4
3	~3.0	8.0	-	2.9	26.9	43.1	15.8	SiL	125.0	2.30	6.71	0.33	20.3	11.2
4	~5.2	6.8	-	0.8	9.1	48.1	42.0	SiL	149.2	2.51	-	-	-	-
5	~6.5	4.1	-	0.3	38.4	41.1	20.2	CL	140.6	2.32	-	-	-	-
6	6.5~	7.6	-	0.1	6.5	47.1	46.3	HC	-	-	-	-	-	-

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係	有効態 磷酸 mg/100g	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離 酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	4.9	3.9	3.1	9.7	2.6	0.7	0.2	36.1	3.99	13.4	8.1	1.69
2	4.7	4.1	1.9	3.48	10.6	1.4	0.3	35.3	2.143	0.9	9.9	4.79
3	4.8	4.2	2.5	4.76	25.5	2.2	0.7	59.7	2.004	1.2	-	4.48
4	4.8	4.0	2.5	30.2	17.3	1.6	0.8	65.2	1.446	0.5	-	3.80
5	4.9	3.9	4.4	19.7	7.4	1.3	0.6	47.2	1.095	5.8	-	1.08
6	4.6	3.6	5.0	45.1	15.1	5.1	0.9	46.8	1.253	4.3	-	0.78

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては、春日統、上山口北統があるが、母材、堆積様式がそれぞれ異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9°C 年降水量 1,151mm (島松気候観測所)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、施肥の合理化

F 分布 北海道恵庭市宇南島松、中恵庭、上山口

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)
 年 月 日 昭和46年3月31日

- (2) 土壤統の細分
 ① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
南島松	lltrfn

- (2) 土壤区別説明

南島松統一南島松区

示性分級式(水田)

土表有表耕	湛	酸	土	自	養	障	災
壤効土	表表表	作作	易遊グ	透保湿	保固土	置有微酸	有物(増地)
生土	耘土土	水土土	化分離	然	層分換	" " "	害理冠す
産土	のの	の風	50cmの	地	の性態	量	害物的害の
力可	の層	の乾	透cmの	の水水潤	肥肥定	塩の石苦加磷窒珪	害質的害の
能性	の厚	粘土	の最高	乾	沃	基	の障
等	深	土着硬	水土密	性性度	力力態	状	有害
級	さ	性性さ	性性度	湿	度	否	無性性
	t d g p	ℓ	r	w	f	n	i a
(稻)	ll I I I 1 1	I 2 2	ll 1 1 3	----	ll 2 1 3	ll 3 2 2 2 3 2 1 3	I 1 1 I 1 1
(畑)		----	----				
簡略分級式		(稻)	lltrfn	(畑)			

A 土壤区の特徴

この土壤区は南島松統に属する。表土の厚さは15cm内外以下、有効土層は1m以上で深い。作土層は比較的粗粒で耕起、碎土は容易であるが、下層は粘質となり透水性が小さく湿性を呈している。易分解性有機物含量が少く、鉄も多いが、グライ化度は強く、還元化が進み、水稻の根系障害のおそれがある。保肥力中、固定力ごく小で塩基状態は不良で自然肥沃度は中庸、作土の有効態石灰及び窒素が少なく、他の養分は中庸であるが、酸度は強い。有害物質による障害および豪雨の場合の増冠水の心配はない。

B 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

C 地力保全上の問題点

下層(30cm以下)は透水性が悪く、湿性を呈するので暗渠、明渠により排水することが必要である。次に有機物を施用し、漸次深耕しつつ作土層を深めるべきである。一般に養分が少な目であるが施肥面での注意も望まれる。

D 分布

北海道恵庭市字南島松、中恵庭、上山口

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

泉 郷 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ7cm内外、腐植含量2~5%、土性はCLを主とするがL~SLの場合もある。色は2.5Yで彩度2、明度3である。疎なく塊状構造を呈し、孔隙はあり程度、斑紋なくち密度1.4で疎PH(H₂O)5.6、層界は平坦明瞭である。本層は客土を主体とする。

第2層は厚さ13cm内外、腐植含量3~5%、土性はSLを主とし浮石礫を混入する。色は7.5YRで彩度2、明度3で塊状構造を呈し孔隙はあり程度。膜状斑紋を含みち密度は2.1内外で中である。PH(H₂O)5.8、層界は平坦明瞭である。尚本層は古い作土層で本層下部2cm位は鋤床層を形成している。

第3~5層はTa-a層で土性はSで単粒構造を呈する。32~40cmに礫が多く、斑紋を含む。層界は平坦明瞭。

第6層はヨシを含むC(触感)である。色は2.5Y彩度1、明度3である。均質連結状構造を呈し、ち密度は疎である。層界平坦やや明瞭である。

第7層は浮石礫を含むS(触感)である。色は10YRで彩度2、明度5である。単粒構造を呈する。

第8層はヨシ、キを主体としCを混入する亜泥炭層である。色は10YRで彩度2、明度3内外である。

第1層	0~7cm	腐植を含む黄褐(2.5Y3/3)のCL、塊状構造を呈し孔隙あり程度、ち密度1.4で疎、PH(H ₂ O)5.6、層界平坦明瞭。
第2層	7~20cm	腐植を含み礫を混入する灰褐(7.5YR3/2)のSL、塊状構造を呈し孔隙はあり程度、塊状構造を呈し孔隙あり程度、ち密度2.1で中、PH(H ₂ O)5.8、層界平坦明瞭。
第3層	20~32cm	浮石礫を含む灰褐(10YR8/1)のS、単粒状構造を呈し孔隙富む、ち密度は疎、層界漸変

第4層	32~40cm	浮石礫に頗る富む黄褐(10YR7/3)のCL、単粒状構造を呈し、孔隙富む、ち密度は疎、斑紋含む、層界漸変。
第5層	40~60cm	浮石礫を含む灰褐(10YR8/1)のS、単粒状構造を呈し孔隙富む、ち密度は疎、層界平坦明瞭。
第6層	60~70cm	ヨシを含む黒褐(2.5Y3/1)のC(触感)、均質連結状構造を呈しち密度は疎である。層界平坦やや明瞭。
第7層	70~82cm	浮石礫を含む灰褐(10YR5/2)のS、単粒状構造を呈し、湧水面は80cm内外である。
第8層	82cm~	ヨシ、キを主体としCを混入する黒褐色(10YR3/2)の亜泥炭層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~7	4.1	-	29.5	21.8	26.0	22.7	CL	133.8	2.60	1.54	0.09	16.4	2.5
2	~20	2.3	-	60.7	17.7	10.4	11.2	SL	121.8	2.62	1.88	0.12	15.3	3.2

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			塩基飽和度 %	磷酸係	有効態 磷酸 mg/100g	30°CNH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離 酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			GaO	MgO	K ₂ O					
1	5.6	4.7	1.3	18.4	11.4	4.3	0.4	62.0	7.58	22.3	7.29	1.47
2	5.8	4.7	0.6	10.4	7.0	1.6	0.1	67.3	4.14	23.5	7.16	0.98

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては千歳統、根志越統があるが、成因、堆積様式がそれぞれ異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 河川兩岸の平坦地

C 気候 年平均気温 7.5°C 年降水量 981mm (千歳航空観測所)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、有機物施用、施肥の合理化

F 分布 北海道千歳市字泉郷、協和の一部

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
泉 郷	Ilgℓr

② 土壌区別説明

泉 郷 統 一 泉 郷 区

示 性 分 級 式 (水田)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 土 層 厚 深 さ	有 効 土 層 含 量 易	表 土 乾 粘 土 着 硬 性	表 土 風 乾 粘 土 着 硬 性	耕 作 土 下 50cm 透 水 性	湛 作 土 下 50cm 透 水 性	酸 易 遊 離 性 化 機 元 含 量	土 地 水 潤 肥 沃 乾 湿 度	自 然 肥 沃 力 態	養 置 換 性 態 量	障 害 物 質 有 害 性	災 害 冠 水 危 險 度
	t d g p	ℓ	r	w	f	n	i	a				
(稲畑)	II I I II I 2 2 1	II 3 2	II 1 2 3	---	I 2 2 1	I 1 1 1 1 3 2 2 2	I 1 1	I 1 1				
簡 略 分 級 式	(稲畑) Ilgℓr (畑)											

A 土壌区の特徴

この土壌区は泉郷統に属する。表土の厚さは15～20cm、有効土層は1m以上で深い。土壌は60cm内外までは浮石礫を含むTa-aの水による二次堆積で土性はSL～Sを呈して粗く、透水性は大きい。従つて表層に客土が行なわれている。しかし下層は植土にヨシを含む亜泥岩の出現するところもある。易分解性有機物含量は少なく、鉄含量は中庸、グライ化度は強く、還元化による水稻の根系障害のおそれがかなりある。保肥力、吸収力小、塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。有効態養分は窒素が多く、その他の養分は多いが、酸度は中庸で養分の豊否は多い。有害物質による障害はなく、豪雨による増冠水の心配はない。

B 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

C 地力保全上の問題点

土壌は粒径が粗く、土層そのものの透水性は大きいが、地下水水位が高いため、明渠、暗渠により排水することが必要である。次に有機物を施用し漸次深耕して作土層を深めることが大切である。

D 分布

北海道千歳市字泉郷、協和の一部

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

中 ノ 柵 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、腐植含量13%内外、土性はLiCが主でまれにSLの場合がある。色は10YRで彩土2、明度3内外である。膜状斑紋に富み一部ヨシの分解物を混入する。発達中程度の塊状構造であり外孔富む。ち密度1.5で疎。PH(H₂O)4.1。下層との境界はやや明瞭である。

第2層は厚さ8cm内外、腐植含量12%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度3内外である。小粒の浮石礫を含み、膜状斑紋を含みヨシの分解物を混入する。板状構造を呈し孔隙は少ない。ち密度1.7で疎。PH(H₂O)4.2。下層との境界はやや明瞭である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植を欠き、土性はSである。色は10YRで彩度2、明度7である。粒径2~3mmの浮石礫を含む。構造は単粒状で孔隙は富む。ち密度1.5で疎。膜状斑紋あり程度。下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ7cm内外で腐植を欠き、土性はSである。色は10YRで彩度1、明度7である。単粒状構造で孔隙は富む。ち密度1.4で疎。斑紋あり。下層との境界は明瞭である。3及び4層はTa-a層で混合したPH(H₂O)4.5。

第5層は腐植を欠く(触感)である。色は7.5Yで彩度1、明度5である。連結状構造を呈し、孔隙は少ない。管状の酸化沈積物がある。強グライ状を呈する。ち密度は7で頗る疎である。PH(H₂O)4.0。

代表的断面形態

(所在地) 恵庭市字漁太 Na恵51

第1層	0~15cm	腐植に頗る富む黒色(10YR3/2)のLiC、塊状構造、外孔富む、ち密度1.5で疎、膜状斑紋に富む、層界は平坦やや明瞭である。
第2層	15~23cm	腐植に頗る富み浮石礫を含む黒色(10YR3/1)のCL、板状構造で孔隙少ない、膜状斑紋を含み、ち密度は1.7で疎、層界は平坦やや明瞭である。
第3層	23~33cm	腐植を欠き、浮石礫を含む灰褐色(10YR7/2)のS、単粒状構造で孔隙富む、膜状斑紋あり、ち密度1.5で疎、層界漸変。
第4層	33~40cm	腐植を欠く、灰褐色(10YR7/1)のS、単粒状構造で孔隙富む、膜状斑紋あり、ち密度1.4で疎、層界平坦明瞭。第3、第4層はTa-a層。
第5層	40cm以下	腐植を欠く灰色(7.5Y5/1)のC、連結状構造で孔隙含む、管状、糸根状斑紋あり、ち密度7で頗る疎である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重 %	粒径組成 %				土性	現地 容積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	5.6	-	19.3	16.5	38.7	25.5	LiC	95.1	1.94	7.90	0.67	11.9	13.2
2	~23	4.7	-	26.2	18.7	33.7	21.4	CL	130.4	2.17	7.36	0.61	12.1	12.3
3	~40	0.1	-	94.0	2.0	2.9	1.2	S	146.8	2.17	0.74	0.03	2.5	1.2
4	~57	3.9	-	1.2	4.7	53.0	41.1	SiC	-	-	-	-	-	-

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			塩基 飽和度 %	磷酸 吸収 係	有効態 磷酸 mg/100g	30°CNH ₄ -N 発 生 量 mg/100g	遊離 酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	4.1	3.4	8.1	33.4	8.5	1.1	0.3	29.6	1.255	2.0	34.2	2.20
2	4.2	3.4	8.8	28.1	7.7	2.3	0.3	36.6	9.63	1.9	29.4	1.90
3	4.5	3.9	1.9	1.5	0.3	0.3	0.0	40.0	-	6.0	-	0.32
4	4.0	3.0	17.5	19.8	4.8	4.8	0.4	63.6	6.81	1.8	-	1.00

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては穂栄統があるが、穂栄統は集積土であり、本統とは、母材、堆積様式の点で区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9°C 年降水量 1,151mm (鳥松気候観測所)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、酸度矯正、施肥の合理化

F 分布 北海道恵庭市漁太、千歳市長都の一部

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
中ノ榊	llprn

② 土壌区別説明

中ノ榊統 — 中ノ榊区

示 性 分 級 式 (水田)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	表 土 の 粘 土 含 量	耕 土 の 風 乾 粘 土 着 性	湛 水 透 水 性	酸 化 性 機 物 元 素 量	土 地 の 水 潤 乾 湿 性	自 然 肥 沃 度	養 分 状 態	障 害 有 害 性	災 害 危 險 度																														
	t	d	g	p	ℓ	r	w	f	n	i	a																													
(稲) II	I	I	I	II	3	3	2	I	1	2	II	3	1	2	---	I	1	2	2	II	1	2	1	3	1	1	1	3	I	1	1	I	1	1						
(畑)																																								
簡 略 分 級 式											(稲)	II p r n					(畑)																							

A 土壤区の特徴

本土壤区は中ノ統に属する。表土の厚さは1.5～2.0cm、有効土層は1m以上で深い。表土の粘質性は強い。湛水状態に於ける透水性は中～小である。易分解性有機物含量は多、鉄は多、グライ化度は中程度で還元化による水稻の根系障害のおそれはある。保肥力大、固定力小、塩基の状態は中で、自然肥沃度は良好である。作土の有効態燐酸少なく、苦土中庸で、他の養分は多い。有害物質による障害はない。豪雨の場合増冠水の心配はない。

B 植生及び利用状況 水田

C 地力保全上の問題点

作土、心土共に強粘質で、その下部に砂礫層を狭在するが、更に下層は強粘質で湿性を呈するため、暗渠、明渠により排水することが必要である。また酸性も強いので矯正し、燐酸の増施も望まれる。

D 分布

北海道恵庭市字漁太、千歳市字長都の一部

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

舞 鶴 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm内外、腐植含量5～8%で土性はHCを主とする。色は2.5Yで彩度1、明度4内外である。塊状構造を呈し孔隙は富む～含む、膜状斑紋に富むち密度1.6で疎である。層界は波状明瞭である。

第2層は厚さ14cm内外でヨシの根を含み、土性はHCを主とする。色は5GYで彩度1、明度4である。均質連結状構造を呈し、糸根状、点状斑紋に富む。ち密度は1.6で疎、層界は平坦やや明瞭である。

第3層は厚さ11cm内外でヨシの根を少量含み、土性はHCを主とする。色は2.5Yで彩度1、明度4～5である。均質連結状構造を呈し、斑紋はなし。ち密度1.2で疎、層界は明瞭である。尚本層直下に3cm内外の砂層が存在する。

第4層は厚さ19cm内外でヨシの根を含み土性はCを主とする。色は2.5Yで彩度2、明度4である。均質連結状構造を呈し、斑紋はなし、ち密度は7で極めて弱い。層界は波状明瞭である。

第5層はヨシの根を少量含み土性はCを主とする。

代表的断面形態 (所在地) 恵庭市 No.恵27

第1層	0～13cm	腐植に富む灰褐(2.5Y4/1)のHC、塊状構造で孔隙富む、斑紋富む、ち密度1.6で疎、PH(H ₂ O)4.3、層界波状明瞭。
第2層	13～27cm	腐植に富む青灰(5GY4/1)のHC、均質連結状構造で孔隙なし、斑紋富む、ち密度1.6で疎、PH(H ₂ O)4.6、層界平坦やや明瞭。
第3層	27～41cm	ヨシの根を含む灰色(2.5Y4.5/1)のC(触感)、均質連結状構造で孔隙なし、以下斑紋なし、ち密度1.2で疎、PH(H ₂ O)4.9、層界平坦明瞭。尚本層の下部3cm内外は砂層(Ta-a?)。
第4層	41～60cm	ヨシの根を含む灰色(2.5Y4/2)のC(触感)、均質連結状構造で孔隙なし、ち密度7で頗る疎、層界は波状明瞭。
第5層	40cm以上	ヨシの根を含む灰色(5Y5/1)のC(触感)、均質連結状構造で孔隙なし、ち密度は疎。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重%	粒径組成 %				土性	現地 容積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～13	7.0	—	3.0	5.2	40.6	51.2	HC	126.0	2.37	3.99	0.32	12.6	6.6
2	～27	4.5	—	2.6	4.0	39.9	46.5	HC	158.2	2.48	3.74	0.30	12.7	6.2
3	～38	4.9	—	3.0	2.8	35.2	59.0	HC	133.3	2.18	5.13	0.34	14.9	8.6

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	燐吸収係数	有効態燐酸 mg/100g	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	4.3	3.4	8.1	27.6	14.6	2.9	0.6	65.9	966	0.9	17.3	2.16
2	4.6	3.5	3.8	26.7	17.0	1.5	0.7	71.5	930	1.3	15.7	2.02
3	4.9	3.9	2.5	29.3	23.6	1.0	0.3	86.3	642	1.5	—	1.08

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては春日統、漁太統、林田統などがある。春日統とは母材、堆積様式を異にし、漁太統、林田統とは母材の点で本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9°C 年降水量 1,151mm (島松気候観測所)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、酸度矯正、有機物の施用、施肥の合理化

F 分布 北海道恵庭市宇北島、漁太

調査及び記載責任者 高橋市十郎(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
舞鶴	IIIp IIr na

② 土壌区別説明

舞鶴統 — 無鶴区

示 性 分 級 式 (水田)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 効 土 の 層 の 厚 さ	表 土 の 粒 径	表 土 の 風 乾 粘 土 着 性	表 土 の 乾 硬 性	作 土 下 50cm の 透 水 性	作 土 下 50cm の 最 高 土 密 度	易 分 解 性 有 機 物 含 量	遊 離 酸 性 鉄 含 量	地 水 潤 潤 度	自 然 肥 力 大 小	保 固 力 小 大	養 分 豊 否	置 換 性	有 害 物 質 量	微 酸 性 土 素 度	障 害 性	災 害 危 險 度																
	t	d	g	p	ℓ	r	w	f	n	i	a																						
③Ⅲ	I	I	I	Ⅲ	3	3	I	1	2	Ⅱ	2	1	3	---	I	1	2	2	Ⅱ	1	1	1	3	2	1	1	3	I	1	1	Ⅱ	2	1
④畑																																	
簡 略 分 級 式 ③Ⅲp Ⅱrna ④畑																																	

A 土 壤 区 の 特 徴

この土壌区は舞鶴統に属する。表土の厚さは15cm以上、有効土層は1m以上で深い。全層強粘質で透水性は小さい。易分解性有機物含量は中庸、鉄含量は多いがグライ化度は強く、還元化による水稻の根系障害のおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態中庸で自然肥沃度は比較的高い。作土の有効態磷酸は少、窒素は中で他の養分は多いが酸度が強く、養分の豊否は中庸である。有害物質による障害性はないが、豪雨の場合増冠水を受ける危険性が多少ある。尚表層は極めて重粘で、作土が乾燥した場合耕起にかなりの労力を要する。

B 植生及び利用状況 水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

作土、心土ともに強粘質で透水性が悪いので、明渠、暗渠により排水することが必要である。表層は極めて重粘で、作土が乾き過ぎた場合は硬くて耕起碎土にかなりの労力を要する。この改善には漸次有機物を施用しつつ深耕しながら作土層を深めて、物理性を改善することが必要である。更に酸度矯正、磷酸の増施も考慮する必要がある。

D 分 布

北海道恵庭市北島、漁太

記載責任者 高橋 市十郎 （北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和46年3月31日

島 松 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量は4~5%、土性はSLを主とする。色は2.5Yで彩度1、明度4内外である。単粒構造を呈し、孔隙は富む。斑紋あり程度でち密度は1.4で疎である。PH(H₂O)5.3、層界は平坦やや明瞭である。

第2層は厚さ6cm内外で腐植を欠き土性はSLを主とする。色は7.5YRで彩度3、明度4内外である。単粒状構造を呈し孔隙は富む。斑紋は富みち密度は1.9で中である。PH(H₂O)5.7、層界は平坦やや明瞭である。

第3層は厚さ17cm内外で腐植を欠き土性はSLを主とする。色は2.5Yで彩度2、明度4内外である。単粒状構造を呈し孔隙は富む。斑紋を含みち密度は1.6で疎である。PH(H₂O)5.7、層界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ7cm内外で泥炭を含み土性はLを主とする。色は10YRで彩度3、明度4内外である。ち密度は1.1で疎である。層界は平坦やや明瞭である。

第5層は厚さ5cm内外で礫を含み土性はSを主とする。色は10YRで彩度2、明度6内外である。単粒状構造を呈し孔隙は含む。ち密度は1.5で疎、層界は平坦明瞭である。本層はTa-a層？。

第6層は厚さ30cm内外で土性はS~SLが主である。色は2.5GYで彩度1、明度4である。均質連結状構造を呈し、孔隙は含む。ち密度は1.1で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 広島町

No.広58

第1層	0~15cm	腐植を含む灰色(2.5Y4/1)のSL、単粒状構造を呈し、孔隙は富む、斑紋あり、ち密度1.4で疎、PH(H ₂ O)5.3、層界平坦やや明瞭。
第2層	15~21cm	腐植を欠く黄褐(7.5YR4/3)のSL、単粒状構造を呈し孔隙は富む、斑紋富む、ち密度1.9で中、PH(H ₂ O)5.7、層界平坦やや明瞭。
第3層	21~38cm	腐植を欠く灰色(2.5Y4/2)のSL、単粒状構造を呈し孔隙は富む、斑紋含む、ち密度1.6で疎、層界平坦明瞭
第4層	38~45cm	泥炭を含む黄褐(10YR4/3)のL、ち密度は1.1で疎、層界は平坦やや明瞭。
第5層	45~50cm	浮石礫を含む灰褐(10YR6/2)のS、単粒状構造を呈し孔隙は含む、ち密度1.5で疎、層界は平坦明瞭、本層はTa-a層？
第6層	50~80cm	腐植及び礫を欠く青灰(2.5GY4/1)のS~SL、均質連結状構造を呈し、孔隙は含む、ち密度は1.1で疎、本層以下強グライ状を呈する。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	3.9	-	30.5	42.0	15.3	12.2	SL	156.8	2.50	2.77	0.17	15.4	4.62
2	~21	3.6	-	27.1	50.9	14.0	8.0	SL	154.4	2.64	-	-	-	-
3	~38	3.7	-	36.0	48.6	10.4	5.0	SL	-	-	-	-	-	=

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			塩基飽和度 %	燐酸吸収係 数	有効態 燐酸 mg/100g	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離 酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.3	4.2	5.6	15.4	4.7	1.2	0.1	39.0	1.239	8.1	10.2	1.10
2	5.7	4.5	2.5	14.9	7.5	2.8	0.2	70.5	633	4.7	4.4	1.77
3	5.7	4.6	1.9	12.6	8.4	3.0	0.2	92.1	1.25	3.9	-	1.40

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係、本土壌統に隣接する主な土壌統としては、輪厚統、広島統、西ノ里統、石山統などがあるが、成因、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 河川两岸のほぼ平地

C 気候 年平均気温 7.6°C 年降水量 1,136mm (札幌管区气象台)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、有機物の施用

F 分布 北海道広島町の島松川流域

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
島松中央	Itl r n

(2) 土壌区別説明

島松中央統一 島松中央区

示 性 分 級 式 (水田)

土	表	有	表	耕	湛	酸	土	自	養	障	災				
壤	効	土	表	表	作	易	遊	透	保	置	有	微	有	增	
生	土	土	土	土	土	分	離	地	然	層	効	効	害	冠	
産	土	の	の	の	下	化	ラ	地	地	の	の	の	物	す	
力	の	の	の	の	50	解	イ	水	水	肥	性	性	質	水	
可	層	の	の	の	cm	性	化	潤	潤	定	態	量	的	り	
能	の	の	の	の	の	機	イ	乾	肥	塩	量	量	障	の	
性	厚	含	粘	粘	の	物	化	沃	状	基	量	量	害	危	
等	深	難	土	土	水	元	含	沃	沃	状	量	量	害	險	
級	さ	さ	易	易	性	性	量	湿	度	力	否	素	無	度	
	t	d	g	p	ℓ	r	w	f	n				i	a	
①	II	I	I	I	1	1	(2)	II	3	2	II	2	2	2	---
②	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

簡略分級式 (稻) II t ℓ r n (畑)

A 土壤区の特徴

この土壤区は島松中央統に属する。表土の厚さは 15 cm 以下で浅いが有効土層は 1 m 以上で深い。深さ 80 cm 内外までは S~SL の粗い土性を呈し、土層そのものの透水性は大きい。しかし地形的には谷間にあり、水位が高いため湿性を呈し、下層はヨシ、キよりなる泥炭あるいは亜泥炭の出現するところも多い。易分解性有機物含量は中、グライ化度中で、還元化により、水稻の根系障害のおそれがある。保肥力中、固定力小、塩基状態良好で自然肥沃度は高い。有効態養分は加里が少なく、苦土は多いが他は中庸で養分の豊否は中庸である。有害物質による障害性及び豪雨による増冠水の心配はない。

B 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

C 地力保全上の問題点

地下水位が高いため、暗渠により、排水することが必要である。また作土は浅いので有機物を施用しつつ漸次深耕し、作土層を深めるべきである。

D 分布

北海道広島町島松川の流域

記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

漁 太 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm内外で腐植に富み土性はLを主としSLの場合もある。色は10YRで彩度2、明度3内外である。塊状構造を呈し孔隙は含む、斑紋はあり程度、ち密度14で疎、PH(H₂O)4.6、層界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で浮石礫を含み土性はSを主とする。色は10YRで彩度2、明度7内外である。単粒状構造を呈し、孔隙は含む。ち密度は15で疎、層界は平坦明瞭、本層はTa-a層である。

第3層は厚さ17cm内外でヨシの根を含み土性はC(触感)である。色は2.5Y、彩度2、明度4内外である。構造は本層以下は均質連結状構造を呈し、斑紋あり程度である。ち密度は8で頗る疎である。層界は漸変である。

第4層はヨシの根を含み土性はC(触感)である。色は5Yで彩度1、明度5内外である。強グライ状を呈し、本層下部に低位泥炭が存在するところもある。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 恵庭市

No.恵56

第1層	0~13cm	腐植に富む灰褐色(10YR 3/2)のL、塊状構造を呈し孔隙は含む、斑紋あり、ち密度14で疎、PH(H ₂ O)4.6、層界平坦明瞭。
第2層	13~23cm	浮石礫を含む灰褐色(10YR 7/2)のS、単粒状構造を呈し孔隙は含む、斑紋なし、ち密度15で疎、層界平坦明瞭。
第3層	23~40cm	ヨシを含む灰色(2.5Y 4/2)のC(触感)、均質連結状構造を呈し孔隙なし、斑紋あり程度、ち密度8で頗る疎、層界漸変。
第4層	40cm以下	ヨシを含む灰色(5Y 5/1)のC(触感)、均質連結状構造を呈し孔隙なし、斑紋あり程度、ち密度は頗る疎、強グライ状を呈する。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土性	現 地 容 積 重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	全窒素	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	3.6	-	15.6	47.3	23.3	13.8	L	-	-	-	-	-	-

層厚	PH		置換酸 度 Y ₁	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態 燃 酸 mg/100g	30°CNH ₄ -N 発 生 量 mg/100g	遊 離 酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	4.6	3.8	3.8	18.3	7.6	1.5	0.5	52.5	47.9	2.1	16.0	13.0

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては東ノ里統、穂栄統があるが成因、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 1,151mm (鳥松気候観測所)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、深耕、有機物の施用、施肥の合理化

F 分布 北海道恵庭市字北島

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
漁 太	II trf

② 土壌区別説明

漁 太 統 一 漁 太 区

示 性 分 級 式 (水田)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 土 の 層 の 含 深 さ	表 土 の 風 乾 粘 土 着 硬 さ	表 土 の 乾 透 性	作 土 下 50cm の 最 高 土 密 性	易 遊 離 化 機 物 含 量	地 域 の 水 潤 乾 湿 性	自 然 肥 沃 度	養 分 定 状 力 態	障 害 物 質 の 有 害 性	微 酸 性 量 要 素 度	障 害 物 質 の 有 害 性	災 害 物 質 の 有 害 性	地 冠 水 べ り の 危 険 度
t d g p	ℓ	r	w	f	n	i	a						
① II II I I I 1 1 (2)													
② II II I I I 1 1 (2)													
簡 略 分 級 式	① II trf	②											

A 土壤区の特徴

この土壤区は漁太統に属する。表土の厚さは15cm内外で浅いが、有効土層は1m以上で深い。湛水状態における透水性は小さい。易分解性有機物含量中、鉄含量中、グライ化度は中で還元化による水稻の根系障害のおそれがある。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。有効態燐酸少く、その他の養分は比較的多いが酸度は強い。有害物質による障害および豪雨による増冠水の心配はない。

B 植生及び利用状況 水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

透水性の悪い土壤であるから暗渠、明渠による排水の促進、作土層が浅いから有機物を施用しながら徐々に深耕する必要がある。施肥の面では燐酸の増肥及び酸度も強いので矯正の必要がある。

D 分布

北海道恵庭市北島

記載責任者 高橋 市十郎（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和46年3月3日

中 ノ 里 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12cm内外で腐植含量5~10%、土性はLiCを主とする。色は2.5Yで彩度2、明度4内外である。疎なく均質連結状構造を呈し孔隙は少ない。斑紋はあり程度でち密度は下層まで疎である。PH(H₂O)5.1、層界は平坦やや明瞭である。尚本層は客土を混入している。

第2層は厚さ17cm内外でヨンを主とする低位泥炭である。色は7.5YRで彩度2内外、明度4内外で分解程度は中庸である。層界は漸変である。

第3層はヨン、シダ類の低位泥炭に富むC（触感）である。色は7.5YRで彩度2、明度4~5である。層界は漸変である。

第4層は低位泥炭を含むC（触感）である。色は10YRで彩度2、明度4~5である。作土直下より過湿状を呈し、湧水面90cm内外である。

代 表 的 断 面 形 態 （所在地） 広島町 Nq広48

第1層	0~12cm	腐植に富む灰色(2.5Y 4/2)のLiC、均質連結状構造を呈し孔隙含む、斑紋あり程度でち密度は疎、PH(H ₂ O)5.1、層界平坦やや明瞭、客土混入
第2層	12~29cm	ヨンを主体とする低位泥炭層である。色は灰褐(7.5YR 4/2)で分解程度は中、層界は漸変

第3層	29~53cm	泥炭に富む灰褐(7.5YR 4.5/2)のC(触感)、層界は漸変
第4層	53cm以下	泥炭を含む灰褐(10YR 4.5/2)のC(触感)、均質連続状構造を呈し、孔隙なし、斑紋はなく、ち密度は疎、湧水面は90cm内外

代表的断明の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成%				土性	現地 容積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~12	4.3	-	35.6	8.1	28.5	27.8	LiC	-	-	5.16	0.33	15.8	8.6

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			塩基 飽和度 %	燐 吸収 係	酸 収 数	有効態 燐 酸 mg/100g	30°CNH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離 酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O						
1	5.1	4.3	2.5	20.2	7.5	2.2	0.3	49.5	602	3.1		16.1	0.94

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては穂栄統、南ノ里統、などがある。穂栄統は全層低位泥炭であり、南ノ里統は畑を主体とする洪積層で、成因、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩/ヨシ

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9°C 年降水量 1,151mm (島松気候観測所)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、施肥の合理化

F 分布 北海道広島町中ノ里、北ノ里の一部

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
中ノ里	ll t p r n

(2) 土壌区別説明

中ノ里統一中ノ里区

示 性 分 級 式 (水田)

土表有表耕	湛	酸	土	自	養	障	災
壤効土表表表	作	易遊グ	透保濕	保固土	置有微酸	有物増地	冠す
生土土土	水土土	化分離	地	然	層分換	害理	水べり
産土の土土	下50	解酸	の	の	の性態	物質的	害の
力層ののの	乾透cm	性化イ	の水水潤	肥肥定	塩の石苦加燐窒珪	害	害の
可の層のの	粘度の最	機鉄	の	沃	基灰土里酸素酸	障	危危
能厚含難土着硬	水土ち密	物含化	乾	沃	状含	有害	險險
性等深	性性さ	元含量度	性性度	力力態	量	無性	度度
級ささ量易	性	性	濕	度	否	性	性
t d g p	ℓ	r	w	f	n	i	a
Ⅱ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅱ Ⅲ 3 2	Ⅰ 1 2	Ⅱ 2 2 3	----	Ⅰ 1 1 2	Ⅱ 1 1 2 3 2 2 1 2	Ⅰ 1 1	Ⅰ 1 1
Ⅱ	----	----	----	----	----	----	----

簡略分級式 (Ⅱ) ℓ t p r n (Ⅱ)

A 土壤区の特徴

この土壤区は中ノ里統に属する。表土の厚さは12cm内外で薄く、直下にヨシを主材とする低位泥炭の出現するところが多い。しかし下層は鉍質土壌の混入が多くなる。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粘質で、下層も粘質であるため、湛水状態における透水性は小さい。易分解性有機物含量は中庸、鉄は中、グライ化度は強く、還元化による水稻の根系障害のおそれがある。保肥力大、固定力極小、塩基状態中庸で自然肥沃度は高い。表土の有効態燐酸含量は少ないが、石灰、苦土は多く、他の養分は多く、養分の豊否は中庸である。有害物質による障害及び豪雨の場合の増冠水の心配はない。

B 植生及び利用状況

水田(一毛作田)

C 地力保全上の問題点

かなり暗渠排水が施工されているが、尚湿性を呈している、幹線明渠等による排水施設の完備、施肥の面では燐酸の増施及び作土層の深化を図る必要がある。

D 分布

北海道広島町中ノ里、北ノ里の一部

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

林 田 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm内外で腐植含量5~10%、土性はSLを主とし、Lの場合もある。色は10YRで彩度1、明度3内外で浮石礫を含む。細塊状構造を呈し、中小孔富む、斑紋あり程度、ち密度15で疎である。PH(H₂O)4.6、層界は平坦やや明瞭である。尚本層下部にTa-aの薄層を挟在することが多い。

第2層は厚さ8cm内外、ヨシを僅かに混入し、土性はHCを主とする。均質連結状構造を呈し管状斑紋含む、ち密度は13で疎である。PH(H₂O)4.5、弱グライ状を呈する。層界は漸変である。

第3層は厚さ20cm内外でヨシを僅かに混入し、土性はHCを主とする。色は2.5Yで彩度1、明度5である。均質連結状構造を呈し管状斑紋あり、ち密度は10で疎、PH(H₂O)4.3、グライ層である。層界は漸変である。

第4層はヨシを僅かに混入し、土性はHCを主とする。色は10Yで彩度1、明度5~6である。均質連結状構造を呈し管状斑紋あり程度、ち密度9で頗る疎、PH(H₂O)4.0である。尚本層は強グライ状を呈する。

代表的断面形態

(所在地) 恵庭市字林田 No.恵57

第1層	0~13cm	腐植に富む黒色(10YR3/1)のSL、浮石礫を含み細塊状構造を呈し中小孔富む、点状斑紋あり、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)4.6、層界平坦やや明瞭
第2層	13~21cm	ヨシを含む灰褐(10YR4/2)のHC、均質連結状構造を呈し、管状斑紋含む、ち密度は13で疎、PH(H ₂ O)4.5、層界漸変
第3層	21~40cm	ヨシを僅かに混入する灰色(2.5Y5/1)のHC、均質連結状構造を呈し、管状斑紋あり、ち密度は10で疎、PH(H ₂ O)4.3、層界漸変、本層はグライ状を呈する。
第4層	40cm以上	ヨシを僅かに混入する青灰(10Y5.5/1)のHC、均質連結状構造を呈し、管状斑紋少しあり、ち密度は9で頗る疎、PH(H ₂ O)4.0、本層は強グライ状を呈する。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重%	粒径組成%				土性	現地 容積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	2.4	—	75.2	7.5	8.0	9.3	SL	133.5	2.64	3.58	0.27	13.1	6.0
2	~21	4.0	—	6.8	3.4	15.8	73.9	HC	126.5	2.45	6.43	0.44	14.5	10.7
3	~40	7.6	—	0.8	0.3	26.5	72.3	HC	133.6	2.71	—	—	—	—
4	40~	4.4	—	0.2	0.3	45.4	54.1	HC	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	燐吸収係	酸収数	有効態燐酸 mg/100g	3.0°C NH ₄ -N 発 生 量 mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O						
1	4.6	3.8	3.1	8.0	2.5	0.7	0.2	42.5	379	4.5	13.1	0.70	
2	4.5	3.6	5.6	26.8	17.0	4.5	0.4	81.7	884	2.4	21.9	1.00	
3	4.3	3.3	12.5	26.9	10.1	8.9	1.5	72.5	857	2.9	—	1.00	
4	4.0	3.0	29.4	20.9	6.0	2.6	1.6	44.0	588	3.3	—	1.10	

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては、舞鶴統、東ノ里統、などがある。本統は頁岩質のものを母材とするか、舞鶴統、漁太統は凝灰岩質のものを母材とし更にヨシの混入程度が違い東ノ里統とは作土の土性が著しく異なり、母材、堆積様式の違いにより本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9°C 年降水量 1,151mm (島松気候観測所)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、施肥の注意

F 分布 北海道恵庭市字林田

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
林 田	ll tprfn

② 土壌区別説明

林 田 統 — 林 田 区

示成分級式(水田)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕作土の易解性	表土の風乾粘土の粘性	表土の乾粘土の粘性	耕作土の透水性	耕作土の最高土密性	遊離酸性還元有機物含量	遊離鉄化合物含量	土壌湿度	自然肥沃度	固定肥力	置換性	有効態	微量	微酸性	有害物質の障害	物理的障害	増冠すべりの危険度
	t	d	g	p		l	r	w	f	n	i	a							
③ Ⅱ	Ⅱ	I	I	Ⅲ 3 3 2	I 1 2	Ⅲ 2 3 3	---	Ⅱ 2 1 3	Ⅲ 3 2 2 3 2 1 1 3	I 1 1	I 1 1								
④																			
簡略分級式	③ Ⅱ t p r f n		④																

A 土壌区の特徴

この土壌区は林田統に属する。表土の厚さは13cm内外で薄い、有効土層は1m以上で深い。表土の土性はTa-aの浮石砂を混入するのでやや粗く、SLを呈するが、少し深く、耕起する場合は心土層以下は極めて強粘質な土壌であるから、耕起、碎土にも労力を要し、又透水性は小さい。易分解有機物含量は中、鉄は少なく、グライ化度は強く、還元化による水稻の根系障害のおそれがある。保肥力は中、固定力はごく小、塩基状態は不良で自然肥沃度は中庸である。作土の有効態成分は磷酸、石灰が少く、他の養分は中庸であるが酸度が強い。有害物質による障害及び豪雨による増冠水の心配はない。

B 植生及び利用状況

水田(一毛作田)

C 地力保全上の問題点

心土層以下は強粘質で透水性悪いので暗渠、及び明渠排水を完備して、排水を促進する必要がある、更に作土層が浅いから有機物を施用しながら徐々に深耕することも大切である。施肥の面では磷肥の増施と、酸度矯正の必要がある。

D 分布

北海道恵庭市字林田

記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

東 ノ 里 統

(1) 土壤統の概説

A 壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外以下で腐植含量は3~6%、土性はHCである。色は7.5Yで彩度1、明度5内外である。礫なく均質連結状構造を呈し孔隙はなし、糸根状斑紋僅かにあり、ち密度は8で疎、PH(H₂O)5.2、層界は平坦明瞭である。尚本層下部4cm内外は鋤床層で色は2.5Yで彩度2、明度4~5である。ち密度は12~15で疎で糸根状斑紋に富む。

更に本層直下3cm内外はTa-aの未風化層で土性は浮石礫を含むSである。色は2.5Yで彩度2、明度7である。単粒状構造を呈し、外孔は富む。ち密度は15で疎である。

第2層は厚さ10cm内外で泥炭を含み、土性はHCである。色は2.5Yで彩度2、明度6である。均質連結状構造を呈し孔隙はない。本層上部2~3cmは曇状斑紋に富む。ち密度は10で疎、グライ状を呈する。

第4層は28cm以下で泥炭を含み土性はHCである。色は2.5Yで彩度1、明度6内外である。均質連結状構造を呈し孔隙はない。斑紋なく、ち密度9で頗る疎である。本層はグライ状を呈する。

代 表 的 断 面 形 態 (所在地) 広島町字東ノ里 No.広43

第1層	0~15cm	腐植に富む灰色(7.5Y 5/1)のHC、均質連結状構造を呈し、孔隙なし、糸根状斑紋あり程度、ち密度8で疎、層界平坦やや漸変、尚本層下部4cm内外は鋤床層で土性はHC、色は灰色(2.5Y 4.5/2)で孔隙なし、糸根状斑紋富む、ち密度は12~15で疎、混合したPH(H ₂ O)5.2、更に本層直下3cm内外はTa-aの未風化層で浮石礫を含む灰色(2.5Y 7/2)のS、単粒状構造を呈し、ち密度は15で疎
第2層	18~28cm	泥炭を含む灰色(2.5Y 6/2)のHC、均質連結状構造を呈し、孔隙なし、本層の上部3cm内外は曇状斑紋に富む。ち密度は10で疎、層界は漸変、グライ状を呈する。
第3層	28~50以上	泥炭を含む灰色(2.5Y 6/1)のHC、均質連結状構造を呈し、孔隙なし、斑紋なくち密度9で頗る疎、グライ状を呈する。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	5.7	-	8.3	4.5	32.8	54.4	HC	154.6	2.59	3.40	0.22	15.8	5.7
2	18~28	7.1	-	3.1	2.9	27.1	66.9	HC	156.4	2.65	4.28	0.25	17.1	7.1
3	~50	6.7	-	0.6	0.7	25.0	73.7	HC	140.1	2.57	4.02	0.25	16.4	6.7

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			塩基飽和度 %	燐酸吸収係 数	有効態燐酸 mg/100g	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.2	4.2	3.8	22.0	14.2	2.6	0.3	77.7	958	2.6	11.4	1.96
2	5.3	4.2	3.1	31.9	12.5	10.4	0.4	73.0	1049	2.3	17.9	0.90
3	5.0	4.0	8.8	30.5	8.6	11.0	0.4	65.6	585	1.6	-	1.03

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては拓北統、舞鶴統、漁太統などがある。本統は頁岩質を母材とするが、舞鶴統、漁太統は凝灰岩質を主材とする、拓北統は泥炭層を夾在するので、成因、母材、堆積様式の点で本統と異なるので区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9°C 年降水量 1,151mm (島松気候観測所)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、酸性矯正

F 分布 北海道広島町字東ノ里

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
東ノ里	IIIp IItra

(2) 土壌区別説明

東ノ里統一東ノ里区

示性分級式（水田）

土壌	表土	有効土	耕土	表土	表土	表土	耕作土	酸化土	遊離土	湿潤地	自保土	養分	置換	有害	微酸	障害	災
産力可能性等	厚	深	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t	d	g	p	l	r	w	f	n	i	a						
③	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	3	3	3	Ⅰ	1	2	Ⅱ	2	1	3	—	—	—
④																	
簡略分級式 ③ Ⅲp Ⅱtra ④																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は東ノ里統に属する。表土の厚さは15cm以下で薄い、有効土層は1m以上で深い。土性は全層強粘質で湛水状態における透水性は小さい。又、表土が乾くと耕起、碎土がかなり困難である。易分解性有機物含量は中、鉄含量は多、グライ化度は強く、還元化により水稻の根系障害のおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態中で自然肥沃度は高い。作土の有効態成分は、燐酸が少なく、窒素が中で、その他の養分は比較的多く、養分の豊否は多い。有害物質による障害性はないが、豪雨時の増冠水の危険性が多少ある。

B 植生及び利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

作土、心土共に強粘質で透水性が悪いので暗渠、明渠により排水することが必要である。既に暗渠の施工済の所もあるが、基幹明渠の完備により排水を促進する必要がある。粘質な土壤で耕耘にかなりの困難を伴うが、有機物を増施して徐々に作土層の深化を図ることにより物理性を改善することも必要である。施肥の面では燐肥の増肥が望まれる。

D 分布 北

北海道広島町字東ノ里

記載責任者 高橋 市十郎 （北海道立中央農業試験場）

日付 昭和46年3月31日

拓 北 統

(1) 土壤等の概説

A 土壤等の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12cm内外で腐植含量は4~8%、土性はLiCを主とする。色は2.5Yで彩度1明度4内外である。礫なく均質連結状構造を呈し、中小孔少ない。斑紋を含み、ち密度はいずれも疎である。PH(H₂O) 4.9 グライ状を呈する。層界は平坦明瞭である。尙本層下部にTa-aの未風化浮石砂層を挟在する場合がある。

第2層は厚さ18cm内外でヨシを主材とする低位泥炭を主体とし、鉍質土壤を多少混入する。泥炭の分解程度は中庸である。色は7.5YRで彩度2、明度4内外である。PH(H₂O)5.0、層界は漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で泥炭を多少混入し、土性はHCを主とする。色は2.5Yで彩度2、明度5である。均質連結状構造を呈し、孔隙はない。斑紋なく、PH(H₂O) 5.2、層界は漸変である。尙本層は弱グライ状を呈する。

第4層は50cm以下で泥炭を多少混入し土性はC(触感)を主とする。色は2.5Yで彩度2、明度5である。礫なく均質連結状構造を呈し、孔隙はない。

斑紋なくち密度は疎である。本層は弱グライ状を呈し湧水面は80cm内外である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 広島町字拓北 NO、広 4 4

第1層	0~12cm	腐植に富む灰色(2.5Y ¹ / ₄)のLiC、均質連結状構造を呈し、中小孔含む。斑紋含みち密度は疎、PH(H ₂ O) 4.9、層界は平坦明瞭、尙本層直下に厚さ2cm内外のTa-aの未風化層の存在する場合がある。
第2層	12~30cm	ヨシを主材とする灰褐(7.5YR ⁴ / ₂)の低位泥炭土で鉍質土壤を混入、泥炭の分解程度は中、PH(H ₂ O) 5.0、層界漸変。
第3層	30~50cm	泥炭を多少混入する灰色(2.5Y ⁵ / ₂)のHC、均質連結状構造を呈し、孔隙なし。斑紋なくち密度は疎、PH(H ₂ O) 5.2、層界漸変。
第4層	50cm以上	泥炭を多少混入する灰色(2.5Y ⁵ / ₂)のC(触感)均質連結状構造を呈し孔隙なし。斑紋なくち密度は疎、尙3層以下は弱グライ状を呈し、湧水面は80cm内外。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 礫含量		半径組成%				土性	現地 容積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植 %
		%	重量%	粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~12	4.0	—	31.2	10.5	18.5	39.8	LiC	130.4	2.52	4.85	0.30	16.0	81
2	~30	8.4	—	—	—	—	—	—	91.5	2.07	13.87	0.89	15.5	23.1
3	~50	7.8	—	1.8	0.7	43.6	53.9	HC	104.4	2.41	8.61	0.54	16.1	14.4

層位	PH		置換酸 度 Y	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態 磷酸 Mg/100g	30CNH ₄ -N 発生量 Mg/100g	遊離 酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	M ₂ O	K ₂ O					
1	4.9	4.0	6.9	21.4	6.7	5.2	0.3	57.0	5.42	2.7	19.4	1.37
2	5.0	4.0	5.0	46.8	15.2	3.8	0.5	41.7	10.29	1.1	66.0	1.40
3	5.2	4.1	4.4	41.8	17.3	5.2	0.4	54.8	9.29	1.2	—	0.90

(※印は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては、穂栄統、東ノ里統などがあるが、穂栄統は全層低位泥炭であり、東ノ里統は作土直下に泥炭層がなく、成因 堆積様式の点で本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩/ヨシ

A-4 堆積様式 水積 (河成)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9 °C 年降水量 1,151 mm (島松気候観測所)

D 植生及び利用状況 水田 (一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、酸性矯正、

F 分布 北海道広島町字拓北

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌等の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
拓 北	Itprn

② 土壌区別説明

拓北統 — 拓北区

穂 栄 統

(1) 土壤等の概説

A 土壤等の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm内外で腐植含量10%内外、土性はLiCを主とする。色は2.5Yで彩度2、明度4内外である。疎なく塊状構造を呈し、中小孔富む、斑紋を含み、ち密度は1.3で疎である。PH(H₂O) 4.4、層界は平坦や、明瞭である。尙本層は客土を混入し直下にTa-aの未風化層が舌層に残っている場合がある。

第2層は厚さ15cm内外でヨシ、ハンノキなどを主材とする低位泥炭層である。色は7.5YRで彩度3、明度3内外である。泥炭の分解程度は中庸で、ち密度は8で頗る疎である。PH(H₂O) 4.2層界は漸変である。

第3層は厚さ22cm内外でヨシ、ハンノキなどを主材とし、ゼンマイを混入する低位泥炭層である。色は7.5YRで彩度2、明度3である。泥炭の分解程度はや、不良である。PH(H₂O) 4.2で層界は漸変である。

第4層は50cm以下で性状は3層とほぼ同様で分解程度不良である。

代表的断面形態

(所在地) 恵庭市字穂栄 NO、恵20

第1層	0～13cm	腐植に富む～頗る富む (2.5Y 4/2) のLiC塊状構造で中小孔富む、斑紋含み、ち密度1.3で疎、PH(H ₂ O) 4.4、層界平坦や、明瞭
第2層	13～28cm	ヨシ、ハンノキを主材とする黄褐 (7.5YR 3/3) の低位泥炭土、泥炭の分解程度中庸、ち密度は8で疎、PH(H ₂ O) 4.2層界は漸変、
第3層	28～50cm	ヨシ、ハンノキを主材とし、ゼンマイを混入する灰褐 (7.5YR 3/2) の低位泥炭土、泥炭の分解程度や、不良、PH(H ₂ O) 4.2層界は漸変
第4層	50cm以下	第3層と同様の性状を呈し、分解程度不良

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地 容積重 g	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	4.0	—	28.1	7.9	32.2	31.7	LiC	124.0	2.18	5.98	0.44	13.7	10.0
2	~28	11.4	—	—	—	—	—	—	79.8	1.48	—	—	—	—
3	~50	11.3	—	—	—	—	—	—	97.0	2.29	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度Y1	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基me/100			塩基 飽和度 %	燐酸 吸収係数	有効態 燐酸 mg/100g	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離 酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	4.4	3.5	9.4	23.4	7.8	1.0	0.7	40.6	50.4	2.5	24.1	1.20
2	4.2	3.4	8.8	87.6	20.2	3.6	0.6	27.8	41.8	0.7	92.0	2.03
3	4.2	3.4	8.8	86.1	14.6	2.9	0.1	20.4	36.6	0.4	—	2.10

(※印は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては、中ノ里統、拓北統、漁太統、北島統、下北統などがある。北島統、下北統とは母材が異なり、中ノ里統、拓北統、漁太統とは母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 ヨシ、ハシノキ

A-4 堆積様式 集積 (低位泥炭土)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9°C 年降水量 1,151mm (島松気候観測所)

D 植生及び利用状況 水田 (一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、客土、酸性矯正、施肥の合理化

F 分布 北海道恵庭市字穂栄、広島町

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
穂栄-1	II tplrfn
穂栄-2	I tplrfn

穂栄統一1区

② 土壤区別説明

示性分級式（水田）

土壌生産力可能性等級	表土の有効層の厚さ	表土の耕転の難易性	表土の風乾の速さ	表土の透水性	50cm以下の土の最高密度	遊離酸の還元性有機物含量	グライ化度	地水の乾燥性	湿度	自然肥の肥沃力	固肥の固定力	土層の塩基状態	置換性石灰土の含量	有効態の苦土含量	有効態の燐素含量	有効態の窒素含量	有効態の珽素含量	微量酸の素度	障害性	物理的障害の有害性	増冠水の危険度	地すべりの危険度	
④	II	I	I	II	3	3	2	II	3	2	3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
④	II	I	I	II	3	3	2	II	3	2	3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
簡略分級式 ④ II t P l r f n ④																							

A 土壤区の特徴

この土壤区は穂栄統に属し主として恵庭市に分布する。表土の厚さ13cm内外で薄い、有効土層は1m以上で深い。表土は強粘質で粘着性強いが、心土層以下の泥炭層は透水性が大きい。しかし、全体に湿性を帯びており、易分解性有機物含量は多、鉄は中、グライ化度は強で堪水状態下では還元が進み、水稻の根系障害のおそれはある。保肥力大、固定力ごく小、塩基状態不良で養分の豊否は中庸である。作土の有効態成分は、燐酸が少なく、窒素、苦土は多いが他の養分は中庸で豊分の豊否は中庸である。しかし酸度は強い。有害性物質による障害性及び豪雨の場合に増冠水による心配はない。

B 植生及び利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

排水が悪いので基幹明渠による全体的な排水及び心土層の泥炭層の浅く出現するところは、客土を加えた作土層の深化、及び施肥の面では、燐肥の増肥、酸性矯正も必要である。

D 分布

北海道恵庭市字穂栄

記載責任者 高橋市十郎 （北海道立中央農業試験場）

日付 昭和46年3月31日

穂栄統一 2 区

② 土壤区別説明

示性分級式 (水田)

土壌	表土	有効土層	表土	表土	表土	作土	作土	易分解性有機物	遊離酸化鉄	グライ化	透水性	保湿度	自然肥	固肥	土層	置換	有効態	微量	微酸性	障害	物理的障害	増冠水の危険	地すべりの危険
産力可能厚等級	の層の深さ	の層の深さ	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性	の風乾土着性
t d g P	l	r	W	f	n	i	a																
④ II I I II 3 2 2 II 3 3 II 3 2 3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
④																							
簡略分級式	④	II t P l r f n	④																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は穂栄統一に属し、主として広島町に分布する。穂栄 1 区とはほぼ同様の堆積様式及び性状を示すが、作土直下の Ta-a を混入した泥炭層がやや厚く、酸性の程度が少し弱い。

表土は 1.5 cm 以下で薄く、有効土層は 1 m 以上で深い。作土層は粘質で粘着性が強いが、心土層以下は泥炭層となり透水性は大きい。易分解性有機物含量は多、鉄は中、グライ化は強で、堪水化では還元化により水稻の根系障害のおそれがある。保肥力大、固定力ごく小、塩基状態不良で肥沃度は中庸、有効態成分は磷酸が少く、加里中庸で他の養分は多く、養分の豊否は中庸である。有害物質による障害性、豪雨の場合の増冠水の心配はない。

B 植生及び利用状況

水田 (一毛作田)

C 地力保全上の問題点

幹線明渠による全体的な排水、粘質土壌の客土及び、作土層が浅いので深耕による作土層の深化、施肥の面では、磷肥の増施が必要である。

D 分布

北海道広島町

記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和 46 年 3 月 31 日

北 島 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14cm内外で腐植含量5~8%、土性はSLを主とし客土の混合程度によつてはL~CLの場合もある。色は10YRで彩度2、明度3内外である。礫を含み、塊状構造を呈して孔隙は富む、斑紋を含みち密度は9で頗る疎である。

PH(H₂O) 4.6、層界は平坦や、明瞭である。

第2層は厚さ16cm内外でヌマガヤを主とする中間泥炭土である。色は7.5YR 彩度2、明度3内外である。分解程度は中庸で、斑紋なくち密度8で頗る疎である。層界は漸変である。

第3層は厚さ30cm内外でヌマガヤを主とし、ヨシ、ハンノキを混入する中間泥炭土である。色は7.5YRで彩度2、明度2内外である。泥炭の分解程度は不良である。層界は漸変である。

第4層は60cm以下でヌマガヤを主材としゼンマイを混入する中間泥炭土である。色は2.5Yで彩度4、明度4である。泥炭の分解程度は不良である。湧水面は60cm内外である。

代表的断面形態

(所在地) 恵庭市字北島 NO. 恵17

第1層	0~14cm	腐植を含む~富む灰褐(10YR $\frac{3}{2}$)のSL、塊状構造で孔隙富む、斑紋を含み、ち密度は9で頗る疎 PH(H ₂ O) 4.6、層界平坦や、明瞭
第2層	14~30cm	ヌマガヤを主材とし、ヨシを混入する灰褐(7.5YR $\frac{3}{2}$)の中間泥炭土、分解程度は中庸で、ち密度は8頗る疎、層界漸変
第3層	30~60cm	ヌマガヤを主材とし、ヨシ、ハンノキを混入する黒色(7.5YR $\frac{2}{2}$)の中間泥炭土、分解程度はや、不良、層界は漸変
第4層	60cm以下	ヌマガヤを主材としゼンマイを含む黄褐(2.5Y $\frac{4}{4}$)の中間泥炭土、分解程度は不良、湧水面は60cm内外

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地 容積重 g	真比重	※ 全炭素 %	% 全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~14	4.0	—	44.3	10.9	24.3	20.5	CL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離 酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	4.6	3.8	6.3	23.6	7.1	1.0	0.2	35.2	788	3.3	23.3	0.98

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては穂栄統、春日統などがあるが、母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 ママガヤ

A-4 堆積様式 集積 (中間泥炭)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9°C 年降水量 1,515mm (島松気候観測所)

D 植生及び利用状況 水田 (一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、客土、酸性矯正

F 分布 北海道恵庭市字北島

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤等の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
北島	II ℓ rfn

② 土壤区別説明*

北島統一北島区

示性分級式（水田）

土壌	表層	表層	耕作	酸化	土質	自然	養分	位置	有害	微量	障害	災害	増冠	地盤	
産刀可能	効土層の厚さ	表層の難着性	表層の粘着性	土質の透水性	土質の風乾性	土質の易離散性	土質の還元性	土質の保湿度	土質の固定力	土質の置換性	有害物質の量	微酸量	物理的障害の有無	増冠水の危険度	地盤の危険度
等深	さ	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	t d P	l	r	W	f	n	否	性	性	性	性	性	性	性	性
(14)	II	I	I	I	2	1	I	3	3	II	3	2	3	1	2
(14)	-----														
簡略分級式 (14) II ℓ rfn (14)															

A 土壤区の特徴

この土壤区は北島統一に属する。表土の厚さは1.4cm内外で薄く、有効土層は1m以上で深い。表土は粘質で粘着性は強いが、心土層以下は泥炭層で土層そのものの透水性は大きい。

しかし全般的に周囲の水位が高く、湿性を呈している。易分解性有機物含量は多く、鉄は中、グライ化度は強く、還元化により水稻の根系障害のおそれがある。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は中庸である。作土の有効態成分はリン酸が少なく、窒素は多いが他の養分は中庸で養分の豊否は中庸である。酸度は強い。有害物質による障害性及び豪雨の場合の増冠水による心配はない。

B 植生及び利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

幹線明渠の完備による周囲全般的な排水の促進が必要で、泥炭層の浅く出現するところは客土が有効であり、その後徐々に深耕し、施肥の面ではリン酸の増肥及び酸度矯正の必要がある。

D 分布

北海道恵庭市

記載責任者 高橋市十郎（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和46年3月31日

下 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、腐植含量10%内外SLを主とするが、客土の混入程度ではL~CLの場合も多い。色は10YRで彩度2、明度3である。際なく細塊状構造を呈し、中小孔含む、斑紋はあり程度でち密度は8で頗る疎である。PH(H₂O) 4.6、層界は平坦明瞭である。尙本層は客土混入層で本層直下にはTa-a(s)が舌状に存在することが多い。

第2層は厚さ7cm内外でミズゴケを主とする高位泥炭層である。色は7.5YRで彩度2、明度3内外である。泥炭の分解度は良好である。PH(H₂O) 4.4、層界は平坦や、明瞭である。

第3層は厚さ2.5cm内外でミズゴケ、ヌマガヤなどを主材とする高位泥炭層である。色は7.5YRで彩度2、明度2内外である。泥炭の分解度は中庸である。PH(H₂O)4.2、層界は漸変である。

第4層は厚さ8cm内外でミズゴケ、ヌマガヤなどを主材とする高位泥炭層である。色は10YRで彩度4、明度3内外である。分解度は不良である。PH(H₂O) 4.4、層界は漸変である。

第5層は5.5cm以下でミズゴケ、ヌマガヤなどを主材とする高位泥炭で分解度は不良である。

代表的断面形態

(所在地) 恵庭市 NQ恵10

第1層	0~15cm	腐植に富む灰褐(10YR ^{3/2})のCL、細塊状構造を呈し中小孔含む、斑紋あり程度、ち密度8で頗る疎、PH(H ₂ O)4.6、層界平坦明瞭、尙本層は客土混入層で本層直下にはTa-a(s)を舌状に挟在する場合が多い。
第2層	15~22cm	ミズゴケを主とする灰褐(7.5YR ^{3/2})の高位泥炭、分解度良好、PH(H ₂ O)4.4、層界平坦や、明瞭
第3層	22~47cm	ミズゴケ、ヌマガヤなどを主材とする黒色(7.5YR ^{2/2})の高位泥炭、分解度中、PH(H ₂ O)4.2、層界漸変。
第4層	47~55cm	ミズゴケ、ヌマガヤなどを主材とする黄褐(7.5YR ^{3/4})の高位泥炭、分解度不良、PH(H ₂ O)4.4、層界漸変。
第5層	5.5cm以下	ミズゴケ、ヌマガヤなどを主材とする黄褐(7.5YR ^{3/4})の高位泥炭、分解度不良、湧水面は80cm内外

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地 容積重 g	真比重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素率	腐植
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~14	4.8	—	30.7	11.5	34.4	23.4	CL	125.5	2.31	6.03	0.44	13.7	10.1
2	15~22	11.5	—	—	—	—	—	—	90.0	1.52	—	—	—	—
3	22~47	13.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	55~90	11.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和度 %	磷 酸 吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g	30 CNH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離 酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	4.6	3.9	4.4	25.3	8.6	0.8	0.2	37.9	953	6.2	15.4	1.01
2	4.4	3.7	2.5	75.3	19.4	1.4	0.3	28.0	468	0.6	73.9	1.50
3	4.2	3.6	3.8	75.6	15.5	1.8	0.3	23.3	409	1.2	—	2.08
4	4.4	3.9	2.5	53.2	21.9	2.1	0.4	45.9	—	1.4	—	0.62

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては島松統、島松中央統などがあるが、島松統は洪積堆積物で畑が主体であり、島松中央統は水積(河成)でそれぞれ成因、堆積様式が異なるので、本統と区別される。

A-3 母材 ミズゴケ、ヌヤガヤ

A-4 堆積様式 集積(高位泥炭)

B 地形

C 気候 年平均気温 6.9°C 年降水量 1,151mm (島松気候観測所)

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

排水、客土、酸度矯正、施肥の合理化

F 分布 北海道恵庭市字下島松

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日

昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
下北	Itlrfn

② 土壤区別説明

下北統下北区

示性分級式 (水田)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	表土の転層	表土の風乾の粘性	表土の風乾の硬さ	耕作土の透水性	耕作土の還元性	易分解性有機物含量	遊離鉄含量	グライ化度	地乾性	透水性	保湿度	自然肥力	固定力	塩基状態	置換性石灰含量	苦土里素	加酸	窒素	珪素	微量	微酸性	有害物質の有害性	物理的障害の有無	増冠水の危険度	地すべりの危険度	
t	d	g	P		l	r		W	f	n													i	a			
III	II	I	I	I	2	1	1	II	3	3	II	2	2	3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
III	II	I	I	I	2	1	1	II	3	3	II	2	2	3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
簡略分級式 ㊦ Itlrfn ㊧																											

A 土壤区の特徴

この土壤区は下北統に属する。作土はCLで粘質であるが、以下は高位泥炭で湿性を呈する。

表土の厚さは14cm内外、有効土層は1m以上で深い。心土層以下は土壤そのものの透水性は大きい、一般的に周囲の水圏が高いため湿性を呈し、易分解性有機物含量中、鉄中、グライ化度強で堪水化では還元性により水稻の根系障害のおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。置換性石灰含量が多く、その他の養分は中庸で養分の豊否は中庸である。

しかし、酸度は強い。有害物質による障害性及び豪雨の場合の増冠水の心配はない。

B 植生及び利用状況

水田 (一毛作田)

C 地力保全上の問題点

明暗渠の完備による排水の促進、心土層の泥炭層の浅いところは粘質土壌の客土、酸性も強いので矯正の必要がある。

D 分布

北海道恵庭市字下島松

記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

駒 里 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ30cm内外で腐植含量2~4%、土性はsが主である。色は10YRで彩度2、明度2内外で浮石礫を含む。単粒状構造を呈し孔隙は富む。斑紋なくも密度7で頗る疎である。

PH (H₂O) 6.3, 層界平坦明瞭である。

第2層は厚さ25cm内外で腐植を欠き、土性はsが主である。色は10YRで彩度2、明度8内外のものが多く浮石礫を含む。単粒状構造を呈し、孔隙は富む。も密度は10で頗る疎である。

PH (H₂O) 6.6, 層界は平坦や明瞭である。

第3層は厚さ18cm内外で腐植を欠き、土性はSと礫を含むSの互層である。色は10YRで彩度2~3、明度6~8である。単粒状構造を呈し孔隙は富む。も密度は5~18で頗る疎~中である。

PH (H₂O) 5.9, 層界は平坦明瞭である。

尙本層まではTa-a層である。

第4層は厚さ16cm内外で腐植含量8~12%内外でL~SLである。色は10YRで彩度1、明度2~3内外で熔岩片を混入する。構造は粉塊状構造を呈し内孔富む。も密度は16で疎である。

PH (H₂O) 5.7, 層界は漸変である。

第5層は89cm以下で腐植含量3~4%、土性はSを主とする。色は10YRで彩度1、明度3である小粒の熔岩片を主体とする。単粒状構造を呈する。PH (H₂O) 5.9, 第5層はTa-2c層である。

代表的断面形態

(所在地) 千歳市字駒里 NO千33

第1層	0~30cm	腐植を含む黒色(10YR 2/2)のS、単粒状構造で孔隙は富む、斑紋なくも密度7で頗る疎、PH (H ₂ O) 6.3、湿り半乾、層界平坦明瞭、
第2層	30~55cm	浮石礫を含む~富む灰褐(10YR 8/2)のS、単粒状構造で孔隙は富む、斑紋なくも密度10で頗る疎、PH (H ₂ O) 6.6、湿り半乾、層界平坦や明瞭、
第3層	55~73cm	浮石礫を含む灰褐(10YR 6/3~8/2)のS、単粒状構造で孔隙は富む、斑紋なくも密度5~10で頗る疎、PH(H ₂ O) 5.9、湿り半乾、層界平坦明瞭、本層までTa-a層
第4層	73~89cm	腐植に富む黒色(10YR 2/1)のSL、粉塊状を呈し内孔富む、熔岩片を混入しも密度は16で疎、PH (H ₂ O) 5.7、湿り半乾、層界漸変、
第5層	89cm以下	腐植を含み熔岩片を含む黒色(10YR 3/1)のS、単粒状構造、PH (H ₂ O) 5.9、第4、第5層はTa-2c層、

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~30	1.0	-	87.9	8.0	4.1	0	S	-	-	1.08	0.06	17.8	1.8
2	~55	0.3	-	95.2	3.1	1.7	0	S	-	-	-	-	-	-
3	~73	0.3	-	91.3	3.7	3.9	1.1	S	-	-	-	-	-	-
4	~89	7.1	-	62.7	17.2	16.3	3.8	SL	-	-	6.10	0.40	15.3	9.8
5	89~	6.1	-	72.9	15.9	10.5	0.7	LS	-	-	2.13	0.13	16.7	3.4

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.5	0.6	4.0	2.1	0.7	0.1	52.5	7.0	8.3
2	6.6	5.8	0.6	1.0	0.8	0.2	0.1	80.0	3.6	6.2
3	5.9	5.4	1.3	3.4	0.6	0.3	0.2	17.7	1.8	5.3
4	5.7	4.9	0.6	22.4	8.7	1.4	0.5	38.8	1.714	0.3
5	5.9	5.4	0.6	9.1	2.3	0.2	0.2	25.3	1.104	0.2

A-2. 他の土壌統との関係

本土壌統は2区に分れて、1団地を占め、他統とは隣接していない。類似の統としては千歳統があり、両統とも火山灰の累積より成っているが、千歳統には欠除する火山灰があり本統と区別される。

A-3. 母 材 非固結火成岩

A-4. 堆積様式 風積(火山性) / 洪積世堆積

B 地 形 ほぼ平坦

C 気 候 年平均気温 7.5°C 年降水量 981 mm (千歳航空測候所)

D 植生及び利用状況

牧草飼料作物が多く作付されているが、その他、豆類、馬鈴薯、そ菜類なども作付

E 農業上の留意事項

有機物の施用、施肥の合理化

F 分 布 北海道千歳市字駒里

調査及び記載責任者 高 橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
駒里-1	III (w) fn IIg
駒里-2	III (w) fn IIg

② 土壤区別説明

駒里統-1区

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤効	土転表表表	透保湿然	保固土	置" "有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
生土土	土土土地	水水潤肥	肥定の	層換効	害理	冠す	然斜為	水風
産層のののの	のののの	のののの	塩の石	性態量	物的	水べ	のり	蝕
力のの	土粘風の	沃力力基	塩の石	灰土里酸要	質障	のり	の	蝕
可深	礫難性着乾	性性度	状含" " "	害の害	害の害	危の	傾傾	蝕蝕
能厚さ含易	の乾	度	態量	有性	無	險危	方	蝕蝕
性	硬	度	否	性	性	度險	斜向斜	度性性
等	量	湿	否	性	性	度	斜	蝕
級								
	t d g P	w	f	n	i	a	s	e
	III I I II I 1 1 (2)	III 1 3 (2)	III 3 1 1	III 3 2 3 2 2 1	I 1 1 1 1 1 1	I 1 1 1 1 1	I 1 1 1 1 1	I 1 1 1
簡略分級式	III (w) fn IIg							

A 土壤区の特徴

この土壤区は駒里統に属する。未風化で粗粒な Ta-a の砂礫層が 80cm 内外と厚い。表土の厚さは 30cm、有効土層は 1m 以上で深い。作土は粗粒質で粘着性弱く、耕起、碎土は容易である。土壤の透水性は過良で春先の乾燥期には過乾のおそれが多い。保肥力小、固定力ごく小、塩基状態は良好であるが、自然肥沃度は低い。置換性石灰、加里少なく、その他の養分は中庸で養分の豊否は少い。有害物質による障害性、及び災害への心配はなく、平坦で侵蝕のおそれもない。

B 植性及び利用状況

耕地には牧草、飼料用作物が多く作付されているが、その他、豆類、馬鈴薯、そ菜類なども作付されている。

C 地力保全上の問題点

粗粒な土壌で作土層の保肥力、固定力が極めて小さく、腐植も少ない。改良には有機物を多用して保肥力の増大を図る必要がある。施肥の面では遅効性肥料の使用、適切な分追肥など管理面での注意が必要である。客土も有効である。

D 分 布

北海道千歳市字駒里

記載責任者 高 橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

② 土壌区別説明

駒 里 統 — 2 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 粒 径	表 土 の 粘 土 含 量	耕 起 の 難 易	(表土の) 透水性	(表土の) 保水性	(表土の) 湿度	自 然 肥 沃 土	(土層の) 保肥力	(土層の) 固定力	(土層の) 塩基状態	養分 置換性 石灰 含有量	(微量) 苦土 含有量	(微量) 磷酸 含有量	(微量) 硫酸 含有量	障 害 性	(物理的) 障害 無	災 害 性	(増冠すべりの) 危険 度	傾 斜 向	(自然傾斜の) 傾斜 向	(人為傾斜の) 傾斜 向	(侵入) 侵蝕 度	(耐風) 耐蝕 性							
	t	d	g	P		w		f	n		i	a	s	e																		
III	I	I	II	I	1	(2)	(III)	1	3	(2)	III	3	1	2	III	3	1	3	1	2	I	1	1	I	1	1	I	1	1	1	1	1
簡略分級式 III(w)fn IIg																																

A 土壌区の特徴

この土壌区は駒里統に属し、前区に比較してTa-aの砂礫層が薄く、50 cm内外である。従つて下層の腐植層との混層耕が容易になる。作土層は27 cm内外、有効土層は1 m以上で深い。粗粒であるから耕起、砕土は容易であるが、透水性が過良で春先の乾燥期には過乾になるおそれが大きい。保肥力小、固定力ごく小、塩基状態は中庸で自然肥沃度は低い。置換性石灰、加里少く、苦土、磷酸は多く、養分の豊否は少ない。有害物質による障害性及び災害性はなく、

ほぼ平坦で、侵蝕のおそれもない。

B 植性及び利用状況

耕地は牧草及び飼料用作物が多いが、豆類馬鈴薯、そ菜類も作付されている。

C 地力保全上の問題点

保肥力及び固定力とも極めて小さく、腐植も少ない。保全対策には有機物を多用して保肥力の増大に努める必要がある。施肥面では遅効性肥料の使用も有効であろう。

下層の腐植層が比較的浅いので混層耕も考えられる。

D 分 布

北海道千歳市字駒里

記載責任者 高 橋 市 十 郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

千 歳 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外、腐植含量3~5%、土性はSを主とする。色は10YRで彩度2~3、明度2~4で腐石礫に富む。単粒状構造を呈し孔隙は富む。以下斑紋はない。ち密度は10で頗る疎、PH (H₂O) 5.3、層界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ34cm内外、腐植を欠き、土性は礫土及び礫あり~頗る富むSの累積層である。色は10YRで彩度2~3、明度7~8である。単粒状構造を呈し孔隙は富む。ち密度は11~15で疎PH (H₂O) 5.6、層界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ11cm内外で腐植含量8~12%、土性はL~SLを主とする。色は10YRで彩度1、明度1.7~2である。粉塊状構造を呈し、内孔含む~富むである。ち密度は16で疎、PH (H₂O) 5.0、層界は不規則である。

第4層は厚さ14cm内外で腐植含量4~8%内外、粒径5mm内外のスコリアに富み土性はLを主としSLもある。色は10YRで彩度1、明度3内外である。粉塊状構造を呈し内孔含む~富む。ち密度15で疎、PH (H₂O) 4.9、層界は不規則である。第4層はTa-2C層?

第5層は85cm以下で腐植含量6~10%内外、土性はLを主とする。色は10YRで彩度2、明度2内外である粉塊状構造を呈し内孔含む~富む。ち密度は15で疎、PH (H₂O) 5.8である。本層以下恵庭層(Fn)?である。

代表的断面形態

(所在地) 千歳市字長都NO. 千50

第1層	0~25 cm	腐植を含む黒色 (10 YR 2/2) のSで浮石礫に富む、単粒状構造を呈し孔隙は富む、斑紋なくも密度1.0で頗る疎、PH (H ₂ O) 5.3, 湿り半乾層界平坦明瞭、
第2層	25~60 cm	腐植を欠き礫層及び礫を含む~頗る富む黄褐~灰褐 (10 YR 8/3~10 YR 7/2) のS、単粒状構造を呈し孔隙富む、も密度1.1~1.5で疎、PH (H ₂ O) 5.6, 湿り半乾、層界平坦明瞭、本層以上はTa-a層、
第3層	60~71 cm	腐植に頗る富む黒色 (10 YR 1.7/1) のSL、粉塊状構造を呈し、内孔含む~富む、も密度1.6で疎、PH (H ₂ O) 5.0, 湿り半乾、層界は不規則
第4層	71~85 cm	腐植を含む~富む黒色 (10 YR 3/1) のSL、粉塊状構造で内孔含む~富む、も密度1.5で疎、PH (H ₂ O) 4.9, 湿り半乾層界は不規則、第3、第4層はTa-2C層、
第5層	85 cm以下	腐植に富む黒色 (10 YR 2/2) のL、粉塊状構造で内孔含む~富むも密度1.5で疎、PH (H ₂ O) 5.8内外、湿り半乾、本層以下は恵庭層、

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	1.2	—						9.28	2.35	2.29	0.15	15.1	3.9
2	~60	0.3	—	9.29	33	3.2	0.6	S	114.0	2.67	—	—	—	—
3	~71	9.6	—	—	—	—	—	—	62.8	2.51	7.39	0.51	14.5	9.4
4	~85	7.9	—	49.6	294	20.6	0.4	SL	74.2	2.71	5.41	0.34	16.1	8.6
5	~100	12.3	—	20.2	376	38.0	4.2	L	46.6	2.65	6.93	0.43	16.0	10.5
6	100~	12.6	—						46.4	2.64	4.42	0.30	14.8	6.6

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換容量 me/100	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.8	0.6	3.4	2.6	3.1	0.1	76.5	70	36.3
2	5.6	4.9	1.3	2.8	0.6	0.8	0.6	21.4	44	5.3
3	5.0	4.4	0.6	33.2	8.3	2.2	0.6	25.0	2104	tr
4	4.9	4.4	0.6	17.9	3.5	1.5	0.3	19.6	1954	0.9
5	5.8	5.1	0.6	32.8	7.8	3.0	0.7	23.8	2290	1.2
6	5.7	5.2	0.6	23.8	6.4	2.7	0.7	26.9	2324	tr

A-2. 他の土壌統との関係

本土壌統は3区から成っており、隣接する主な統としては、幌加統、根志越統などがあるが、成因、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3. 母材 非固結火成岩

A-4. 堆積様式 風積(火山性) / 洪積世堆積

B 地形 傾斜 3~5° 内外の丘陵性台地

C 気候 年平均気温 7.5 °C 年降水量 981mm (千歳航空観測所)

D 植生及び利用状況 牧草及び飼料用作物が多いが、その他、豆類、てん菜、馬鈴薯
そ菜類が作付されている。

E 農業上の留意事項 有機物の施用、混層耕、施肥の合理化

F 分布 北海道千歳市東丘、新川、泉郷、中央、祝梅、長都、恵庭市、戸磯

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
千歳-1	IIIg (w) fn IIP
千歳-2	III (w) IIgfnse
千歳-3	III (w) fn IItgse

② 土壌区別説明

千 歳 統 - 1 区

示性分級式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤効土	(表表表)	(透保濕)	(保固土)	(置有微酸)	(有物增地)	(自傾人)	(侵耐耐)
生土土	土ののの	水性水性度	肥力層の	換" " 効量	害理的冠す	然斜為	蝕水蝕
産土の	ののの	乾	塩基状	石苦加燐素	害障害のり	傾斜方斜	性性性
力の層	ののの	性	態	灰土里酸	の害有性	向	
可の礫	性粘風	乾	沃	含量	無	度	
能厚深含難	性土の	濕	度	否	性	性	
性等	易	度				斜	
級							
	t d g P	w	f	n	i	a	S
	III I I III II	1 1 (2) III	1 3 (2) 3	3 1 3 III	3 1 3 1 2 2	I 1 1 I	1 1 1 I 1 1 1
簡略分級式	IIIg (w) fn IIP						

A 土壤区の特徴

この土壤区は千歳統に属する。比較的標高が高く、平坦な台地に、市街地の周辺に分布する。

Ta-a の深さは約60cm内外である。

作土は25cm内外、有効土層は1m以上で深い。粗粒であるから耕起、砕土は容易であるが透水性は過良で春先の乾燥期には過乾になるおそれが多い。保肥力小、固定力ごく小、塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土の置換性養分は、石灰、加里含量が少なく、苦土、磷酸は多く、酸度は中で養分の豊否は少ない。有害物質による障害性、及び災害性はなく、ほぼ平坦であるから、豪雨の場合の水による侵蝕の心配も少ない。

B 植性及び利用状況

牧草及び飼料作物が多く、豆類、てん菜、馬鈴薯なども一般畑作物も作付されており、更に集約的な、そ菜もつくられている。

C 地力保全上の問題点

作土は保肥力及び固定力の極端に小さな土壤で、腐植含量も少ない。従つて有機物を多用し、保肥力の増大を図る必要がある。又比較的下層の埋没腐植層が浅いところは、混層耕も有効と思われる。

D 分 布

北海道千歳市中央、祝梅、長都

記載責任者 高 橋 市 十 郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

② 土壤区別説明

千 歳 統 - 2 区

示性分級式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤 効土 (表表表)	透保湿	然肥定層	置 有微酸	有物 增地	自傾人	侵耐	
生 土土 耘	水土潤	肥力力の	換 " 効量	害理 冠す	然斜為	水風	
力 層 磔	性性性	力力の	性 態要	害物的書	傾の傾	蝕	
可 の の	の風乾	塩 基	石苦加磷素度	質障 の害	斜方斜	蝕	
能 性厚深含難 性粘土 乾	沃 状豊	基 含 " " "	灰土里酸	有性 險危	向 度陰	蝕	
性厚深含難 性粘土 乾	沃 状豊	基 含 " " "	灰土里酸	有性 險危	向 度陰	蝕	
等 性厚深含難 性粘土 乾	沃 状豊	基 含 " " "	灰土里酸	有性 險危	向 度陰	蝕	
級 さ さ 量 易	湿 度	否	性	性 度斜	蝕		
t d g P	w	f	n	i	a	s	e
III I I II I 1 1 (2) III 1 3 (2) II 2 1 2 II 2 1 1 1 2 2 I 1 1 1 1 1 II 2 --- II 1 2 1							
簡略分級式		III (w) II gfnse					

A 土壤区の特徴

この土壤区は千歳統に属し、追分よりで3~5の傾斜を有する波状性台地に分布する。1区に比べて粗粒なTa-a層がやゝ薄く、40~60cm内外で、浮石礫の混入程度も少なくなる。表土の厚さは26cm内外、有効土層は1m以上で深い。粗粒であるため、耕起、碎土は容易であるが、透水性が過良で乾燥期には過乾のおそれが多い。保肥力中、固定力が小、塩基状態中庸で自然肥沃度は中庸である。置換性及び有効態成分は石灰含量が多く、他の養分は中庸である。有害物質による障害性及び災害性の心配はないが、傾斜が若干あり、急な処は降雨時に土壤侵蝕のおそれがある。

B 植生および利用状況

牧草及び、その他の飼料作物が多いが、豆類、馬鈴薯などの一般作物も作付されている。

C 地力保全上の問題点

前区同様の対策が必要で、加えて侵蝕防止対策も望まれる。

D 分布

北海道千歳市字協和

記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

② 土壤区別説明

千 歳 統 一 3 区

示性分級式 (畑)

	土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	効土	転表表表地	透保湿	然保固土	置有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
生土	土	土土土	水水潤	肥定層	換" "効量	害理	冠す	然斜為	
産力	ののの	ののの	性性度	力力の	性 磷要	物的害	水べ	傾の傾	水風
可厚	層礫	土粘乾	肥	塩の	石苦加酸素度	質障	のり	斜方斜	蝕
能性	の含	性着土	沃	基	灰土里	の害	危の	向	蝕蝕
等深	深	性(硬さ)	乾	状	豊含" " "	有性	險危		性性性
級さ	き量易	質	度	否		無	度險	斜	蝕
	t d g P	w	f	n	i	a	s	e	
	III II I II I 1 1 (2)	(III) 1 3 (2)	III 3 1 3	III 3 1 3 1 2 2	I 1 1 I 1 1	II 2	— II 1 2 1		
	簡略分級式		III (w) f n		II t g s e				

A 土壤区の特徴

この土壤区は千歳統に属し、本区は更に粗粒なTa-aの砂礫層が40cm内外と薄くなり浮石礫の混入程及び礫の粒径も小さくなる。

表土は20cm内外、有効土層は1m以上で深い。粗粒で耕起、砕土は容易であるが、透水性過良で乾燥時には過乾のおそれが多い。保肥力小、固定力ごく小、塩基状態不良で自然肥沃度は低い。置換性及び有効態成分は石灰、加里含量が少なく、苦土、磷酸は多く、養分の豊否は少ない。有害物質による障害性及び、災害性の心配はないが、傾斜があり、粗粒な土壤のため降雨時に侵蝕のおそれがある。

B 植性及び利用状況

牧草や、その他の飼料作物が多く、他には豆類、てん菜、馬鈴薯、そ菜類などが作付されてる。

C 地力保全上の問題点

前区とほぼ同様の対策が必要である。

D 分 布

北海道千歳市 東丘、新川、泉郷、長都の一部、恵庭市字戸磯、

記載責任者 高 橋 市 十 郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

島 松 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14cm内外で腐植含量10~13%内外、土性はLを主とする。色は10 YR で彩度2、明度2内外である。粉塊状構造を呈し中小孔を含む。斑紋なくち密度6で頗る疎である。

PH (H₂O) 6.0、層界は平坦や\明瞭である。

本層は Ta-a 層である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量8%内外でまれに10%以上の場合もあり、土性はLを主とする。色は10 YR で彩度1~2、明度2内外である。疎なく粉塊状構造を呈し、中小孔を含む。ち密度は10で頗る疎、PH (H₂O) 5.9、層界は波状漸変である。本層以下はEn層である。

第3層は厚さ11cm内外で腐植含量は4~5%で、8%内外の場合もある。色は10 YR で彩度4、明度3内外である。粉塊状構造を呈し、中小孔含む。斑紋なく、ち密度は13で疎、PH (H₂O) 6.1、層界は平坦や\明瞭である。

第4層は厚さ30cm内外、腐植を含み、土性はSL~Lである。色は10 YR で彩度6、明度5内外である。角柱状、一部板状構造を呈し、中小孔あり、ち密度は19で中、PH (H₂O) 6.5、層界は平坦や\漸変である。

第5層は5.5cm以下で腐植を欠き礫を含み、土性はL~SL (触感) である。色は7.5 YR で彩度6、明度5である。発達弱度の角柱状構造を呈し、小孔あり程度、ち密度は21で中である。

代表的断面形態

(所在地) 恵庭市宇島松 NO、恵 62

第1層	0~14cm	腐植に頗る富む黒色 (10 YR $\frac{2}{2}$) のL、粉塊状構造で中小孔含む、ち密度6で頗る疎、PH (H ₂ O) 6.0、湿り半乾、層界平坦や\明瞭、本層は Ta-a 層。
第2層	14~24cm	腐植に頗る富む黒色 (10 YR $\frac{1}{2}$) のL、粉塊状構造で中小孔含む、ち密度10で頗る疎、PH (H ₂ O) 5.9、湿り半乾、層界波状漸変、本層以下はEn層。
第3層	24~35cm	腐植に富む黄褐 (10 YR $\frac{5}{4}$) のL、粉塊状構造で中小孔含む、ち密度13で疎、PH (H ₂ O) 6.1、湿り半乾、層界平坦や\明瞭。
第4層	35~55cm	腐植を含む黄褐 (10 YR $\frac{5}{6}$) のSL、角柱状構造で中小孔あり、ち密度19で中、PH (H ₂ O) 6.5、湿り半乾、層界漸変。
第5層	5.5cm以下	腐植を欠き礫を含む黄褐 (7.5 YR $\frac{5}{6}$) のL~SL (触感)、発達弱度の角柱状構造で小孔あり程度、ち密度21で中、湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~14	7.5	—	37.8	24.5	26.4	11.3	L	96.3	2.27	7.26	0.42	17.3	12.1
2	~24	7.7	—	33.7	26.2	27.5	11.3	L	115.8	2.30	7.61	0.42	18.1	12.7
3	~35	12.2	—	11.4	49.6	32.3	6.6	L	118.2	2.21	5.00	0.27	18.4	8.3
4	~55	10.7	—	13.5	55.2	24.5	6.8	SL	139.1	2.49	2.20	0.12	19.1	3.7

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.9	1.3	26.9	10.6	1.4	0.6	39.4	2192	1.5
2	5.9	4.8	1.9	24.8	9.6	1.2	0.6	38.7	2562	0.4
3	6.1	5.0	0.6	20.4	4.7	0.8	0.4	23.0	2469	0.7
4	6.5	5.5	0.6	13.5	4.6	0.7	0.3	34.1	1870	0.7

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては、牧場統、穂栄統、島松中央統などがある。

牧場統は扇状堆土であり、穂栄統は集積土、島松中央統は水積土でそれぞれ成田、母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/洪積世堆積

B 地形 ほぼ平坦な台地

C 気候 年平均気温 6.9°C 年降水量 1,151mm (島松気候観測所)

D 植生及び利用状況

牧草や他の飼料用作物が多く、馬鈴薯、てん菜、そ菜類も栽培されている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物の施用、施肥の合理化

F 分布 北海道恵庭市字島松、西島松

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
島松 - 1	II t f n
島松 - 2	II t g f n

② 土壤区別説明

島松統 - 1 区

示性分級式 (畑)

土壌生成力の可能性等級	表土の厚さ	表土の粘着性	表土の乾燥性	土壌の透水性	土壌の保水性	自然肥力	固定力	土壌の塩基状態	養分の豊富さ	置換性	石灰含有量	苦土含有量	加酸要	微酸量	酸態素	障害性	物理的障害	増冠水の危険度	地すべりの危険度	自傾斜	人為的傾斜	人為的侵蝕	耐蝕性			
t	d	g	P	W	f	n	i	a	S	e																
II	I	I	I	I	I	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	I	1	1	I	1	1	1	1	1		
簡略分級式		II t f n																								

A 土壤区の特徴

この土壤区は島松統に属する。表土15cm内外はTa-a風化層で以下はEn層となり、土壤は壤質であるが、35cm内外よりやや粗くなる。表土の厚さは24cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質で粘着性弱く、耕起砕土は容易で過乾及び過湿のおそれもない。保肥力大、固定力大、塩基状態中庸で自然肥沃度は中庸である。有効態磷酸含量が少なく、他の養分は多く、養分の豊富さは中庸である。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地化され、牧草及び他の飼料作物が多いが、てん菜、馬鈴薯、そ菜類も栽培されている。

C 地力保全上の問題点

表土は厚いので、有機物を施用しながら耕土層の深化をはかる必要がある。施肥の面では磷酸吸収力が大きいので、磷酸の増施が望まれる。

D 分布

北海道恵庭市宇島松西島松
 記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)
 日付 昭和46年3月31日

示性分級式 (畑)

土壌	表土	表土	表土	表土	透	保	濕	然	自	保	固	土	養	置	有	微	酸	障	災	傾	傾	侵	耐	
産力	効	土	土	土	水	水	潤	肥	肥	定	塩	基	状	石	苦	加	磷	要	害	害	地	自	人	耐
可能	の	の	の	の	乾	性	度	沃	刀	力	態	量	量	量	量	量	量	量	量	量	傾	傾	耐	
性	厚	深	難	粘	乾	性	度	沃	刀	力	態	量	量	量	量	量	量	量	量	傾	傾	耐		
等	含	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
級	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	
	t	d	g	P		W		f		n										i	a	S	e	
Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
簡略分級式		Ⅱt g f n																						

A 土壤区の特徴

この土壤区は島松統に属する。前区とほぼ同様の累積層序を示すが、下層土への礫の混入割合が多く、土性もやゝ粗くなる。表土の土性は壤質で粘着性は弱く、耕起、砕土が容易で、過湿および過干のおそれもない。保肥力中、固定力小、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。作土の養分は苦土少なく、石灰中庸で他の養分は多い。

特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、牧草及び他の飼料作物が多いが、てん菜、馬鈴薯等も栽培させている。

C 地力保全上の問題点

前区とほぼ同様の対策が必要である。

D 分布

北海道恵庭市

記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

中 島 松 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、腐植含量5~10%、土性はSLを主とする。色は10YRで彩度2、明度2内外で浮石礫を含む。板状構造を呈し、斑紋なし。ち密度は18で中、PH (H₂O) 6.0、層界は平坦明瞭である。本層はTa-a層である。

第2層は厚さ10cm内外、腐植含量12~16%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで彩度1、明度1.7内外である。細塊状構造を呈し小孔に富む。ち密度は18で中、PH (H₂O) 6.4、層界は漸変である。

第3層は厚さ15cm内外、腐植含量10%内外、土性はLを主とする。色は10YRで彩度2、明度2内外である。粉塊状~細塊状構造を呈し小孔に富む。ち密度は14で疎、PH (H₂O) 6.3、層界は平坦や△明瞭である。

第4層は厚さ23cm内外、腐植を欠き、土性はLを主とする。色は10YRで彩度4、明度4内外である。粉塊状構造を呈し、小孔に富む。PH (H₂O) 6.2内外、層界は平坦明瞭である。湧水面は60cm内外である。

代表的断面形態

(所在地) 恵庭市字中島松 NO恵83

第1層	0~15cm	腐植に富む黒色 (10YR2/2) のSL、発達弱度の板状構造で、小孔含む、斑紋なくち密度18で中、PH (H ₂ O) 6.0、湿り半乾、層界平坦明瞭、本層はTa-a層
第2層	15~25cm	腐植に頗る富む黒色 (10YR1.7/1) のCL、礫なく粉塊状構造を呈し、小孔に富む、ち密度18で中、湿り湿PH (H ₂ O) 6.4、層界漸変
第3層	25~40cm	腐植に富む黒色 (10YR2/2) のL、礫なく粉塊状構造を呈し、小孔に富む、ち密度15で疎、湿り湿PH (H ₂ O) 6.3、層界平坦や△明瞭
第4層	40cm ~60+	腐植を欠く黄褐 (10YR4/4) のL、粉塊状構造を呈し小孔に富む、ち密度14で疎、湿り湿、PH (H ₂ O) 6.2内外、

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	2.4	—	71.3	10.4	10.9	7.3	SL	152.7	2.69	4.09	0.28	14.7	6.8
2	~25	10.8	—	21.3	20.6	35.4	22.7	CL	115.8	2.52	9.54	0.75	12.7	15.9
3	~40	13.0	—	9.2	38.9	37.8	14.1	L	107.3	2.72	5.69	0.32	18.0	9.5
4	~63	11.7	—	9.1	57.3	30.9	8.7	L	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度	燐酸吸収 係数	有効態燐酸 mg/100g
	K ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.9	1.3	31.1	10.5	0.3	0.1	33.8	271	9.1
2	6.4	5.5	1.3	68.7	60.8	2.5	0.1	88.5	2211	2.3
3	6.3	5.2	0.6	55.1	30.8	2.4	0.2	55.9	2783	1.2
4	6.2	5.0	0.6	14.3	7.1	1.0	0.1	49.6	2681	1.2

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては春日統及び島松統があるが、春日統は下層が泥炭であり、島松統は洪積世堆積物で、それぞれ、母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3. 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4. 堆積様式 風積(火山性)/水積(河成)

B 地形 平坦地

C 気候 年平均気温 6.9°C 年降水量 1,151 mm (島松気候観測所)

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され畑が主体で牧草、デントコーン、馬鈴薯などが栽培されている、一部水田もある。

E 農業上の留意事項

排水、深耕

F 分布 北海道恵庭市字中島松、南島松

調査及び記載責任者 高橋市十郎(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
中島松	IIIw II tgn

② 土壤区別説明

中島松統一中島松区

示性分級式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤効土表表表	透保湿	然	保固土	置換性	有微酸	增地冠す	自傾人	侵耐
生土土耘土土土	ののの	肥	層の	石苦加	害理	水のべ	然斜為	水風
産土ののの	の風乾	肥定塩	のの	灰土里	物的	のりの	傾の傾	蝕
力の層の礫	性着土	沃	塩基	含" " "	害質障	の危の	斜方斜	蝕蝕
可のの	の乾	力	状	量	の害	険危	向	蝕蝕
能厚深	性性	力力	豊		有性	度度		度性性
性深含	性性	度	否		無			
等ささ量易	湿	度						
級					性	性	斜	蝕
tdgP	w	f	n	i	a	s	e	
III II I II I 1 1 (2) III 2 2 3 I 1 1 1 II 1 3 3 2 1 1 I 1 1 I 1 1 I 1 -- I 1 1 1								
簡略分級式	IIIw II tgn							

A 土壤区の特徴

この土壤区は中島松統に属する。表土の厚さは15cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕起、砕土は容易である。作土層は中粒質で透水性も良いが、下層はやゝ透水性も悪く、地域全体的に排水不良で地下水位が高い。従つて過湿のおそれがある。保肥力大、固定力ごく小、塩基状態は中庸で自然肥沃度は高い。作土の有効態成分は苦土、加里少なく、磷酸中庸で石灰は多く、養分の豊否は中庸である。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

大部分畑で牧草、デントコーン、馬鈴薯などが多く栽培され、一部水田もある。

C 地力保全上の問題点

一般に湿性を呈するから明、暗渠による排水を行つて、徐々に深耕し、耕土層の深化を図る必要がある。

D 分布

北海道恵庭市字中島松

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

幌 加 統 (2)

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外で腐植含量3~8%、土性はLSを主とする。色は10YRで彩度1、明度3内外である。礫を含み粉塊状構造を呈して小孔富む。斑紋なくも密度5で頗る疎である。PH (H₂O) 5.7, 層界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はSを主とする。色は10YRで彩度2、明度7内外で細礫あり。単粒状構造を呈し小孔富む。膜状斑紋含む。も密度は17で疎、PH (H₂O) 5.0, 層界は平坦明瞭である。本層までTa-a層。

第3層は厚さ10cm内外で腐植含量20%以上の腐植土である。色は10YRで彩度1、明度1.7~3である。も密度は11~12で疎である。PH (H₂O) 5.1, 層界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ16cm内外、腐植含量6~8%、土性はSLを主とする。色は7.5YRで彩度2、明度2内外である、岩片に富む。単粒状構造を呈し、孔隙含む。斑紋なくも密度は15で疎、PH (H₂O) 5.7, 層界は平坦明瞭である。

第5層は71cm以下で腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は2.5Yで彩度1、明度6内外である。均質連結状構造で孔隙なし。も密度は15~18で疎~中である。PH (H₂O) 5.3内外である。

代表的断面形態

(所在地) 千歳市字幌加 NO千80

第1層	0~25cm	腐植を含む黒色 (10YR3/1) のLS, 細礫を含み粉塊状構造で孔隙に富む、も密度5で頗る疎、PH (H ₂ O) 5.7, 湿り半乾, 層界は平坦明瞭
第2層	25~45cm	腐植を欠き灰褐 (10YR7/2) のS、単粒状構造で孔隙富む、膜状薄紋含む、も密度17で疎、PH (H ₂ O) 5.0, 湿り半乾、層界は平坦明瞭、本層まではTa-a層
第3層	45~55cm	腐植含量20%以上で黒色 (10YR1.7/1) の腐植土、も密度11~12で疎、PH (H ₂ O) 5.1, 湿りやや湿、層界は平坦明瞭
第4層	55~71cm	腐植に富む黒色 (7.5YR2/2) のSLで岩片に富む、単粒状構造で孔隙含む、も密度15で疎、PH (H ₂ O) 5.7, 湿り湿、層界は平坦明瞭、本層はTa-2C層?
第5層	71cm以下	腐植を欠く灰色 (2.5Y 6/1) のLiC、均質連結状構造で孔隙なし、も密度15~18で疎~中、PH (H ₂ O) 5.3、本層以下沖積層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	1.2	—	87.4	7.2	2.3	3.1	LS	—	—	218	0.16	13.4	3.7
2	~45	0.3	—	91.4	3.6	5.0	0	S	—	—	—	—	—	—
3	~55	9.2	—	—	—	—	—	—	—	—	1450	1.48	9.8	22.7
4	~71	5.6	—	75.3	9.5	9.7	5.5	LS	—	—	503	0.33	15.3	8.2
5	71~	5.3	—	27.9	16.1	29.4	26.6	LiC	—	—	064	0.02	30.5	1.1

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.9	0.6	8.5	3.4	1.5	0.5	40.0	142	45.4
2	5.0	4.6	1.3	2.8	0.2	0.5	0.2	7.1	62	6.1
3	5.1	4.6	1.3	47.8	22.7	3.6	1.1	47.5	1,166	0.8
4	5.7	5.1	0.6	16.9	5.6	1.2	0.4	33.1	1,264	0.3
5	5.3	4.3	1.9	26.2	4.2	2.3	0.5	16.0	248	0.9

A-2. 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては千歳統があるが、千歳統は下層が洪積世堆積物であるが本統は水積（河成）で、母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3. 母材 非固結火成岩／非固結水成岩

A-4. 堆積様式 風積（火山性）／水積（河成）

B 地形 谷間の平坦地

C 気候 年平均気温 7.7℃ 年降水量 981mm（千歳航空測候所）

D 植性及び利用状況

耕地には牧草、他の飼料作物が多く、一部水稲も栽培

E 農業上の留意事項

排水、有機物の施用、施肥の合理化、混層耕

F 分布 北海道千歳市宇幌加

調査及び記載責任者 高橋 宙十郎（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
幌加一 2	IIgwf n
幌加一 3	IIgwf

② 土壤区別説明

幌 加 統 一 2 区

示性分級式 (畑)

壤表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生効土土	表表表地	透保湿然	保固土分	置有微酸	有物增地	自傾人	侵耐耐
産土土	土土土	水水潤肥	層の	換" "効量	害理冠す	然斜為	水風
力の層	ののの風乾	水水潤肥	のの	性態要	物的害	傾の傾	蝕蝕
可の層	土粘乾	水水潤肥	塩の	石苦加磷素度	害質障	のり	蝕蝕
能の含	性着土	沃	基	灰土里酸	の害	危の	蝕蝕
性厚難	性の硬さ	性性度	状豊	含" " "	有性	險危	度性性
等深有	性	度	力力態	量	無	度險	度性性
級ささ量易	湿	度	否		性	性	蝕
t d g P	w	f	n	i	a	S	e
III I I II I 1 1 (2)	II 3 2 2 II 2 1 3 II 3 1 1 1 2 2 I 1 1 I 1 1 I 1						
簡略分級式		IIgwf n					

A 土壤区の特徴

この土壤区は幌加統に属する。1区は水田主体であるが、2、3区は畑主体である。本区は谷間の低地に分布し、湿性を呈し、泥炭を混入する場合も多い。表土の厚さは25cm内外で有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粗粒質で粘着性はなく、耕起、砕土は容易であるが、下層は粘質で粘着性も大きく、透水性は不良で過湿のおそれがある。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。作土の有効態成分は石灰含量少ないが、他の養分は多く、養分の豊否は中庸である。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

耕地には牧草、他の飼料作物が多く、一部水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

基幹明渠の整備による排水が先ず第1で、Ta-a層は保肥力及び固定力が極端に小さく脊薄であるから有機物を施用して地力の増進に努める必要がある。また下層の埋没腐植層が比較的浅いので混層耕も考られる。施肥の面では遅効性肥料の使用も効果があろう。

D 分布

北海道千歳市字幌加
記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)
日付 昭和46年3月31日

② 土壤区別説明

幌加統 — 3 区

示性分級式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤効土	表表表	透保湿	然保固土	置有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
生土	土土土	地	層	換 " " 効量	害理	冠す	然斜為	水風
産土	ののの	の風乾	の肥定塩	の石苦加燐素度	物的	水のり	傾の傾	蝕
力の層	の土粘	の水水潤	肥定塩	の石苦加燐素度	害質障	害のり	斜方斜	蝕
可の礫	性着土	乾	基状豊	灰土里酸	の害	危の	向	蝕蝕
能厚	難性硬	性性度	力力態	量	有性	陰危		度性性
性深	含	湿	度	否	無	度險	斜	蝕
等	さ	量	易		性	性	度	
級								
t d g P	w	f	n	i	a	s	e	
III I I II I	1 1 (2)	II 3 2 2	II 3 1 2	I 2 1 1 1 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 — I	1 1 1
簡略分級式		II gwf						

A 土壤区の特徴

この土壤区は幌加統に属し、1、2区は主として谷間に分布するが、本区は台地の後背地に分布する。表土の厚さは27cm内外、有効土層は1m以上で深い。表層50cm内外までは粗粒なTa-a層で耕起、碎土も容易で透水性も過良であるが以下は粘質な沖積土壌で透水性が悪く、過湿のおそれがある。保肥力小、固定力ごく小、塩基状態良好で自然肥沃度は中庸である。作度の有効態成分は石灰中で他の養分は多く、養分の豊否は多い。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

放牧地及び草地として利用している。

C 地力保全上の問題点

前区とはほぼ同様の対策が望まれる。

D 分布

北海道千歳市字泉郷の一部
記載責任者 高橋 市 十 郎 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和46年3月31日

牧 場 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ22cm内外、腐植含量3~6%内外、土性はLSが主である。色は10YRで彩度1、明度2内外で浮石礫に富む。単粒状構造で孔隙に富む。斑紋なく、ち密度11で疎、PH (H₂O) 5.8, 層界は平坦明瞭である。本層はTa-a層で下部4cm内外は未風化層である。

第2層は厚さ14cm内外、腐植含量12~15%内外、土性はCLを主としLの場合もある。色は10YRで彩度1、明度1.7で浮石礫を含む。細塊状構造を呈し、細孔富む。ち密度は17で疎、PH (H₂O) 5.5, 層界は平坦や△明瞭である。

第3層は厚さ16cm内外腐植含量8~12%内外、土性はL~CLである。色は10YRで彩度1、明度2で礫を含む。塊状構造を呈し、細孔富む。ち密度は16で疎、PH (H₂O) 5.6, 層界は漸変である。

第4層は厚さ15cm内外で腐植を欠き礫を含み土性はLSを主とする。色は10YRで彩度3、明度6である。単粒状構造を呈し、孔隙に富む。ち密度は15で疎、PH (H₂O) 5.8, 層界は平坦や△明瞭である。

第5層は厚さ21cm内外で腐植及び礫なく、土性はLSを主とする。色は10YRで彩度3、明度6内外である。単粒状構造を呈し、ち密度は16で疎である。PH (H₂O) 5.8内外である。第2層以下は扇状堆土である。

代表的断面形態

(所在地) 恵庭市字牧場 NO 恵87

第1層	0~22cm	腐植を含み礫に富む。黒色 (10YR2/1) のLS、単粒状構造で孔隙富む、斑紋はなくち密度11で疎、PH (H ₂ O) 5.8, 湿りは全層半乾、層界は平坦明瞭、尙本層下部4cm内外は未風化層
第2層	22~36cm	腐植に頗る富み礫を含む黒色 (10YR1.7/1) のCL, 細塊状構造で細孔に富むち密度17で疎、PH (H ₂ O) 5.5, 層界平坦や△明瞭、本層以下は扇状堆土
第3層	36~52cm	腐植に頗る富み礫を含む黒色 (10YR2/1) のL, 塊状構造で細孔富むち密度16で疎、PH (H ₂ O) 5.6, 層界は漸変
第4層	52~67cm	腐植を欠き、礫を含む黄褐 (10YR6/3) のLS, 単粒状構造で孔隙に富む。ち密度15で疎、PH (H ₂ O) 5.8, 層界は平坦や△明瞭
第5層	67~88cm	腐植を欠く黄褐 (10YR6/3) のLS, 単粒状構造で孔隙富む、ち密度16で疎、PH (H ₂ O) 5.8内外

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	1.5	—	74.6	12.8	9.5	3.1	LS	125.9	2.85	2.03	0.12	17.2	3.4
2	~36	—	—	20.1	34.6	23.8	21.5	CL	114.7	2.47	8.20	0.57	14.3	13.7
3	~52	9.2	—	20.5	38.2	27.1	14.3	L	98.6	2.72	7.24	0.41	17.6	12.1
4	~67	2.9	—	29.2	57.6	10.3	2.9	LS	80.5	2.40	—	—	—	—
5	~88	2.0	—	12.0	77.0	8.7	2.3	LS	91.9	2.73	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	K ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.8	0.6	8.3	4.9	0.1	0.1	59.0	292	43.3
2	5.5	4.6	0.6	36.8	16.8	1.0	0.2	45.6	—	2.8
3	5.6	4.5	2.5	28.8	6.8	0.2	0.2	23.6	2,189	3.6
4	5.8	4.8	0.6	6.2	0.8	0.1	0.2	12.9	591	7.2
5	5.8	4.8	0.6	4.3	1.3	0.1	0.1	30.2	669	3.9

A-2. 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては島松統、千歳統があるが、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3. 母 材 非固結火成岩／非固結水成岩

A-4. 堆積様式 風積（火山性）／水積（扇状堆土）

B 地 形 ほぼ平坦

C 気 候 年平均気温 6.9 ℃ 年降水量 1,151mm（島松気候観測所）

D 植生及び利用状況

殆んど牧草と、飼料用作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物の施用、施肥の合理化

F 分 布 北海道恵庭市字牧場

調査及び記載責任者 高 橋 市 十 郎（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
牧場 - 1	IItg(w)fn
牧場 - 2	IItg(w)fn

② 土壤区別説明

牧場統一区

示性分級式 (畑)

土壌	表土	表土	耕土	土	透	保	湿	然	自	養	障	災	傾	侵																					
効	効	表	表	地	透	保	湿	然	保	固	土	分	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐									
土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土								
産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産								
力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力								
可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可								
能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能								
厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚								
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性								
等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等								
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級								
	t	d	g	P		w		f		n				i		a		s		e															
III	II	I	II	I	1	1	(2)	(II)	1	2	(2)	II	2	1	3	II	2	3	3	1	1	2	I	1	1	I	1	1	I	1	---	I	1	1	1

A 土壤区の特徴

この土壤区は牧場統に属する。表土の厚さは20cm内外で粗粒なTa-a層で、耕起、砕土も容易である。心土層以下は扇状堆土で厚さ30cm内外は腐植に頗る富み、礫を含むやゝ細粒質な土壤である。耕起砕土は容易で過干のおそれは少ない。保肥力中、固定力ごく小で塩基状態は不良で自然肥沃度は中庸である。作土の有効態成分は、苦土、加里少なく、石灰中庸でその他の養分は多い。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草と飼料作物が多く栽培されている。

C 地力保全上の問題点

表土は粗粒で脊薄な土壤であるから、有機物を施用しながら徐々に深耕し、耕土の深化を図る必要がある。尚腐植層も比較的浅く出現するが深耕及び混層耕も有効であろう。施肥面では苦土の増施が必要であろう。

D 分布 北海道恵庭市宇牧場

記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

② 土壤区別説明

牧場統一2区

示性分級式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤効土	表表土	透保湿	然固土	置有微酸	有物	增(地	自傾人	侵耐耐
生土	土耘	地	層	換" "効量	害理	冠すべ	然斜為	水風
産土	のの風	のの水水潤肥	のの性態	石苦加磷素度	物的	水り斜	傾の傾	蝕蝕
力の層	の土粘乾	の水水潤肥	のの性態	灰土里酸	質障	の危	斜方斜	蝕蝕
可の礫	性着土	乾	基	含" " "	の害	險度	向	蝕蝕
能厚	難	性性度	状	量	有性	無		度性性
性深含	易	湿	力力態	否	無	度		度性性
等さ	量	度	否	否	性	性	斜	蝕
級								
	t d g P	w	f	n	i	a	s	e
	II II I II I	1 1 (2) II	1 2 (2) II 2 1 1	II 2 3 1 2 1 1	I 1 1 I	I 1 1 I	I 1 1 I	1 1 1
	簡略分級式		II tg(w)fn					

A 土壤区の特徴

この土壤区は牧場統に属する。前区に比べて心土層以下の腐植含量が少なく、層厚も薄いので区別される。表土の厚さは16cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土の土性が粗く、耕起、砕土は容易で過湿および過干のおそれが少ない。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態良好で自然肥沃度は中庸である。作土の有効態成分は、加里少なく、石灰中庸で、他の養分は多く、養分の豊否は中庸である。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草と、飼料用作物が多く栽培されている。

C 地力保全上の問題点

全区同様の対策が必要であるが、混層耕は余り適当でないと思われる。

D 分布

北海道恵庭市字牧場

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

新 川 統

(1) 土壤統の概況

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ28cm内外、腐植含量6~10%、土性はSLを主とする。色は10YRで彩度2明度2内外で浮石礫を含む。粉塊状構造を呈し小孔富む。斑紋はなく、ち密度1.8で中、PH (H₂O) 5.6, 層界平坦や△明瞭である。本層はTa-aを主体とする。

第2層は厚さ17cm内外、腐植を欠き、土性はS~SLである。色は10YRで彩度6、明度4である。粉状構造を呈し、細孔富む。斑紋なくち密度1.6で疎である。PH (H₂O) 6.0, 層界は平坦明瞭である。

第3層は45cm内外以下で腐植を欠き、土性はS~SLである。色は10YRで彩度6、明度5内外である。細塊状構造を呈し細孔含む。斑紋なくち密度1.8~2.2で中である。

代表的断面形態

(所在地) 千歳市字新川 NO, 千77

第1層	0~28cm	腐植に富む黒色(10YR 2/2)のSLで浮石礫を含む。粉塊状構造で小孔富む。ち密度1.8で中、PH (H ₂ O) 5.6, 湿り半乾、層界平坦や△明瞭。
第2層	28~45cm	腐植を欠く黄褐(10YR 4/6)のSで浮石礫あり、粉塊状構造で細孔富む。ち密度1.6で疎、PH (H ₂ O) 6.0, 湿り半乾、層界平坦や△明瞭
第3層	45cm以下	腐植を欠く黄褐(10YR 5/6)のSで浮石礫に頗る富む、細塊状構造で細孔含む、ち密度1.8~2.2で中、PH (H ₂ O) 6.4, 湿り半乾、

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~28	3.8	—	73.5	11.4	13.5	1.6	SL	—	—	4.21	0.26	16.2	7.0
2	~45	13.0	—	44.8	44.5	10.7	0	S	—	—	—	—	—	—
3	45~	12.2	—	61.2	33.6	5.2	0	S	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y 1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度	磷酸吸収 係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.8	0.6	12.9	5.2	2.6	0.7	40.3	9.02	3.8
2	6.0	5.6	1.3	16.1	2.8	0.7	2.1	17.4	2.156	0.2
3	6.4	5.9	0.6	15.5	2.1	1.3	1.3	13.6	1.972	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する主な統としては千歳統があるが堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積 (火山性) / 水積 (扇状堆土)

B 地形 3~7°の傾斜を有する丘陵地

C 気候 年平均気温 7.5°C 年降水量 981mm (千歳航空測候所)

D 植生及び利用状況

耕地には牧草、デントコーンなどが多く栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、深耕、施肥の合理化

F 分布 北海道千歳市字新川

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
新 川	III(w) II gf se

② 土壌区別説明

新 川 統 一 新 川 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤 効 土 耘	表 表 表 地	透 保 湿	保 固 土 分	置 有 微 酸	有 物 增 地	自 傾 入	侵 耐 耐
生 土 土 土	土 土 土	然	層	換 " " 効 量	害 理 冠 す	然 斜 為	水 風
産 土 土 土	の の の 風	の 水 水 潤	の 性 態 要	的 的 的 的	物 的 的 的	傾 の 傾	水 風
力 の 層	の 土 粘 乾	の 水 水 潤	肥 定 塩	の 石 苦 加 磷 素 度	質 障 害	斜 方 斜	蝕 蝕
可 的 的 的	的 的 的 的	的 的 的 的	基 灰 土 里 酸	の 害 危 危	の 害 危 危	向	蝕 蝕
能 厚 性	難 性 的 硬 さ	干 性 性 度	状 豐 含 " " "	有 性 無	無 度 度		度 性 性
等 等 等	含 易 湿	度 否		害 性 斜		蝕	
級							
t d g P	w	f	n	i	a	s	e
III I I II I 1 1 (2)	(III) 1 3 (2)	II 2 2 3	I 2 1 1 2 2 2	I 1 1 I 1 1	II 2	—	I 1 2 1
簡 略 分 級 式		III(w) II gf se					

A 土壤区の特徴

この土壤区は新川統に属する。波状性丘陵地に僅少分布する。作土層はTa-aを主体とするが心土層以下は扇状堆土となる。表土の厚さは20cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粗粒質で粘着性なく、耕起、碎土は容易であるが乾燥期には過干のおそれが多い。

保肥力中、固定力中、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。作土の有効態成分は石灰、苦土少なく、その他の養分は多い。障害性および災害性の心配はないが、多少傾斜を有するため豪雨時には水による侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

耕地には牧草、デントコーンなどが多く栽培されている。

C 地力保全上の問題点

作土、心土層とも粗粒質な土壤で粘着性が弱いから、堆肥を施用しながら耕土層を深く保ち作物根圏域の確保とともに侵蝕防止も図らなければならない。施肥面では苦土の増施が望まれる

D 分 布 北海道千歳市字新川

記載責任者 高 橋 市 十 郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

上 山 口 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ26cm内外、腐植含量5~8%、土性はSLを主とする。色は10YRで彩度2、明度2内外で浮石礫を含む。粉状構造を呈し孔隙に富む。斑紋は下層までなし。斑紋なくも密度は1.5で疎である。PH (H₂O) 5.8内外、層界は平坦明瞭である。本層はTa-aを主体とし、下部4cm内外は未風化礫層である。

第2層は厚さ14cm内外、腐植含量4~8%、土性はSLを主とする。色は10YRで彩度2、明度2~3内外である。粉塊状構造を呈し細孔富む。も密度1.6~1.7で疎、PH (H₂O) 5.9、層界は漸変である。

第3層は厚さ12cm内外、腐植含量10%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで彩度1。明度2内外である。粉塊状構造を呈し細孔に富む。も密度は1.7で疎、PH (H₂O) 6.0、層界は平坦や明瞭である。

第4層は厚さ8cm内外、腐植含量4~5%、土性はSiCLを主とする。色は10YRで彩度2。明度4内外である。粉塊状構造を呈し、細孔富む。も密度1.6で疎、PH (H₂O) 5.7、層界は波状判然である。

第5層は60cm以下で腐植を欠き、土性はSLを主とする。粉状構造を呈し小孔富む、も密度1.6で疎、PH (H₂O) 6.1内外である。

代表的断面形態

(所在地) 恵庭市字上山口 NO恵73

第1層	0~26cm	腐植に富む黒色 (10 YR 2/2) のSL、粉塊状構造で小孔富み、浮石礫を含む、斑紋なくも密度1.5で疎、PH (H ₂ O) 5.8, 湿り半乾、層界平坦明瞭、本層はTa-aを主体とし下部4cm内外は未風化層。
第2層	26~40cm	腐植に富む黒~灰褐 (10 YR 2~3/2) のSiL、粉塊状構造で細孔富む、も密度1.6で疎、PH (H ₂ O) 5.9, 湿り半乾、層界漸変。
第3層	40~52cm	腐植に富む黒色 (10 YR 2/1) のSiL、粉塊状構造で細孔富む、も密度1.7で疎、PH (H ₂ O) 6.0, 湿り半乾 層界平坦やゝ明瞭。
第4層	52~60cm	腐植を含む灰褐 (10 YR 4/2) のSiCL、粉塊状構造で細孔富む、も密度1.6で疎、PH (H ₂ O) 5.7, 湿り半乾、層界波状漸変。
第5層	60cm以下	腐植を欠く黄褐 (10 YR 5/4) のSL、粉状構造で小孔富む、も密度1.6で疎、PH (H ₂ O) 6.1, 湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	1.6	—	64.2	13.6	15.7	6.4	SL	121.3	2.42	3.07	0.17	17.7	5.1
2	26~40	4.0	—	4.4	29.9	56.7	8.9	SiL	110.7	2.48	3.37	0.19	17.8	5.6
3	~52	5.7	—	2.4	14.4	54.2	29.0	SiL	109.2	2.45	5.45	0.33	16.3	9.1
4	~60	5.7	—	0.5	29.1	50.6	19.8	siCL	125.9	2.73	2.82	0.19	15.1	4.7
5	60~	1.9	—	8.6	68.3	11.5	11.7	SL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.5	1.9	8.1	3.2	0.2	0.4	39.5	9.51	19.4
2	5.9	5.0	1.3	17.5	14.1	0.4	1.0	80.6	13.36	2.5
3	6.0	4.8	0.6	36.4	22.0	1.3	0.5	60.4	11.96	3.6
4	5.7	4.4	2.5	20.5	15.3	1.5	0.2	74.6	4.96	1.8
5	6.1	4.5	1.9	10.0	6.2	2.2	0.5	62.0	4.77	3.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する主な統としては南島松統があるが、母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積 (河成堆積)

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 6.9 °C 年降水量 151 mm

(島松気候観測所)

D 植生及び利用状況

そ菜類が多く栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物の施用

F 分布 北海道恵庭市漁川兩岸

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
上山口北	II t g f n

② 土壌区別説明

上山口北統一 上山口北区

示 性 分 級 式 (細)

土表有表耕	土	自	養	障 (災 傾 侵				
壤	幼土	(表表表土)	(透保湿然)	(保固土分)	(置 有微酸)	(有物 增地)	(自傾人)	(侵耐)
生土	土耘	土土土)		層	換 " 効	害理 冠す	然斜為	
産土	ののの	の風乾)	水水潤肥	の性 態量	石苦加燐	物的 水の	傾の傾	水風
力の層	ののの	土粘乾)	水水潤肥	の性 態量	灰土里酸要	害 質障害	斜方斜	蝕
可	の礫	性着土)		基 状豊	含 " " "	の害 危危	向	蝕蝕
能厚	深含	性性硬さ)	沃 力力態	量 素度		有性 險險		度性性
性	易	湿 度 否				無 度		度性性
等	ささ量					性 性 斜		蝕
級								
	t d g P	w	f	n	i	a	S	e
II II I II I 1 1 (2)	I 1 2 (2)	II 2 2 1	II 3 3 1 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1	---	I 1 1 1
簡 略 分 級 式		II t g f n						

A 土壌区の特徴

この土壌区は上山口北統属する。表土の厚さは22cm内外、有効土層は1m以上で深い。
表土は粗粒な土壌で、粘着性は弱く、耕起、碎土は容易で、過干及び過湿のおそれは少ない。
保肥力中、固定力小、塩基状態良好で自然肥沃度は中庸である。作土の有効態成分は石灰、苦
土少なく、他の養分は多く、養分の豊否は中庸である。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

耕地には 野菜類が多く栽培されている。

C 地力保全上の問題点

表土は粗粒な Ta-a 層を主体とし、やゝ脊薄な土壌であるから、有機物を多く施して地力の
増進に努める必要がある。

D 分 布 北海道恵庭市漁川の両岸

記載責任者 高 橋 市 十 郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭 和 4 6 年 3 月 3 1 日

長 都 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12cm内外、腐植含量15～23%内外で低位泥炭の分解したものである。土性はL～SLで色は10YRで彩度2、明度3である。粉状構造で孔隙に富む、pH(H₂O)4.2、層界平坦や、明瞭。

第2層は厚さ10cm内外、腐植なく土性はSである。色は10YRで彩度2、明度7内外である。粉塊状構造を呈して孔隙に富む。斑紋含む。ち密度1.8で中、pH(H₂O)4.0内外である。層界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ35cm内外で腐植を欠き、礫に富むSである。色は10YRで彩度3、明度8である。単粒状構造を呈し、斑紋に富む。層界は平坦明瞭である。

第4層は厚さ9cm内外、腐植なく、土性はS(触感)である。色は7.5YRで彩度1、明度5内外である。均質連結状構造を呈し、ち密度は1.7で疎である。層界は平坦明瞭である。

第5層は66cm以下で、礫層である。色は10YRで彩度2、明度7である。単粒状構造で斑紋含む。第3層及び本層はTa-aの二次堆積物である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 恵庭市中央長都 恵44

第1層	0～12cm	腐植に頗る富む灰褐(10YR3/2)のL、本層は泥炭の分解したものである。粉状構造で孔隙に富む、pH(H ₂ O)4.3、湿り半乾、層界平坦や、明瞭。
第2層	12～22cm	腐植を欠く灰褐(10YR7/2)のS、粉塊状構造で孔隙に富む、斑紋含むち密度1.8で中、pH(H ₂ O)4.0、湿り半乾、層界平坦明瞭。
第3層	22～57cm	腐植を欠く黄褐(10YR8/3)のSで浮石礫に富む、単粒状構造で孔隙富む、斑紋に富む、湿り半乾、層界平坦明瞭、本層はTa-a。
第4層	57～66cm	腐植を欠く灰色(2.5YR5/1)のS、均質連結状構造を呈し、斑紋なし、ち密度1.7で疎、湿り湿、層界平坦明瞭。
第5層	66cm以下	5～8mmの浮石礫層である。色は灰褐(10YR7/2)で単粒状構造を呈し斑紋含む、湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含 量重 量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重g	真比 重	全炭 素%	全窒 素%	炭素 率	腐 植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~12	6.5	—	9.6	53.7	26.2	10.5	L	—	—	10.16	0.81	12.5	16.3
2	~22	1.6	—	10.8	80.1	6.0	3.1	S	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 me/100g	置換性塩基 me/100g				飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	4.2	3.6	8.8	25.1	4.3	1.5	0.3		17.1	50	2.6
2	4.0	3.5	12.5	6.1	0.8	0.6	0.2		13.0	160	1.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する主な統としては根志越統、幌加統、千歳統があるが、いずれも母材、堆積様式が異なるため本統と区別される。

A-3 母 材 ヨシ/非固結水成岩

A-4 堆積様式 集積（低位泥炭）/水積（河成堆積）

B 地 形

C 気 候 年平均気温 6.9℃ 年降水量 1,151mm（島松気候観測所）

D 植生及び利用状況

大部分原野であるが現在開発途上にあり、一部は耕地化され牧草類が栽培されている。

E 農業上の留意事項

排水、客土、酸度矯正、施肥の合理化

F 分 布 北海道千歳市字中央長都

調査及び記載責任者 高橋 市十郎（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
長 都	III t II d g w f n

② 土壌区別説明

長 都 統 — 長 都 区

示性分級式（畑）

土	表	有	表	耕	(表)	(表)	(表)	土	(透)	(保)	(自)	(固)	(養)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(障)	(災)	(傾)	(傾)	(侵)	(耐)	(耐)		
壤	土	効	土	土	土	土	地	透	水	水	潤	肥	肥	土	置	効	量	害	有	物	地	自	人	侵	耐	
生	土	土	の	の	の	の	水	水	性	性	度	力	力	層	換	態	要	害	理	す	然	為	耐	耐		
産	の	層	の	の	の	乾	性	性	度	度	度	力	力	の	性	加	害	物	増	傾	傾	傾	耐	耐		
力	厚	深	含	難	粘	土	性	性	度	度	力	力	塩	石	里	素	質	冠	の	方	斜	耐	耐			
可	等	易	量	易	着	硬	性	性	度	度	力	力	基	灰	加	度	の	水	傾	向	斜	耐	耐			
能	級				性	さ	湿	度	度	度	度	否	状	含	土	性	有	危	斜	向	斜	耐	耐			
性					(性)								態	量	多	無	無	險	斜	向	斜	耐	耐			
等													否	量	少	性	性	度	斜	向	斜	耐	耐			
級																						耐	耐			
	t	d	g	p		w				f		n					i	a		s		e				
Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	(2)	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ		
簡略分級式		Ⅲ t Ⅱ dgwfn																								

A 土壌区の特徴

この土壌区は長都統に属する。表土は元来低位泥炭土であるが、排水により分解が進み現状では腐植土程度である。鈹質土の混入も多い。以下はTa-aの水による二次堆積物で礫の無いものと含むものの互層で、薄層の亜泥炭層の挟みも見られる。表土が薄く、砂礫層が浅い。

表土の厚さは12cm、有効土層は70cm内外で浅い。耕起、砕土は容易であるが、過湿のおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。表土の有効態成分は苦土多く、他の養分は中庸であるが酸度が強い。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

大部分原野であるが、一部は耕地化され、牧草類が作付されている。

C 地力保全上の問題点

基幹明渠の完備による排水の促進、及び客土による耕土層の拡大が望まれ、強酸性を呈するから酸度の矯正が必要である。

D 分布 北海道恵庭市字中央長都

記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

石山統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外で腐植含量7~10%前後、土性はSLを主とする。色は10YRで彩度2、明度2内外である。粉状構造を呈し、孔隙富む、斑紋なく、ち密度9で疎、層界は平坦や、明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量7~10%前後土性はSLを主とする。色に10YRで彩度2明度2内外である。粉塊状構造を呈し、孔隙含む、ち密度15で疎、第1、第2層を合せたpH(H₂O) 5.1、層界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ14cm内外で腐植含量15%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで彩度1、明度1.7である。細塊状構造を呈し小孔を含む。ち密度は18で疎、pH(H₂O) 4.7、層界は波状判然である。

第4層は厚さ14cm内外で腐植含量4~5%内外、土性はSL~Lである。色は10YRで彩度3明度2内外である。細塊状構造を呈し小孔含む。浮石礫を含み、ち密度は17で疎、pH(H₂O) 4.8内外、層界は波状判然である。

第5層は厚さ13cm内外で浮石礫を含み土性はSL~Sを主とする。細塊状構造を呈し小孔含む。ち密度は20で中、pH(H₂O) 5.6、層界は平坦や明瞭である。

第6層は76cm以下で礫に富み土性はSを主とする。色は10YRで彩度6、明度6内外である。均質連結状構造を呈し、孔隙なし、ち密度23で中である。

代表的断面形態

(所在地) 広島町 広14

第1層	0~25cm	腐植に富む黒色(10YR 2/2)のSL、礫なく粉状構造を呈し孔隙富む斑紋なくち密度9で頗る疎、湿り半乾、層界平坦や明瞭。
第2層	25~35cm	腐植に富む黒色(10YR 2/2)のSL、礫なく粉塊状構造を呈し孔隙を含む、ち密度15で疎、第1、第2層を混合したpH(H ₂ O) 5.1、湿り半乾、層界は平坦明瞭。
第3層	35~49cm	腐植に頗る富む黒色(10YR 1.7/1)のCL、細塊状構造を呈し、小孔含む、ち密度は18で疎、pH(H ₂ O) 4.7、湿り湿、層界波状漸変。
第4層	49~63cm	腐植を含む黄褐(10YR 2/3)のSL、細塊状構造を呈し小孔含む、浮石礫を含み、ち密度17で疎、pH(H ₂ O) 4.8、湿り湿、層界波状漸変。
第5層	63~76cm	腐植を欠き礫を含む黄褐(10YR 4/4)のSL、細塊状構造で小孔含む、ち密度20で中、pH(H ₂ O) 5.6、湿り湿、層界平坦や明瞭。
第6層	76cm以下	礫に富み黄褐(10YR 6/6)のS、均質連結状構造で孔隙なし、ち密度23で中。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重量 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~35	5.3	—	43.6	26.1	21.1	9.2	SL	119.3	2.57	5.98	0.29	20.8	10.0
2	~49	13.2	—	11.5	35.0	34.0	19.5	CL	103.7	2.55	9.81	0.45	21.9	16.4
3	~63	12.5	—	24.8	47.5	21.7	6.0	SL	101.1	2.63	6.68	0.32	20.9	11.1
4	~76	7.8	—	24.3	53.0	19.3	3.4	SL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.1	4.3	1.3	22.5	7.0	0.3	0.3	31.1	1.407	7.8
2	4.7	4.0	5.6	50.9	9.4	0.8	0.6	18.5	2.733	5.2
3	4.8	4.1	1.9	26.5	2.5	0.2	1.1	9.4	2.723	3.9
4	5.6	5.0	1.3	—	—	—	—	—	—	5.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する主な統としては広島統、輪厚統、などがあるが、本層は表層の腐植含量が少ないので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 3~8°の傾斜を有する波状性台地

C 気候 年平均気温 7.6℃ 年降水量 1,136mm (札幌管区気象台)

D 植生及び利用状況

中ば耕地化され、耕地には、牧草、デントコーン、馬鈴薯などが栽培されている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物の施用、排水、侵蝕防止

F 分布 北海道広島町

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
石山	llwfnse

② 土壌区別説明

石山統一石山区

示性分級式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表)	(表)	(表)	土	(透)	(保)	自	(保)	(固)	(養)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(障)	(災)	(傾)	(傾)	(傾)	(侵)	(耐)	(耐)									
壤	土	効	土	土	表	表	土	地	水	水	然	肥	肥	土	換	効	量	害	有	增	地	自	人	侵	耐	耐									
生	土	土	層	の	の	の	の	の	性	性	度	沃	力	力	の	苦	加	磷	害	冠	す	然	為	水	風	風									
産	力	の	の	の	粘	乾	乾	性	性	度	沃	力	力	の	石	里	酸	無	水	べ	の	傾	傾	蝕	蝕	蝕									
力	可	の	の	の	着	土	土	性	性	度	沃	力	力	の	灰	土	素	性	の	り	の	方	蝕	蝕	蝕										
能	性	厚	深	含	難	(性)	(硬)	湿	湿	度	度	度	度	否	含	量	度	性	性	危	斜	斜	蝕	蝕	蝕										
等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等									
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級									
	t	d	g	p		w		f		n							i		a		s		e												
Ⅱ	1	1	1	1	1	1	(2)	Ⅱ	2	2	2	Ⅱ	1	2	3	Ⅱ	2	3	1	2	1	2	1	1	1	1	1	Ⅱ	2	-	-	Ⅱ	1	2	1
簡略分級式		Ⅱ wfnse																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は石山統に属する。小面積づつ数ヶ所に分散しており、下層土はやゝ堅密で透水性が悪く、やゝ湿性を呈する。表土の厚さは25cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土は粗粒質で耕起・碎土が容易であるが、下層は透水不良で過湿のおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。作土の有効態成分は苦土少なく、石灰、磷酸中庸で加里は多く、養分の豊否は中庸である。有害物質による障害性、及び災害性の心配はないが、やゝ傾斜を有し、表土が粗粒で豪雨時に水による侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

中は耕地化され、耕地には牧草、デントコーン、馬鈴薯などが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

傾斜地が多く、表土の土性はやゝ粗粒質で粘着性も弱く、水による侵蝕のおそれが大きいので侵蝕防止対策が必要で、このためには牧草類の導入、有機物を多用して耕土層の深化を維持することが大切で、施肥面では苦土の施用が望まれる。

D 分布 北海道広島町

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

西ノ里統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外、腐植含量10~14%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで彩度1、明度2内外である。礫なく細塊状構造を呈し小孔富む。斑紋なく、ち密度1.2で疎、pH(H₂O)

5.4 内外、層界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ11cm内外、腐植含量10~14%、土性はLiCを主とする。色は10YRで彩度1、明度1.7内外である。礫なく細塊状構造を呈し小孔富む、斑紋なし、ち密度1.8で疎、pH(H₂O) 5.2、層界は平坦や明瞭である。

第3層は厚さ7cm内外、腐植含量は4~6%内外、土性はLiCを主とする。色は10YRで彩度1、明度3内外である。塊状構造を呈し、細孔含む。斑紋あり程度で、ち密度1.5で疎である。pH(H₂O) 5.0、層界は平坦や明瞭である。

第4層は厚さ8cm内外で、腐植を欠き土性はLiCを主とする。色は10YRで彩度4、明度5内外である。単一構造を呈し、孔隙はなし。斑紋含み、ち密度は2.5で密、pH(H₂O) 4.9、層界は平坦や明瞭である。

第5層は51cm以下で腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は10YRで彩度2、明度6内外である。板状構造を呈し、孔隙なし、斑紋に富み、ち密度は2.6~3.0で密~頗る密である。pH(H₂O) 5.9内外である。

代表的断面形態

(所在地) 札幌郡広島町字大曲 46広 29

第1層	0~25cm	腐植に頗る富む黒色(10YR 2/1)のCL、細塊状構造で小孔富む、斑紋なく、ち密度1.2で疎。pH(H ₂ O) 5.4、湿り半乾、層界平坦明瞭。
第2層	25~36cm	腐植に頗る富む黒色(10YR 1.7/1)のLiC、細塊状構造で小孔富む、斑紋なく、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O) 5.2、湿り湿、層界平坦や明瞭。
第3層	36~43cm	腐植に富む黒色(10YR 3/1)のLiC、塊状構造で細孔含む。斑紋あり程度で、ち密度は1.5で疎、pH(H ₂ O) 5.0、湿り湿、層界平坦や明瞭。
第4層	43~51cm	腐植を欠く黄褐(10YR 5/4)のLiC、単一構造で孔隙なし、斑紋含み、ち密度は2.5で密、pH(H ₂ O) 4.7、湿り湿、層界平坦やや明瞭。
第5層	51cm以下	腐植を欠く灰褐(10YR 6/2)のLiC、板状構造で孔隙なし、斑紋富み、ち密度は2.6~3.0で密~頗る密、pH(H ₂ O) 5.9、湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含 量重 量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地 容積 重g	真比 重	全炭 素%	全窒 素%	炭素 率	腐 植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	6.0	—	27.1	20.8	31.8	20.3	CL	1227	2.55	7.71	0.44	17.5	12.8
2	~36	9.5	—	4.1	24.4	39.5	32.0	LiC	1315	2.64	7.91	0.35	22.5	13.2
3	~43	6.4	—	5.6	20.4	36.3	37.7	LiC	1507	2.64	3.60	0.15	24.5	6.0
4	~51	0.7	—	7.3	26.3	35.6	30.8	LiC	1889	2.70	1.08	0.04	30.9	1.8
5	51~	4.9	—	14.5	24.4	31.9	29.2	LiC	1897	2.74	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.4	4.7	0.4	36.7	21.3	1.1	0.2		58.0	1,513	8.8
2	5.2	4.3	8.8	51.2	12.3	1.5	0.2		24.0	2,314	6.8
3	5.0	4.1	8.1	27.9	8.1	1.5	0.1		29.0	1,553	8.5
4	4.7	4.0	3.8	—	—	—	—		—	781	10.4
5	5.9	4.4	0.8	19.7	11.7	4.1	0.2		59.4	791	7.5

A-2 他の土壌との関係

本統に隣接する主な統としては広島統があるが広島統は土性がやや粗くなるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 ほぼ平坦な台地

C 気候 年平均気温 7.6℃ 年降水量 1,136mm (札幌管区气象台)

D 植生及び利用状況

大部分耕地化され、牧草、デントコーンなどの飼料作物と、馬鈴薯及び野菜類が多く栽培されている。

E 農業上の留意事項

排水、心土破砕、深耕、酸度矯正、有機物の施用、侵蝕防止

F 分布 北海道札幌郡広島町字西ノ里

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
西ノ里-1	II t d p w f
西ノ里-2	III w II t p f
西ノ里-3	III w II t p f

② 土壌区別説明

西ノ里統-1区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の運搬の難易	耕土の粘着性	(表土の乾土の硬さ)	(表土の風乾土の硬さ)	土壌の透水性	自然保湿度	自然保肥力	固定力	土層の塩基状態	置換性石灰含量	" " "	苦土含量	加里	有効態磷素	微量要素	酸要度	有害物質の有無	物理的障害性	増冠水の危険度	地すべりの危険度	傾斜	自然傾斜	人為傾斜	人為傾斜	侵蝕	耐蝕性	耐風蝕性	
	t	d	g	p		w			f		n							i		a		s				e				
II	II	II	I	II	2	2	II	2	2	2	II	1	3	3	1	1	2	2	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式		II t d p w f																												

A 土壤区の特徴

この土壤区は西ノ里統に属する。表土の厚さは25cm以下で、有効土層は50cm内外で中庸である。表土の土性は粘質で粘着性が強く、耕起、砕土にはやゝ困難を伴う。下層の土性は細粒質でそのうえ極めて堅密で透水性が悪く、過湿のおそれがある。保肥力大、固定力小、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。表土の有効態成分は石灰が多く、他の養分は中庸で養分の豊否は多い。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、馬鈴薯、そ菜類が多く、一部デントコーン、牧草などの飼料作物も栽培されている。

C 地力保全上の問題点

比較的土壤条件が良く、作土層もやゝ深いが有機物を施用しながら、耕土層を深く保つ必要がある。下層はかなり堅密で透水性の悪いところは暗渠による排水が必要である。

D 分布 北海道札幌郡広島町大曲及び西ノ里

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

② 土壤区別説明

西ノ里統一2区

示性分級式（畑）

土	表	有	表	耕	(表	(表	土	((自	((養	((((障	(災	(傾	((侵	((
壤	土	効	土	土	表	表	地	透	保	湿	然	保	固	土	分	置	有	微	酸	有	物	理	地	自	傾	人	侵	耐
生	土	土	の	の	土	土	の	水	水	潤	肥	肥	定	層	換	効	効	量	害	害	害	増	地	然	傾	為	耐	
産	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	沃	力	力	の	性	苦	加	要	無	障	害	冠	す	傾	斜	斜	耐	
力	層	層	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	の	性	苦	加	要	無	障	害	水	べ	傾	斜	斜	耐	
可	の	の	の	の	の	の	性	性	度	沃	力	力	の	性	苦	加	要	無	障	害	の	の	傾	斜	斜	斜	耐	
能	厚	深	含	難	粘	着	性	性	度	沃	力	力	の	性	苦	加	要	無	障	害	有	の	傾	斜	斜	斜	耐	
性	の	の	の	の	の	の	性	性	度	沃	力	力	の	性	苦	加	要	無	障	害	無	の	傾	斜	斜	斜	耐	
等	易	易	易	易	易	易	性	性	度	沃	力	力	の	性	苦	加	要	無	障	害	無	の	傾	斜	斜	斜	耐	
級	さ	さ	量	量	量	量	性	性	度	沃	力	力	の	性	苦	加	要	無	障	害	無	の	傾	斜	斜	斜	耐	
	t	d	g	p		w		f		n									i		a		s		e			
Ⅲ																												
簡略分級式	w tpf																											

A 土壤区の特徴

この土壤区は西ノ里統に属する。前区に比較して土性がやゝ粗い傾向を示し、下層はより湿性を呈し、湧水面が80cm内外である点で区分される。

表土の厚さは18cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は細粒質で粘着性も強く耕起・砕土にはやゝ困難を伴うことも多く、下層は堅密で透水性不良で過湿のおそれが多い。保肥力大、固定力中、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。表土の有効態成分は磷酸中庸で他の養分は多く、養分の豊否は多い。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、そ菜類が多く、馬鈴薯、デントコーン、牧草などが作付されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠による排水の促進、及び心土相当層が堅密であるから深耕あるいは心土破碎により、土層を膨軟にし根圏の拡大を図る必要がある。

D 分布 北海道札幌郡広島町字西ノ里

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

② 土壤区別説明

西ノ里統 一 3 区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の粘着性	耕起の難易	表土の乾着性	表土の乾着性	表土の乾着性	透水性	保湿度	自然肥沃度	固定力	土層の塩基状態	置換性	苦土含量	加里	微量要素	有害物質の有無	物理的障害性	増冠水の危険度	地すべりの危険度	自然傾斜	人為傾斜	侵蝕度	耐風性	耐水性		
t	d	g	p		w				f		n						i	a	s			e					
Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ		
簡略分級式					Ⅱw		Ⅱtpf																				

A 土壌区の特徴

この土壌区は西ノ里統に属する。心土層以下が全般的に堅密で透水性が悪く、湿性を呈し、斑紋に富むので区分した。表土の厚さは18cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は細粒質で粘着性も強く、耕起・碎土にはやゝ困難を伴ない、下層土は堅密で透水性が悪く過湿のおそれが多い。保肥力大、固定力小、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。表土の有効態成分は苦土中で他の養分は多く、養分の豊否は多い。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、牧草、デントコーン、馬鈴薯が多く、一部、そ菜類、果樹もつくられる。

C 地力保全上の問題点

明・暗渠による排水の促進と、深耕あるいは心土破碎により、土壌を膨軟化することにより耕土層の深化を図る必要がある。

D 分 布 北海道札幌郡広島町字西ノ里

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

野 幌 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ21cm内外で腐植含量8~13%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで彩度2、明度3内外である。粉塊状構造を呈し、ち密度は1.5で疎である。pH(H₂O)5.3内外、層界は漸変である。

第2層は厚さ14cm内外で腐植含量4~8%、土性はL~CLを主体とする。色は10YRで彩度

4、明度4内外である。細塊状構造を呈し小孔に富む。ち密度は20で中である。pH (H₂O) 5.7
層界は平坦や明瞭である。

第3層は厚さ28cm内外で腐植含量2~3%、土性はCLを主とする。色は10YRで彩度6、明
度6内外である。塊状構造を呈し小孔含む、斑紋含み、ち密度は20で中である。pH (H₂O) 5.4
内外、層界は平坦や明瞭である。

第4層は63cm以下で腐植を欠き土性はCL~Cである。色は10YRで彩度4、明度6内外であ
る。塊状一部板状構造を呈し、孔隙はなし。斑紋なくち密度は23で中、湧水面は85cm内外である。

代表的断面形態

(所在地) 札幌郡広島町字西ノ里 16. 広 32

第1層	0~21cm	腐植に頗る富む灰褐(10YR 3/2)のCL、礫なく粉塊状構造を呈し孔隙に富む、ち密度15で疎、pH (H ₂ O) 5.3、湿り半乾、層界漸変
第2層	21~35cm	腐植に富む黄褐(10YR 4/4)のL、礫なく細塊状構造を呈し小孔に富む、斑紋なくち密度20で中、pH (H ₂ O) 5.7、湿り半乾、層界平坦やや明瞭。
第3層	35~63cm	腐植を含む黄褐(10YR 6/6)のCL、礫なく塊状構造を呈し、小孔含む、斑紋含みち密度20で中、pH (H ₂ O) 5.4、湿りやや湿、層界は平坦やや明瞭。
第4層	63cm以下	腐植を欠き黄褐(10YR 6/4)のC~CL(触感)、礫なく塊状、一部板状構造で孔隙なし、ち密度23で中、湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含 量重 量g	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積 重 g	真比 重	全炭 素 %	全窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~21	7.0	-	2.67	18.3	31.3	23.7	CL	-	-	7.40	0.46	1.62	12.3
2	~35	9.5	-	7.8	47.2	31.0	14.0	L	-	-	4.96	0.29	1.69	8.3
3	~63	7.4	-	8.2	25.8	42.6	23.4	CL	-	-	1.89	0.09	2.05	3.2

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.6	0.8	31.2	15.0	2.2	1.3	4.81	1.671	4.6
2	5.7	4.8	0.5	29.8	10.5	1.5	0.8	3.52	2.469	4.3
3	5.4	4.4	1.5	19.1	6.2	1.9	0.5	3.25	1.793	7.5

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては西ノ里統があるが本統は腐植層が幾分浅いので区分される。

- A-3 母材 非固結火成岩
- A-4 堆積様式 洪積世堆積
- B 地形 ほぼ平坦な波状性台地
- C 気候 年平均気温 7.6℃ 年降水量 1,136mm (札幌管区气象台)
- D 植生及び利用状況 耕地には、そ菜類が多く栽培されている。
- E 農業上の留意事項 深耕、心土破碎
- F 分布 北海道札幌郡広島町字西ノ里
調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)
年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
野 幌 南	lltpwf

② 土壌区別説明

野幌南統一野幌南区

示性分級式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 層 厚 度	有 効 土 層 厚 度	表 土 層 粘 着 性	耕 転 難 易	表 土 層 粘 着 性	表 土 層 乾 燥 性	土 層 透 水 性	自 然 保 固 力	養 分 分 布 状 態	置 換 性 石 灰 含 量	有 効 苦 里 酸 量	微 量 磷 素	酸 性 度	障 害 物 質 有 無	物 理 的 障 害 性	災 害 危 險 度	地 冠 水 危 險 度	傾 斜 危 險 度	傾 斜 危 險 度	侵 蝕 度	耐 蝕 性	耐 風 蝕 性	
t	d	g	p		w		f		n				i	a	s					e			
ll	ll	ll	ll	2	2	2	ll	2	2	2	ll	1	1	1	2	1	2	ll	1	1	ll	1	1
簡略分級式 lltpwf																							

A 土壌区の特徴

この土壌区は野幌南統に属する。表土の厚さは21cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粘質で粘着性もやや強く、耕起・碎土にはやや困難を伴う場合もある。又、心土層以下は

堅密となり透水性の悪いところも多いし、一部には過湿のおそれがある。保肥力大、固定力中、塩基状態中庸で自然肥沃度は中庸である。作土の有効態成分は苦土中庸で他の養分は多く、養分の豊否は多い。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況 耕地には、そ菜類が多く栽培されている。

C 地力保全上の問題点

心土層が堅密であるが心土破砕あるいは深耕により土壌を膨軟化し、根圏域の拡大を図る必要がある。又、一部では透水性が悪く湿性を呈するから、暗渠による排水の促進も望まれる。

D 分 布 北海道札幌郡広島町字西ノ里

記載責任者 高 橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

広 島 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、腐植含量10~14%内外、土性はSLを主としLの場合もある。色は10YRで彩度1、明度2内外である。粉状構造を呈し、小孔富む、ち密度1.2で疎、pH(H₂O)4.6、層界は平坦や\明瞭である。

第2層は厚さ13cm内外、腐植含量8~12%内外、土性はCLを主とし、L~SLの場合もある。粉状構造を呈して小孔に富む。ち密度は1.4~1.6で疎である。pH(H₂O)4.9、層界は波状漸変である。尚本層上部5cm内外は腐植含量15%内外である。

第3層は厚さ24cm内外、腐植含量3~5%内外、土性はCL~LでSLの場合もある。色は10YRで彩度4、明度4内外である。粉塊状構造を呈し、小孔に富む。斑紋なく、ち密度は1.5で疎、pH(H₂O)5.2、層界は平坦や\明瞭である。

第4層は厚さ17cm内外、腐植を欠き、土性はLを主とする。色は7.5YRで彩度6、明度5内外である。礫なく塊状構造を呈し、孔隙は含む、ち密度は1.8で疎である。pH(H₂O)5.3、層界は平坦や\明瞭である。

第5層は74cm以下で腐植を欠き土性はSL~LSである。色は10YRで彩度6、明度4内外である。礫なく盤状構造を呈し孔隙はない。斑紋なくち密度は2.8で密である。pH(H₂O)5.8内外である。

代表的断面形態

(所在地) 札幌郡広島町字大曲 46広28

第1層	0~20cm	腐植に頗る富む黒色(10YR2/1)のL、礫なく粉状構造を呈し、小孔富む、斑紋なく、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)4.6、湿り半乾、層界は平坦や明瞭。
第2層	20~33cm	腐植に頗る富む黒色(10YR3/2)のSL、礫なく粉状構造を呈し、小孔富む、斑紋なく、ち密度1.4~1.6で疎、pH(H ₂ O)4.9、湿り半乾、層界は波状漸変、尙本層上部5cm内外は腐植含量15%内外で色は黒色(10YR2/1)である。
第3層	33~57cm	腐植に富む黄褐(10YR4/4)のSL、礫なく粉塊状構造を呈し、小孔富む、斑紋なく、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.2、湿り半乾、層界は平坦や明瞭。
第4層	57~74cm	腐植を欠く黄褐(7.5YR5/6)のL、礫なく塊状構造で小孔含む、斑紋なく、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)5.3、湿り半乾、層界平坦や明瞭。
第5層	74cm以下	腐植を欠く黄褐(10YR4/6)のSL、礫なく盤状構造で孔隙なし、ち密度2.8で密、pH(H ₂ O)5.8、湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含 量重 量%	粒径組成%				土性	現地容積 重 g	真比 重	全炭 素%	全窒 素%	炭素 率	腐 植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	6.9	—	38.5	24.8	24.6	12.1	L	1243	2.59	7.71	0.42	18.2	12.8
2	~33	8.7	—	24.5	46.5	17.8	11.2	SL	1029	2.77	7.61	0.45	17.1	12.7
3	~57	9.8	—	11.5	60.4	25.1	3.0	SL	1119	2.82	3.60	0.23	15.7	6.0
4	~74	8.4	—	14.7	44.4	32.4	8.5	L	1265	2.92	—	—	—	—
5	74~	6.9	—	23.3	61.8	13.5	1.4	LS	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y:	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	4.6	4.1	3.1	29.9	9.2	0.2	0.6	3.08	1.940	9.1	
2	4.9	4.2	1.3	19.8	9.1	1.2	0.3	4.60	2.302	6.7	
3	5.2	4.7	0.4	20.2	5.3	0.5	0.2	2.62	2.504	6.2	
4	5.3	4.8	0.4	15.8	3.9	0.2	0.2	2.47	2.365	4.2	
5	5.8	5.0	0.6	—	—	—	—	—	1.985	5.4	

A 土壌区の特徴

この土壌区は広島統に属する。表土の厚さは20～25cm、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕起・砕土は容易であり、比較的透水性も良いので過湿および過干のおそれが少ない。保肥力大、固定力中、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。表土の有効態成分は苦土少なく、磷酸中庸で、その他の養分は多く養分の豊否は多いが酸度が強い。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

耕地には主として牧草、デントコーン、馬鈴薯などが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

障害性の少ない土壌であるが、有機物を施用して深耕することにより作物の根圏域の拡大維持に努める必要がある。施用面では苦土、及び磷酸の増施と、酸度矯正も望まれる。

D 分 布 北海道札幌郡広島町字輪厚

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

② 土壌区説明

広島統 — 2 区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の層の厚さ	表土の難含	表土の粘着性	表土の乾硬性	地の水性	透水性	保湿度	自然肥力	固定力	土層の塩基状態	分置の灰含量	有効苦土量	微量磷酸素	酸量要	有害物質の有無	物理的障害性	増冠水の危険度	地すべりの危険度	自然傾斜	人為的傾斜	侵入的傾斜	耐風蝕性	耐水蝕性	
	t	d	g	p	w		f			n				i	a		s			e				
II	1	1	1	2	2	1	2	2	2	1	3	3	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式	llwf																							

A 土壌区の特徴

この土壌区は広島統に属する。下層に浮石礫を混じや、湿性を呈するので区分した。表土の厚さは25cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は主として中粒質であり、耕起・砕土は容易であるが、下層は透水性が悪く、一部湿性を呈し過湿のおそれがある。保肥力大、固定力中、塩基状態不良で、自然肥沃度は中庸である。表土の有効態成分は苦土、磷酸が中、その他の養分は多く、養分の豊否は多い。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

耕地には牧草、デントコーン、馬鈴薯などが主に栽培されている。

C 地力保全上の問題点

対策は前区とほぼ同様であるが排水の考慮も必要であろう。

D 分 布 北海道札幌郡広島町字輪厚

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

輪 庫 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ26cm内外、腐植含量8~12%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで彩度1、明度3内外である。礫なく粉塊状構造を呈し、小孔富む。斑紋なく、ち密度1.0~1.4で疎、pH(H₂O) 5.5、層界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ17cm内外、腐植含量15%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで彩度1、明度2内外である。礫なく細塊状構造を呈し、小孔に富む。斑紋なく、ち密度は1.8で疎である。pH(H₂O) 5.1、層界は波状漸変である。

第3層は厚さ12cm内外、腐植含量2~6%内外、土性はCL~Lである。色は10YRで彩度3、明度5内外である。円礫を含み塊状構造を呈し、小孔に富む。斑紋なく、ち密度2.0で中、pH(H₂O) 5.1、層界は平坦や明瞭である。

第4層は55cm以下で腐植を欠き、土性はCLを主とする。色は10YRで彩度6、明度6内外である。円礫を含み塊状構造を呈し、孔隙はなし。斑紋はなく、ち密度は2.3で中、pH(H₂O) 5.3内外である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 札幌郡広島町 66広24

第1層	0~26cm	腐植に頗る富む黒色(10YR 3/1)のSL、礫なく粉塊状構造で小孔富む。斑紋なく、ち密度1.0~1.4で疎、pH(H ₂ O) 5.5、湿り半乾、層界平坦明瞭
第2層	26~43cm	腐植に頗る富む黒色(10YR 2/1)のCL、礫なく細塊状構造で小孔に富む。斑紋なく、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O) 5.1、湿り半乾、層界波状漸変。
第3層	43~55cm	腐植に富む黄褐色(10YR 5/3)のLで円礫を含む。塊状構造で小孔に富む、斑紋なく、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O) 5.1、湿り半乾、層界平坦やや明瞭
第4層	55cm以下	腐植を欠き円礫を含む黄褐色(10YR 6/6)のCL、塊状構造で孔隙なし。斑紋なく、ち密度2.3で中、pH(H ₂ O) 5.3、湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~26	5.6	—	41.2	24.4	25.1	9.3	SL	133.3	2.46	6.24	0.33	19.0	10.4
2	26~43	14.2	—	10.6	32.6	39.3	17.5	CL	122.5	2.41	9.02	0.44	20.5	15.0
3	43~55	12.1	—	10.5	50.2	32.1	7.2	L	129.8	2.62	3.50	0.18	18.6	5.8
4	55~	8.9	—	8.1	32.9	42.3	16.7	CL	143.2	2.79	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.5	4.7	0.6	23.4	12.4	0.7	0.8		53.0	1.497	13.3
2	5.1	4.5	1.3	52.3	19.2	1.6	1.1		36.7	2.787	10.4
3	5.1	4.6	0.6	19.5	6.6	0.5	1.6		33.8	2.403	7.8
4	5.3	4.8	0.4	16.1	6.7	0.4	2.4		41.6	1.847	7.8

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては広島統、島松中央統がある。広島統は本統より表土の土性が細かく、島松中央統は沢地の沖積地で、堆積様式が異なる点で本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積（凝灰質）

B 地形 緩波状性台地

C 気候 年平均気温 7.6℃ 年降水量 1,136mm (札幌管区气象台)

D 植生及び利用状況

耕地には牧草、デントコーンなどが多く栽培されている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物の施用、侵蝕防止、施肥の合理化、一部排水

F 分布 北海道札幌郡広島町字大曲

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
輪厚 — 1	lltse
輪厚 — 2	lltfse

② 土壤区別説明

輪厚統 — 1 区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	表土の層の深さ	表土の層の難易	耕起の粘着性	表土の風乾の硬さ	土壌の透水性	水の潤度	自然肥力	固定力	土層の塩基状態	置換性石灰含量	苦土含量	加里	有効態リン素	微量要素	酸害	有害物質の有無	物理的障害	増冠水の危険度	地すべりの危険度	自然傾斜	人為傾斜	侵蝕	耐水性	耐風蝕性			
t	d	g	p		w		f			n						i		a		s			e					
1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	2	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	—	—	1	2	1
簡略分級式					t s e																							

A 土壤区の特徴

この土壤区は輪厚統に属する。表土の厚さは26cm内外で有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粗粒質で粘着性が弱く、耕起・砕土は容易で、過湿および過干のおそれも少ない。保肥力大、固定力小、塩基状態中庸で自然肥沃度は高い。作土の有効態成分は苦土中でその他の養分は多く、養分の豊否は多い。特殊な障害性及び災害性の心配はないが、多少傾斜があり表土の土壌の粘着性が弱く、侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

耕地には牧草、デントコーンなどの飼料作物が多く栽培されている。

C 地力保全上の問題点

侵蝕防止対策が必要で、そのためには有機物を施用しながら深耕して、作物の根圏域を広げ耕土層を深く保つことが望まれる。

D 分布 北海道札幌郡広島町字輪厚

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

② 土壤区別説明

輪厚統 — 2 区

示性分級式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	土	((自	((養	(((障	(災	(傾	((侵	((
壤	土	効	土	土	表	表	地	透	保	湿	然	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	
生	の	土	の	の	土	土	の	水	水	潤	肥	肥	定	層	換	効	量	害	理	冠	す	然	傾	為	侵	耐		
産	層	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	の	性	苦	加	要	害	水	べ	傾	方	蝕	蝕			
力	の	厚	深	含	粘	着	湿	((((((否	土	里	素	無	の	り	斜	斜	蝕	蝕				
可	の	さ	さ	量	性	性	((((((((((((性	の	斜	蝕	蝕	蝕				
能	厚	さ	深	易	性	性	湿	(((((((((((性	の	斜	蝕	蝕	蝕				
性	厚	さ	深	易	性	性	湿	(((((((((((性	の	斜	蝕	蝕	蝕				
等	さ	さ	深	易	性	性	湿	(((((((((((性	の	斜	蝕	蝕	蝕				
級	さ	さ	深	易	性	性	湿	(((((((((((性	の	斜	蝕	蝕	蝕				
	t	d	g	p			w			f			n					i		a		s		e				
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	(2)	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	—	—	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
簡略分級式							Ⅱ t f s e																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は輪厚統に属する。前区に比べて斜面の低部にあり、礫層が深く、上部からの滲透によって一部湿性を呈するので区分される。表土の厚さは12cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土の土性はやゝ粗粒質で粘着性が弱く耕起・砕土は容易で、過干のおそれはないが、過湿のおそれは部分的に多少ある。保肥力大、固定力大、塩基状態不良で自然肥沃度は中庸である。表土の有効態成分は苦土少なく、その多の養分は多い。特殊の障害性および災害性はないが、侵蝕のおそれが多少ある。

B 植生及び利用状況

耕地には牧草、デントコーンが多く栽培されている。

C 地力保全上の問題点

前区とほぼ同様の対策が望まれ、更に排水対策が部分的に、施肥面では苦土の増施が必要と思われる。

D 分布 北海道札幌郡広島町字輪厚

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験別

日 付 昭和36年3月31日

南ノ里統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、腐植含量8~12%、土性はLを主とする。色は10YRで彩度し、明度3である。礫なく粉塊状構造を呈し小孔富む。斑紋なくち密度5で頗る疎である。PH(H₂O) 4.9、層界は平坦や>明瞭。

第2層は厚さ10cm内外、腐植含量10~14%内外、土性はL~CLである。色は10YRで彩度1、明度2である。細塊状構造を呈し小孔富む。ち密度18で疎、PH(H₂O) 5.0、層界は波状漸変である。

第3層は厚さ17cm内外、腐植含量3~4%まれに8~10%、土性はL~SL、色は10YRで彩度4、明度4内外である。細塊状構造を呈し、小孔含む。ち密度は18で疎、PH(H₂O) 5.0、層界は平坦や>明瞭である。

第4層は厚さ23cm内外で腐植を欠き、土性はL~SLである。色は10YRで彩度4、明度5内外である。塊状構造を呈し、細孔含む。ち密度で中、PH(H₂O) 5.2、層界は平坦や>明瞭。

第5層は70cm以下で腐植を欠き土性はL~SLである。色は10YRで彩度6、明度6である。塊状、一部盤状構造を呈し、孔隙なし、ち密度は26で密である。

代表的断面形態

札幌郡広島町字南ノ里 Ⅱ広13

第1層	0 ~ 20cm	腐植に頗る富む黒色(10YR3/1)のL、礫なく粉状構造で小孔富む、斑紋なくち密度5で頗る疎、PH(H ₂ O) 4.9、湿り半乾、層界平坦明瞭。
第2層	20 ~ 30cm	腐植に頗る富む黒色(10YR2/1)のL、礫なく細塊状構造で小孔富む、斑紋なくち密度18で疎、PH(H ₂ O) 5.0、湿り半乾、層界波状漸変。
第3層	30 ~ 47cm	腐植に富む黄褐色(10YR4/4)のSL、細塊状構造で小孔含む。ち密度18で疎、PH(H ₂ O) 5.0、湿り半乾、層界平坦や>明瞭。
第4層	47 ~ 70cm	腐植を欠く黄褐色(10YR5/4)のSL、塊状構造を呈し細孔含む。ち密度21で中、PH(H ₂ O) 5.2、湿り半乾、層界平坦や>明瞭。
第5層	70cm以上	腐植を欠く黄褐色(10YR6/6)のL~SL、塊状、一部盤状構造を呈し孔隙なし、ち密度26で密、湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率 %	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	55	—	432	216	228	124	L	1272	252	7.09	0.40	17.6	118
2	~30	10.1	—	199	385	293	123	L	1243	223	8.35	0.42	19.7	13.9
3	~47	9.5	—	10.4	587	266	43	S L	1117	264	5.26	0.25	21.3	88
4	~70	8.2	—	145	632	175	48	S L	1115	281	—	—	—	—

層位	p H		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態酸 me/100g
	H ₂ O	KC l			CaO	MgO	K ₂ O			
1	49	42	23	25.9	8.0	0.9	0.4	30.9	149.6	10.7
2	5.0	4.4	0.6	3.37	8.5	0.5	0.3	2.52	23.93	8.1
3	5.0	4.5	0.6	2.28	3.8	0.3	0.5	1.67	24.44	4.2
4	5.2	4.7	0.4	1.23	2.5	0.2	0.5	2.03	20.67	5.2

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては広島統及び島松中央統がある。

広島統は台地に分布し、土性もやや細かいが、本統は低位段立に分布し、土性がやや細かい傾向を示す。

又、島松中央統は沢地の沖積地である堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 ほぼ平坦な低位段丘

C 気 候 年平均気温 7.6℃ 年降水量 1,136mm（札幌管区気象台）

D 植生及び利用状況 殆んど耕地化され、牧草、デントコーン、馬鈴薯、てん菜、そ菜類が

E 農業上の留意事項 深耕、施肥の合理化、一部排水

F 分 布 北海道札幌郡広島町字南ノ里

調査及び責任者 高橋 市十郎 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
南ノ里	It1

② 土壌区別説明

南ノ里統 — 南ノ里区

示性分級式（畑）

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤生土 産力の 可能厚 性等 級	効土 土の 層の の 深 さ	(表土の 風乾の 粘着性 性)	(透保湿 然保固 肥定塩 基状豊 力力態 度度度 度)	(置換 の石苦 灰土里 含量 量)	(有微酸 害物質 的障害 無性)	(增冠す 水の危 険度)	(地すべ りの危 険度)	(自傾人 然斜為 傾の傾 斜方斜 向向向 向)	(耐耐 水風 蝕蝕 性性)
t a g p	w	i	o	i	a	s	e		
II 1 1 (2)	I 2 2 1	II 1 2 3	I 1 2 1 1 1 3	I 1 1	I 1 1	I 1 1	- - I 1 1 1		
簡略分級式		t i							

A 土壌区の特徴

この土壌区は南ノ里統に属する。本区は島松から広島に至る道々沿いの低位段丘に分布する。表土の厚さは20cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は中粒質で粘着性が弱く。耕起、砂土は容易で、過湿および過干のおそれが少ない。保肥力大、固定力小、塩基状態不良で自然肥沃度は中 で養分の豊否は多い。特殊の障害性はない。

B、植生及び利用状況

殆んど耕地化され、牧草、デントコーン、馬鈴薯、てん菜、そ菜類が栽培されている。

C、地力保全上の問題点

比較的生産力は高いが、深耕により作物の根圏域を拡大維持する必要がある。

D、分 布

北海道札幌郡広島町字南ノ里

記載責任者 高 橋 市 十 郎 （北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和46年3月31日

中 ノ 沢 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外、腐植含量6~10%、土性はSLを主とする。色は10YRで彩度2、

明度3内外である。粉塊状構造を呈し、小孔に富む。斑紋なく、ち密度B~15で疎、層界平坦明瞭である。尚本層は径5~10cmの円礫を含み、下部8cm内外は腐植含量がや多く黒色を呈する。

第2層は厚さ23cm内外、腐植含量は3%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで彩度4、明度4内外である。粉塊状構造を呈し、小孔に富む。ち密度は15で疎、PH(H₂O)4.7、層界は平坦や明瞭である。

第3層は厚さ20cm内外、腐植を欠き、土性はSLを主とする。色は10YRで彩度6、明度5である。単粒状構造を呈し孔隙含む。ち密度は21で中、PH(H₂O)5.0、層界平坦や明瞭である。

第4層は68cm以下で腐植を欠き、土性はSL~Sである。色は7.5YRで彩度6、明度5内外である。単粒状構造を呈し孔隙を含む。ち密度は16で疎である。

代表的断面形態

(所在地) 札幌郡広島町字中ノ沢広15

第1層	0~25cm	腐植に富む灰褐(10YR3/2)のSL、粉塊状構造で小孔富む。斑紋なくち密度13~15で疎、PH(H ₂ O)5.0、湿り半乾、層界平坦明瞭、尚本層は円礫を含み、下部8cm内外は黒色(10YR2/2)である。
第2層	25~48cm	腐植を含む黄褐(10YR4/4)のSL、粉塊状構造で小孔富む。斑紋なくち密度15で疎、PH(H ₂ O)4.7、湿り半乾、層界平坦や明瞭。
第3層	48~68cm	腐植を欠く黄褐(10YR5/6)のSL、単粒状構造で孔隙含む。ち密度21で中、PH(H ₂ O)5.0、湿り半乾、層界平坦や明瞭。
第4層	68cm以下	腐植を欠く黄褐(7.5YR5/6)のS~SL、単粒状構造で孔隙含む。ち密度16疎湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	6.0	—	363	302	229	106	SL	—	—	5.11	0.25	20.7	85
2	~48	4.8	—	239	417	232	112	SL	—	—	1.69	0.06	26.8	28
3	~68	3.6	—	253	483	20.1	63	SL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 f ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl %			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.0	4.4	10	17.2	5.8	0.5	0.5	33.7	1,583	14.1
2	4.7	4.0	5.0	11.1	2.2	0.4	0.3	19.8	1,485	6.5
3	5.0	4.0	18.0	8.7	1.8	0.3	0.8	20.7	798	11.7

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する主な統としては広島統があるが、本統は円礫を含む点で広島統と区別される。

- A-3 母材 非固結火成岩
- A-4 堆積様式 洪積世堆積
- B 地形 ほぼ平坦
- C 気候 年平均気温 7.6℃ 年降水量 1,136mm (札幌管区気象台)
- D 植生及び利用状況 牧草や他の飼料作物が多く栽培されている。
- E 農業上の留意事項 有機物施用、侵蝕防止
- F 分布 北海道札幌郡広島町

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)
 年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中ノ沢	II t g i n s e

② 土壌区別説明

中ノ沢統	—	中ノ沢区
------	---	------

示性分級式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
効土の層の厚さ	(表土の風乾性)	(透水性)	(保湿度)	(自然肥力)	(固定塩基状態)	(置換性)	(有微酸)
生産力可能性等	粘着性	水潤	肥沃	塩基	石灰	加里	酸
易	易	易	易	易	易	易	易
t d g p	w	i	n	i	a	s	e
II II I II I 1 1 (2)	I 1 2 1	II 2 3 3	II 2 2 1 1 2 2	I 1 1	I 1 1	II 2 - -	II 1 2 1
簡 略 分 級 式	II t g i n s e						

A 土壌区の特徴

この土壌区は中ノ沢統に属する。表土の厚さは20~25cm、有効土層は1m以上で深い。表土の土性はやゝ粗く、粘着性が弱く、耕起、砕土は容易で、過湿および過中のおそれが少ない。

保肥力大、固定力中、塩基状態不良で自然肥沃度は中である。表土の有効態成分は、加里、磷酸

が多く、その他の養分は中庸である。特殊の障害性及び災害性の心配はないが、傾斜地が多く、侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

耕地には牧草、その他の飼料作物が多く栽培されている。

C 地力保全上の問題点

この土壌区は透水性が比較的良く、過湿、過干のおそれはない。対策としては傾斜地が多いので侵蝕防止対策が必要で、有機物を施用しながら、深耕して根圏域の深化に努めることが望まれる。

D 分 布 北海道札幌郡広島町

記載責任者 高 橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

3 保全対策地区及び説明

1) 保全対策地区の説明

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

(水田)

保全対策地区名	該当土壌区名	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
島松中央 保全対策地区	幌加一 1 根志越 協和 泉郷 島松中央	809.0	排水不良 浮石礫層が浅い。 透水性が大きい。 腐植が少ない。 作土層が浅い。	排水 客土 有機物施用 深耕
春日 保全対策地区	春日一 1 春日一 2	1,320.0	排水不良 泥炭層が浅い。 減水深が大きい。 作土層が浅い。 塩基類が少ない。	排水 客土 深耕および混層耕 施肥合理化
東ノ里 保全対策地区	南島松 中ノ樹 舞鶴 漁太 中ノ里 林田 東ノ里 拓北	1,529.0	排水不良。 強粘質で透水性小さい 塩基類が少なく強酸性 一部作土層が浅い。 一部腐植が少ない。	排水 酸度矯正 施肥の合理化 深耕 有機物施用
穂栄 保全対策地区	穂栄一 1 穂栄一 2 北島 下北	1,460.0	排水不良 泥炭層 減水深が大きい。 塩基類が少なく強酸性 作土層が浅い。	排水 客土 施肥合理化 酸度矯正 深耕

2) 保全対策地区説明

(水田)

<島松中央保全対策地区>

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (h a)	備 考 (該 当 土 壤 区)
千 歳 市 恵 庭 市 広 島 町	8 0 9 . 0	睨加 1、根志越、協和、泉郷、島松中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

この対策区は水田を主体とし睨加 1、協和、島松中央区は主として波状性台地を解折して流れる沢地に点在分布し、根志越、泉郷区は河川が低平地に開ける河口の氾濫原に団地を形成して分布する。土性は表層は一般にT a - a の浮石粗砂層を主体とし、下層は粘質土及び泥炭、垂泥炭の薄層を挟在するとこつも少なくない。土層状態から見て透水性は大きいが、地形的に沢地に分布するため湿性を呈し、概して浮石砂礫層の浅く出現するところが多い。従つて作土層も比較的浅く腐植含量も少ない。気候的には春先～盛夏にかけて濃霧が襲来し、しばしば低温に見舞われ、初期生育に障害を及ぼすこともある。

② 営農の方向、その他

安定確収が必要であり、用排水の完備、品種の選択、施肥の合理化、健苗の導入により安定した栽培の確立が必要である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (h a)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1. 排水	睨加 1、根志越、協和 泉郷、島松中央 (8 0 9 . 0)	明渠排水の完備 (土管、ハイゼックス)	工事費の助成
2. 有機物施用	— (8 0 9 . 0)	堆厩肥の施用、麦わらの施用	麦わらは秋撤布もしくは秋鋤込みとする。
3. 客土	特に根志越 (2 5 0 . 0)	粘土含量の比較的高い土壌の客入	工事費の助成
4. 施肥合理化	— (8 0 9 . 0)	分追肥等、適切な施肥管理	—
5. 深耕	— (8 0 9 . 0)	客土後、及び堆厩肥を施用しながら徐々に深耕	現状では耕土深 1 5cm 内外

< 春日保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (h a)	備 考 (該当土 壤 区)
千 歳 市 恵 庭 市	1,3 2 0.0	春日 1、春日 2

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

この対策区は殆んど水田で恵庭の一大穀倉地帯の中心を成し、土壌は心土層直下より低位泥炭層であることが特徴で春日-1区は60cm内外以下には粘質土の混入も多くなる。しかし春日-2区は泥炭層が深く1m以上はある。いずれも表土はT a-aを主体とし、これに客土が混入されているところが多い。排水は明渠、暗渠の施土も一部では行なわれており、調査時点ではかなり乾燥し泥炭の分解の進んでいるところも見られるが、概して湿性を呈しているところが多い(特に春日-2区)。近年は圃場整備も進行途上であり、泥炭層を薄く挾する春日-1区はある程度排水が進み、泥炭も分解してくれば、下層の粘土層を含めた70~90cm内外の混層耕も考えられる。又、部分的に泥炭層の薄いところは客土も必要である。気候的には春先~盛夏にかけて濃霧が襲来し、しばしば低温に見舞われ、初期生育に障害を及ぼすことがある。

② 営農の方向、その他

安全確保が必要であり、用排水の完備、品種の選択、施肥法の合理化、健苗の導入により安定した栽培の確立が必要である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (h a)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1. 排 水	春日 1、春日 2 (1,3 2 0.0)	明渠、暗渠排水の完備 (土管、ハイセツクス)	工事費の助成 渠深 0.7 ~ 1.0 m
2. 深耕および混層 耕	(特に春日 1区) (1,3 2 0.0)	大型機械利用	深耕は現状では 20 ~ 25cm、混層耕は 70 ~ 90cm
3. 客 土	(特に春日 2区) (1,3 2 0.0)	粘土含量の比較的高い土壌の客入	工事費の助成
4. 施肥の合理化	- (1,3 2 0.0)	分追肥など適切な肥培管理、深耕、混層耕時は、炭カル、燐酸の増施	炭カル 100~250kg/10a 燐酸 80~100kg/10a

＜ 東ノ里保全対策地区 ＞

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (h a)	備 考 (該 当 土 壤 区)
千 歳 市 恵 庭 市 広 島 町	1,5 29.0	南島松、中ノ樹、舞鶴、漁太、中ノ里 村田、東ノ里、拓北

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

この対策区は千歳市長部から恵庭市、広島町にかけて、千歳川沿の氾濫原に分布し、土質的には凝灰質あるいは頁岩質の強粘質土壌で透水性不良のため湿性を呈するところが多い。地形的には殆んど平坦で表土は極めて粘着性が強い（舞鶴統、東ノ里統は特に）耕起、碎土にはかなりの労力を要する。下層土も概して細粘質で強粘性のところが多いが、中には中ノ里統、拓北統のように作土直下に泥炭薄層の存在するもの、ヨシ類の生の根を混入するところも少なくない。また南島松、中ノ樹、舞鶴、漁太、林田統などは強酸性を呈する。

② 営農の方向、その他

安全確収が必要であり、用排水の完備、品種の選択、施肥の合理化、健苗の導入等により安定した栽培の確立が必要である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (h a)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1. 排水	南島松、中ノ樹、舞鶴、 漁太、中ノ里、林田、 東ノ里、拓北 (1,5 29.0)	明渠、暗渠排水の完備 (土管、ハイセツクス)	工事費の助成 渠水 0.7 ~ 1.0 m
2. 酸度矯正	南島松、中ノ樹、舞鶴、 漁太、林田 (1,0 6 6.0)	炭カルの施用、完全混和	炭カル 2 5 0 ~ 4 0 0 kg / 1 0 a
3. 施肥の合理化	— (1,5 29.0)	石灰、磷酸の増施	—
4. 深耕有機物施用	— (1,5 29.0)	大型機械利用、有機物を 施用しながら徐々に深耕	耕深 3 0 cm 内外

＜ 穂栄保全対策地区 ＞

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (h a)	備 考 (該 当 土 壤 区)
恵 庭 市 広 島 町	1, 4 6 0.0	穂栄 1、穂栄 2、北島、下北

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策地区は13～15cm内外より泥炭層（低位、中間、高位）が出現する地区をとりまとめたものである。表土はいずれも客土層を主体に造成されたものでやゝ浅いのが特徴である。これらの地帯では更に客土を行なつて表土を造成することが大切である。

全般的に排水の水理条件が悪いので、基幹明渠を完備し、これに暗渠を併用して、用排水を分離し、集中的に排水施設を完備することが大切である。

尚泥炭層が浅く出現するので珪カルの施用によるS₁並びに塩基の補給が望まれる。

気候的には春先～盛夏にかけて濃霧が襲来し、しばしば低温に見舞われ、初期成育に障害を及ぼすことがある。

② 営農方向・その他

安全確収が必要であり、用排水の完備、品種の選択、施肥法の合理化、健苗の導入により安定した栽培の確立が必要である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1. 排水	穂栄1、穂栄2、 北島、下北 (1,460.0)	明渠、暗渠の完全実施 (土管、ハイセックス)	工事費の助成
2. 客土	— (1,460.0)	粘土含量の比較的高い土 壤の客入	工事費の助成
3. 施肥合理化	— (1,460.0)	珪カル、磷酸の増施	珪カル250～370kg/10a 熔 磷 80～100kg/10a
4. 酸度矯正	— (1,460.0)	珪カルの施用	—
5. 深耕	— (1,460.0)	客土後実施	現状では15cm内外が 限度

畑

保全対策地区名	該当土壌区名	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
千歳 保全対策地 区	駒里 - 1	3,425.0	土壌は浮石砂礫主体 過干のおそれが多い 保肥力、固定力極めて小さい。一部浮石 礫層浅い。埋没腐植 層あり、埋没腐植土 は磷酸固定力強い。	有機物施用、施肥合理化。 遅効性肥料の利用 客土 混層耕
	駒里 - 2			
	千歳 - 1			
	千歳 - 2			
	千歳 - 3			
	新川			

保全体策地区名	該当土壌区名	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
島松 保全対策地区	島松 - 1 島松 - 2 牧場 - 1 牧場 - 2	1,183.0	作土層浅い 一部腐植少ない 保肥力小さい	深刻 有機物施用 施肥合理化 遅効性肥料の利用
長都 保全対策地区	中島松 幌加 - 2 幌加 - 3 上山口北 長都	1,270.0	排水不良 腐植含量少ない 一部浮石礫層浅い 一部強酸性 一部作土層浅い	排水 有機物施用 一部客土 酸度矯正 深耕、一部混層耕
西ノ里 保全対策地区	西ノ里 - 1 西ノ里 - 2 西ノ里 - 3 野幌南	470.0	強粘質かつ下層 堅密で排水不良。 一部作土層浅い 下層は塩基類が 少なく強酸性。	排水 心土破碎 一部深耕 酸度矯正 施肥合理化
輪厚 保全対策地区	石山 広島 - 1 広島 - 2 輪厚 - 1 輪厚 - 2 南ノ里 中ノ沢	1,593.0	作土層浅い 一部傾斜地 塩基類が少ない。	深耕 侵蝕防止 施肥合理化

畑

<千歳保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
千歳市 恵庭市	3,425.0	駒里1、駒里2、千歳1、千歳2、 千歳3、新川

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策区は標高10～90m内外(主体20～30m内外)の波状性～平坦な台地上に分布し、土壌はTa-aの浮石砂礫層が20～80cm(主体40～50cm内外)の地帯をとりまとめたものである。Ta-a層は粗粒質で保肥力、固定力とも極めて小さな土壌で、これが厚く堆積する地帯は過干になり易い傾向がある。Ta-a層の薄いところは下層に腐植含量の多いTa-c層が分布し、これは保肥力、固定力共極めて大きく、保水性も大きいので両層混合による土壌改良も効果的である。尚この際は石灰、燐など土壌改良資材の併用が必要である。一般にTa-a

の表層に混入する地帯では堆肥の施用、尿撒布、遅効性肥料の利用が効果的である。

又、礫の多く、深い場合は粘質土壌の客土も考えなければならない。

② 営農の方向、その他

地形的及び土壌的に比較的条件的の良いところは豆類を主体とした穀作経営も一部では行なわれているが、主畜経営が主体になつている。気象的に見ても主畜経営が望ましく、多頭化の傾向にあるが、収量が低く飼料確保が伴なっていない。土壌改良により収量増加の対策が必要である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1. 有機物施用 過 干 保肥力 小 固定力 小 腐植少ない 埋没腐植層あり	駒里 1. 駒里 2. 千歳 1. 千歳 2. 千歳 3. 新川 (3,425.0)	堆肥、尿撒布、緑肥、 埋没腐植層の浅い (100 cm内外以下) 場合は混 層耕	尿撒布器 大型機械の使用 耕深 70~100cm
2. 混層耕 3. 施肥の合理化		混層耕の場合は石灰、 熔磷の増施。 遅効性肥料の利用 ベントナイト施用	炭カル 200~250kg/10a 熔 磷 80~100kg/10a ベントナイト 200kg/10a 補助が望ましい。
4. 客 土	千歳 1. (685.0)	—	

< 島松保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
恵庭市	1,183.0	島松 1. 島松 2. 牧場 1. 牧場 2.

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策地区は標高 15~30m 内外の平坦な台地あるいは低地に分布し、表土は Ta-a 層で厚さ 10~40cm 内外であるが、火山灰は前対策区に比べて細粒化し生産力も比較的高いところをとりまとめたものである。Ta-a 層が比較的薄いところは下部の腐植層と混合され腐植含量が多い。島松統は以下は恵庭層となつている。牧場統は Ta-a 層以下は扇状堆土となつており 1 区の腐植層はやゝ厚いが 2 区は薄く未風化砂層に近い。しかし概して作土層の浅いところが多い。

土地条件が比較的めぐまれているため、殆んど全域利用されており、畑作を主体としているが、

北東部の平担地では肥培管理もよく経営状態も安定したものが多く。

② 営農の方向、その他

前対策区に比較すると気候条件及び土地、土壌条件とも良いため、主育及び穀類経営が主体をなし安定したものが多く。しかし主畜経営にしても近年は多頭化の傾向にあり、地力の培養によつて生育もあがつてはいるが、元来T a - a 層は未風化で保肥力が小さいが下部腐植層は保肥力が大きく吸収力も強く、いずれも瘠薄な土壌からなつてゐるから、有機物、燐酸及び苦土の施用により地力の増進を計る必要がある。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1. 深耕	島松1. 島松2. 牧場1 牧場2 (1,183.0)	耕深30cm内外	大型機械使用
2. 有機物施用	(1,183.0)	堆厩肥、尿撒布	尿撒布器
3. 施肥合理化	(1,183.0)	遅効性肥料の利用 ペントナイト施用 苦土、燐の増施 (特に深耕時)	

<長都保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
千歳市 恵庭市	1,270.0	中島松、幌加2. 幌加3. 上山口北、長都

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策区は沢地に分布する幌加2、幌加3、低温地の原野に分布する長都及び河川流域の氾濫原に分布する中島松、上山口北各区の地下水位の高い排水不良地をとりまとめたもので、水田対策区では島松中央保全対策区に類似するが、畑主体地帯を区分したものである。中島松統以外は腐植含量も少なく、幌加統、長都統は下層に浮石礫層を有し、特に長都統は表土が薄く下層の砂礫層が深い。長都統はまた塩基類に之しく、強酸性を呈する。尚一部には泥炭薄層の出現するところもある。

② 営農の方向、その他

耕地割合は比較的少なく、長都統は現在開発途上にあり、耕地化されつつある。排水が進み、

客土も行なわれれば地形が平坦であるから比較的利用し易く牧草地あるいは水田になるものと思われる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1. 排水	中島松、幌加2、幌加3 長都 (1,030.0)	明渠、暗渠、排水の完備	工事費の補助 炭カル300~400kg/10a
2. 有機物施用	幌加2、幌加3、上山口北 長都 (910.0)	堆厩肥の施用	
3. 客土	長都 (400.0)	粘質土壌の客入	
4. 酸度矯正	長都 (400.0)	炭カル施用	
5. 深耕及び混層耕	中島松、幌加2、幌加3 上山口北 (870.0)	耕深25~30cm内外	

< 西ノ里保全対策地区 >

(1) 分布状況

都市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
広島町	470.0	西ノ里、西ノ里2、西ノ里3、野幌南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策区は標高100m内外で緩波状の高台地を形成する西ノ里周辺に分布する。針広葉樹林による大木におおわれた土地が多く、とくに野幌近辺においては原始林として保護されている。また耕地が多く、その中には農林省中央馬鈴薯原々種農場なども設置されている。

土壌は凝灰岩および安山岩などを主材とする洪積世土壌で、表土には僅かにGamma-aを混入するが、以下は野幌層と云われる植土型の土壌からなり、上部層は腐植含量も比較的多いが、下層土は堅密で土壌化が進まず、盤層状の未風化層に移行し、透水性が悪く、鉄、マンガン の集積がみられ、調査時は湛水しているところも多い。

② 営農の方向、その他

本対策地区は洪積土壌中では比較的生産力の高いところで、台地上の平坦部は殆んど畑地化され、交通、地形条件にも恵まれているため、酪農経営、混同経営とも、かなり集約的に行なわれている。尚、宅地化及び団地化のため農地は急速に減少しつつあるが将来もこの方向で増々集約化して都市近郊的な農業が行なわれて行くものと思われる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1. 排水	西ノ里 1、西ノ里 2	暗渠排水の完全実施	工事費の助成
2. 心土破碎及び 深耕 (心土肥培併用)	西ノ里 3、野岡南 (470.0)	補水渠の設置。 深さ 4.5cm 内外 深耕は 30cm 内外	大型機械使用
3. 有機物	— (470.0)	深耕及び心土破碎に当 つては心土以下は塩基 類に之しく強酸性を呈 するから、炭カル及び 燐酸の増施。	炭カル 150~200kg/10a 熔燐 120~150kg/10a 堆厩肥、尿撒布、 熔燐 80~100kg/10a
4. 施肥合理化	— (470.0)	有機物を施用しながら 深耕、苦土の施用、燐 酸の増施。	

< 輪厚保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
広島町	1,593.0	石山、広島 1、広島 2、輪厚 1、輪厚 2 南ノ里、中ノ沢

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策地区は前記西ノ里保全対策区を除いた広島町内台地の殆んどを占めて広く分布する。標高は 20~200m 内外で、台地の高位面には平坦な部分もあるが (広島 1 区) 大部分は緩波状~波状性で 3~8° の傾斜を有するところが多い (石山、広島 2、輪厚 2、中ノ沢区など)。

表土は T a-a 層を混じ、土性はやゝ粗く S L のところが多いが、腐植含量も比較的多く層厚も概して厚い。以下恵庭層で風化し、膨軟かつ軽な土壌で、更に豊平浮石部層へと続いている。

本土壌は母材が火山灰質土壌であり元来 質物、養肥分に之しく瘠薄であるところが多く、堆厩肥、緑肥の補給、充分な施肥管理が必要である。

② 営農の方向、その他

地理的条件には恵まれており、酪農あるいは混同経営が主体となつている。近年は宅地化あるいは工業その他の団地化により耕地は急激に減少しつつあるが、理学的性は悪い土壌ではないので、大型酪農経営及びそ菜などをとり入れた集約的な近郊農業的な方向に進むべきかと思われる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1. 深耕	石山、広島1、広島2、 輪厚1、輪厚2、南ノ里、 中ノ沢 (1,593.0)	耕深30cm内外	
2. 侵蝕防止	石山、広島2、輪厚1、 輪厚2、中ノ沢(1,081.0)	深耕、有機物施用 塩基類の補給	
3. 施肥合理化	— (1,593.0)	深耕に当つては特に磷酸 の増肥。	熔燐80～100kg/10a

土 壤 分 析 成 績

分析成績(水田)

保全 対策 区	土 壤 区 名	地 点 番 号	層 位	深 さ m	理 学 性															
					燻 (風 乾 物 中) W%	風 細 土		乾 中		細 土 無 機 物 中					粘 土 性	現 地 に お け る 100cc 容 中				
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %	容 積 重 g	固 相 容 積 cc		水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %		
																			風 乾 物 中 W%	水 分 %
泉 郷	梶加一	千27	1	0~15	43.6	3.8	4.1	53.1	17.1	70.2	16.3	13.5	SL	102.0	40.1	53.9	6.0	59.9		
			2	~24	36.1	2.6	6.0	72.1	9.0	81.1	10.8	8.1	SL	—	—	—	—	—		
協 和	根志越	千11	1	0~12	59.0	3.2	7.4	8.7	14.9	23.6	60.8	15.6	SiCL	72.8	31.3	57.4	11.3	68.7		
			2	60~	27.3	11.5	20.1													
泉 郷	千19	千23	1	0~15	28.4	4.1	4.3	51.3	19.2	70.5	15.6	13.9	SL	98.4	38.5	54.0	7.5	61.5		
			2	60~	27.3	11.5	20.1													
島松中央	恵 7	千19	1	0~7	50.0	4.1	2.5	29.5	21.8	51.3	26.0	22.7	CL	133.8	51.5	44.0	4.5	48.5		
			2	~20	30.3	2.3	3.2	60.7	17.7	78.4	10.4	11.2	SL	121.8	46.5	40.5	15.0	53.5		
島松中央	恵 7	千19	1	0~13		3.3	4.5	32.4	10.0	74.2	22.5	3.3	SL	124.1	34.8	46.8	8.4	65.2		
			2	~22		3.1	4.3	32.8	39.9	72.7	18.8	8.4	SL	152.9	43.5	53.9	2.6	56.6		
島松中央	恵 7	千19	3	~27		3.7	4.3	38.5	35.0	73.5	18.6	7.9	SL	147.1	39.1	56.0	4.9	60.9		
			4	~45		3.8	—	34.3	35.2	69.5	20.8	9.6	L	—	—	—	—	—		
島松中央	恵 7	千19	5	~75		2.8	—	25.3	39.8	82.3	12.5	5.3	SL	—	—	—	—	—		
			恵11	1	0~9		5.0	7.0	6.6	26.7	33.3	33.8	32.9	LiC	140.1	36.0	52.6	11.4	64.0	
島松中央	恵 7	千19	2	~15		6.1	12.6	38.8	21.9	60.7	23.0	16.3	CL	128.5	29.3	66.2	4.5	70.7		
			3	~28		8.4	23.5	—	—	—	—	—	泥炭	111.8	16.8	79.0	4.2	83.2		
島松中央	広58 代表	千19	1	0~15		3.9	4.6	27.4	46.3	73.7	17.2	9.1	SL	147.0	36.6	54.4	9.0	63.6		
			2	~21		3.6	—	38.5	41.2	79.7	13.0	7.3	SL	156.8	40.5	55.5	4.0	59.5		
島松中央	広58 代表	千19	3	~38		3.7	—	48.2	38.5	86.7	7.9	5.4	LS	154.4	39.3	50.7	10.0	60.7		
			広59	1	0~15		4.5	4.6	21.4	45.0	66.4	20.6	13.0	SL	144.8	38.4	58.4	3.2	61.6	
島松中央	広59	千19	2	~26		4.8	—	32.9	33.9	66.8	21.1	12.1	SL	164.0	42.7	53.3	4.0	57.3		
			3	~40		8.1	—	10.1	47.9	58.0	28.3	13.7	L	136.3	24.7	74.3	1.0	75.3		
島松中央	広61	千19	1	0~14		5.0	6.4	6.2	48.2	54.4	28.7	16.9	CL	145.1	33.4	61.6	5.0	66.6		
			2	~28		5.2	7.9	23.1	36.5	59.6	24.6	15.8	CL	154.7	38.8	58.7	2.5	61.2		
島松中央	広62	千19	1	0~13		3.0	—	25.6	37.1	62.7	22.4	14.9	L	160.3	42.7	48.8	8.5	57.3		
			2	~21		2.8	—	29.4	39.7	69.1	18.3	12.6	SL	174.5	50.4	44.1	5.5	49.6		
島松中央	広62	千19	3	~30		2.5	—	37.1	37.4	74.5	15.3	10.2	SL	159.2	42.3	50.7	7.0	57.7		

(※は乾土当り)

化 学 性																	
pH		置換酸度 Y ₁	有機物			※ 塩置換 基量 me/ 100g	置換性塩基 mg/100g中			塩 基飽 和度 %	磷 酸 吸 收 係 数	乾 土 効 果	30℃NH ₄ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
H ₂ O	Kcl		※ T-C %	※ T-N %	C/ N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土 度	湿 度	P ₂ O ₅	N	
5.3	4.7	0.6	2.48	0.19	13.2	16.7	221.6	87.3	8.3	47.3	554		12.37		31.0		1.13
5.4	4.7	1.3	3.53	0.29	12.4	11.4	157.8	29.0	3.7	49.1	334		14.37		17.5		0.59
5.3	4.6	1.3	4.44	0.40	11.0	16.7	229.4	16.6	16.7	49.1	688		26.52		55.8		0.79
5.0	4.3	3.8	2.59	0.20	13.1	20.7	298.3	39.5	5.59	51.2	546		12.40		45.1		0.93
5.2	4.6	1.3	3.21	0.68	19.5	76.8	1172.4	195.9	34.8	54.4	2044		26.37		12.6		1.68
5.6	4.7	1.3	1.54	0.09	16.4	18.4	319.4	85.8	18.8	62.0	758		7.29		22.3		1.47
5.8	4.7	0.6	1.88	0.12	15.3	10.4	195.3	33.1	4.7	67.3	414		7.16		23.5		0.98
4.6	3.8	4.4	2.72	0.18	15.4	15.1	158.4	28.8	14.9	48.3	720		13.8		9.8		1.00
4.9	4.2	1.9	2.58	0.18	14.2	15.5	229.9	27.9	10.7	63.2	857		9.4		9.9		1.26
5.2	4.4	1.3	2.58	0.16	16.2	15.8	266.9	28.9	14.9	70.9	932		—		3.2		2.75
5.1	4.5	1.3	—	—	—	16.0	237.5	24.9	10.8	61.9	894		—		3.9		1.83
5.0	4.3	1.9	—	—	—	27.3	414.0	50.2	23.8	65.2	624		—		4.2		1.23
4.4	3.6	7.5	4.18	0.30	13.9	26.9	270.3	86.3	15.1	52.8	1013		14.0		5.2		1.84
4.6	3.8	5.6	7.59	0.60	12.7	32.0	248.8	41.2	9.3	34.7	1267		30.8		11.5		2.20
4.5	3.8	6.3	1.41	1.31	10.7	49.6	359.7	42.0	12.1	30.6	452		—		0.5		2.18
5.7	4.7	1.3	2.77	0.17	16.4	15.4	131.6	25.1	6.9	39.0	1239		10.2		8.1		1.10
5.3	4.2	5.6	—	—	—	14.9	209.2	55.9	8.3	70.5	633		4.4		4.7		1.77
5.7	4.5	2.5	—	—	—	12.6	236.1	60.2	11.0	92.1	125		—		3.9		1.40
5.4	4.2	3.8	2.77	0.16	17.5	18.8	202.7	27.8	8.4	46.8	597		12.5		12.8		1.50
5.4	4.3	2.5	—	—	—	20.7	205.7	30.4	8.4	43.5	468		7.6		5.1		1.62
5.8	4.7	2.5	—	—	—	36.7	333.4	40.1	18.8	39.0	1858		—		1.2		3.10
5.2	4.2	3.1	3.86	0.19	20.1	22.0	170.7	20.3	5.7	32.7	901		14.1		9.3		1.22
5.4	4.4	2.5	4.75	0.23	21.0	24.6	272.6	17.8	2.7	43.5	950		4.4		5.6		1.57
5.3	4.2	2.5	—	—	—	13.4	165.2	58.9	6.2	66.4	293		7.9		4.7		0.66
5.8	4.7	1.3	—	—	—	14.0	224.8	38.1	6.2	71.4	366		7.2		4.3		1.40
5.5	4.6	0.6	—	—	—	13.7	227.6	93.4	6.8	93.4	33		—		3.4		1.30

保全対策区	土曜区名	地点番号	層位	深さ(m)	理 学 性														
					幹(風乾物中) W%	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における100cc容中					
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シルト %	粘 土 %		容 積 重 量 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	
春日	春日一	千 3	1	0~18	28.3	3.0	5.3	58.9	10.8	69.7	17.1	13.2	S L	126.7	32.6	47.4	20.0	67.4	
			2	~32	33.3	0.5	—	82.0	8.8	90.8	7.5	1.7	S	—	—	—	—	—	
			3	~50	—	9.9	27.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		恵4 2 代 表	1	0~14	28.3	1.6	4.6	78.2	1.0	79.2	12.4	8.4	S L	132.1	37.6	35.5	26.9	62.4	
			2	~25	33.3	1.3	—	87.9	5.0	92.9	6.4	0.7	S	127.6	40.5	34.6	24.9	59.5	
			3	~40	—	8.6	—	—	—	—	—	—	泥炭	87.5	10.3	58.7	31.0	89.7	
	春日一2	千 2	1	0~21	53.1	2.2	3.8	—	—	—	—	—	—	S L	161.9	47.1	40.4	12.5	52.9
			2	~30	50.6	2.5	4.6	55.3	14.7	70.0	19.0	11.0	S L	167.1	46.2	48.8	5.0	53.8	
			3	~41	—	8.3	15.1	—	—	—	—	—	—	143.7	42.2	42.8	15.0	57.8	
			4	~57	21.3	0.5	—	83.9	8.9	92.8	6.0	1.2	S	—	—	—	—	—	
		恵4 8 代 表	1	0~21	—	2.2	7.3	63.1	12.9	75.9	21.0	3.1	S L	120.3	33.2	41.6	25.2	66.8	
			2	~40	—	12.2	—	—	—	—	—	—	泥炭	156.8	44.1	46.2	9.7	55.9	
			3	~48	—	10.9	—	—	—	—	—	泥炭	91.0	15.6	67.4	17.0	84.4		
東ノ里	南島松	恵 3 代 表	1	0~15	—	1.2	4.1	69.2	9.5	78.7	13.7	7.7	S L	142.7	38.7	47.0	14.3	61.3	
			2	~20	—	8.2	9.4	18.1	35.5	53.6	27.1	19.2	L	140.6	26.3	64.8	8.9	73.7	
			3	~30	—	8.0	11.2	2.9	26.9	29.8	43.1	15.8	SiL	125.0	26.6	63.9	9.5	73.4	
			4	~52	—	6.8	—	0.8	9.1	9.9	48.1	42.0	SiL	149.2	35.5	60.2	4.3	64.5	
			5	~65	—	4.1	—	0.3	38.4	38.7	41.1	20.2	C L	140.6	34.1	61.5	4.4	65.9	
			6	~86	—	7.6	—	0.1	6.5	6.6	47.1	46.3	H C	—	—	—	—	—	
	中ノ榊	千 1	1	0~13	33.6	1.7	3.1	68.1	6.8	74.9	12.9	12.2	S L	153.3	44.3	38.7	17.0	55.7	
			2	~22	31.7	1.7	3.6	63.4	8.2	71.6	13.3	15.1	SCL	152.6	43.8	35.2	21.0	56.2	
			3	~31	29.1	0.5	—	87.8	6.8	94.6	2.7	2.8	S	—	—	—	—	—	
			4	~64	36.1	5.4	—	0.5	3.0	3.5	35.3	61.2	H C	148.8	33.6	62.7	3.7	66.4	
		恵5 1 代 表	1	0~15	—	5.6	13.2	19.3	16.5	35.8	38.7	25.5	L1C	95.1	23.9	48.7	27.4	76.1	
			2	~23	—	4.7	12.3	26.2	18.7	44.9	33.7	21.4	C L	130.4	30.4	64.5	5.1	69.6	
			3	~40	—	0.1	1.2	94.0	2.0	96.0	2.9	1.2	S	146.8	37.1	62.0	0.9	62.9	
			4	~57	—	3.9	—	1.2	4.7	5.9	53.0	41.1	SiC	—	—	—	—	—	
	舞 鶴	恵 2 7	1	0~13	—	7.0	6.6	3.0	5.2	8.2	40.6	51.2	H C	126.0	34.3	44.7	21.0	65.7	
			2	~27	—	4.5	6.2	2.6	4.0	6.6	39.9	46.5	H C	158.2	39.9	59.3	0.8	60.1	
			3	~38	—	4.9	8.6	3.0	2.8	5.8	35.2	59.0	H C	133.3	28.7	70.6	0.6	71.2	

化 学 性																	
PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			※ 置 換 容 量 me/ 100g	置換性塩基 mg/100g 中			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	乾 土 効 果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有 効 態 mg/ 100g		遊 離 酸 化 鉄 %
H ₂ O	Kcl		※ T-C %	※ T-N %	C/ N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	湿 土	P ₂ O ₅	N	
5.0	4.3	2.5	3.08	0.19	16.2	14.8	119.1	51.6	13.0	48.0	560	12.98		26.0		1.47	
5.4	4.8	0.6	—	—	—	0.8	11.3	4.0	2.4	87.5	104	1.40		12.0		0.58	
4.6	4.1	8.8	6.21	1.20	13.5	48.3	196.7	2.69	16.1	43.7	792	53.88		4.0		—	
4.8	4.0	2.5	2.75	0.17	16.2	8.8	101.0	14.2	4.9	50.0	291	7.1		6.0		0.71	
5.0	4.3	1.9	—	—	—	5.7	46.4	8.6	2.4	36.8	369	2.1		5.8		0.97	
4.7	3.9	2.5	—	—	—	6.25	65.47	15.2	20.0	39.0	494	—		4.4		1.75	
5.0	4.2	1.3	2.21	0.16	13.8	12.5	149.0	3.79	8.2	59.2	396	12.88		29.0		1.12	
5.2	4.6	1.3	2.70	0.22	12.3	10.3	132.4	38.9	6.0	65.0	450	12.92		24.3		1.18	
4.7	4.1	6.3	8.79	0.83	10.6	43.1	127.2	38.7	20.7	38.3	1,252	52.44		10.1		1.61	
5.4	4.7	0.6	—	—	—	2.2	16.9	2.4	1.2	31.8	88	16.18		13.8		0.45	
4.5	3.8	3.1	4.37	0.29	15.0	13.2	111.1	15.0	4.9	36.4	677	11.6		3.3		1.30	
4.6	3.9	2.5	—	—	—	89.6	67.00	34.8	12.6	28.9	634	93.0		1.3		1.83	
4.2	3.4	3.8	—	—	—	98.3	606.4	55.0	14.2	25.0	661	—		1.5		2.25	
4.9	3.9	3.1	2.48	0.18	14.0	9.7	74.1	13.4	8.1	36.1	399	8.1		13.4		1.69	
4.7	4.1	1.9	5.64	0.34	16.5	34.8	298.3	28.6	12.1	35.3	2,143	9.9		0.9		4.79	
4.8	4.2	2.5	6.71	0.33	20.3	47.6	714.1	43.5	32.8	59.7	2,004	—		1.2		4.48	
4.8	4.0	2.5	—	—	—	30.2	485.1	32.2	35.9	65.2	1,446	—		0.5		3.80	
4.9	3.9	4.4	—	—	—	19.7	207.3	25.8	30.0	47.2	1,095	—		5.8		1.08	
4.6	3.6	5.0	—	—	—	45.1	423.4	102.6	40.5	46.8	1,253	—		4.3		0.78	
5.1	4.2	1.3	1.82	0.11	16.5	8.5	91.2	24.6	8.7	55.3	238	12.10		30.0		0.98	
5.5	4.8	0.6	2.00	0.13	16.0	8.9	146.0	23.8	6.9	75.3	344	12.81		21.1		1.11	
5.7	4.9	0.6	—	—	—	2.8	36.1	6.5	1.8	57.1	70	2.81		20.8		0.47	
5.1	4.3	2.5	—	—	—	10.1	136.4	68.2	19.7	86.1	872	7.39		12.6		1.79	
4.1	3.4	8.1	7.90	0.67	11.9	33.4	238.0	22.9	15.2	29.6	1,255	3.42		2.0		2.20	
4.2	3.4	8.8	7.36	0.61	12.1	28.1	215.6	46.3	13.4	36.6	963	29.4		1.9		1.90	
4.5	3.9	1.9	0.74	0.03	2.5	1.5	8.6	6.2	1.2	40.0	—	—		6.0		0.32	
4.0	3.0	17.5	—	—	—	19.8	209.1	95.9	19.9	63.6	681	—		1.8		1.00	
4.3	3.4	8.1	3.99	0.32	12.6	27.6	410.0	58.8	34.4	65.9	966	17.3		1.9		2.16	
4.6	3.5	3.8	3.74	0.30	12.7	26.7	475.8	30.0	30.1	71.5	930	15.7		1.3		2.02	
4.9	3.9	2.5	5.13	0.34	14.9	29.3	662.4	21.2	31.0	86.3	642	—		1.5		1.08	

保 全 对 策 区	土 曜 区 名	地 点 番 号	層 位	深 さ m	理 学 性										現地における100cc谷中					
					礫 (風 乾 物 中) w%	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %								
漁 太	恵22	1	0~14		3.3	9.1	4.2	8.8	9.5	5.2	3.3	13.6	3.4	LiC	12.8	3.4	48.9	1.6	65.1	
		2	~20		6.2	12.0	5.5	2.2	7.7	12.8	7.9	6.7	7.6	H C	9.6	1.4	6.7	18.5	85.9	
		3	~28		9.3	27.3	0.5	1.0	1.5	20.9	7.7	—	—	—	H C	—	—	—	—	—
	恵5伏表	1	0~13		3.6	—	15.6	4.7	6.2	2.3	13.8	—	—	—	L	—	—	—	—	—
		広49	1	0~16		5.0	9.5	1.4	3.6	3.7	3.2	3.0	6.6	LiC	13.3	2.7	6.5	7.0	7.2	
			2	~28		7.6	13.1	0.7	3.0	3.1	3.8	3.0	3.3	6.6	LiC	13.0	2.7	6.5	7.0	7.2
	3		~50		8.4	16.2	3.9	2.5	2.9	4.2	2.8	6.6	6.7	LiC	13.2	2.5	6.8	5.5	7.4	
	中ノ里	広48代表	1	0~12		4.3	8.6	3.5	8.1	4.3	2.8	2.7	6.6	LiC	—	—	—	—	—	
			1	0~14		3.1	4.8	13.9	5.5	6.9	1.9	10.3	3.5	5.8	5.4	S L	14.8	3.5	5.8	6.5
2			~34		3.0	—	1.5	6.1	7.2	1.3	1.4	1.1	1.4	S L	15.5	3.8	5.7	4.8	6.1	
		3	~45		4.9	—	1.4	4.9	6.3	2.4	1.2	1.1	L	16.6	4.4	5.3	2.5	5.5		
林田	恵57代表	1	0~13		2.4	6.0	7.5	7.5	8.2	8.0	9.3	9.3	S L	13.3	3.2	4.7	2.0	6.7		
		2	~21		4.0	10.7	6.8	3.4	10.2	1.5	7.3	7.3	H C	12.6	2.2	7.1	6.0	7.7		
		3	~40		7.6	—	0.8	0.3	1.1	2.1	7.2	7.3	H C	13.3	2.3	6.9	7.0	7.6		
		4	40~		4.4	—	0.2	0.3	0.5	4.5	5.4	5.4	H C	—	—	—	—	—		
東ノ里	恵23	1	0~14		3.8	7.0	3.4	5.2	3.9	1.9	4.0	4.0	LiC	13.8	3.5	5.0	1.4	6.4		
		2	~26		5.9	13.2	3.1	2.7	5.8	4.2	5.1	5.1	H C	12.0	1.7	7.2	1.0	8.2		
		3	~48		6.3	13.0	0.4	0.5	0.9	3.9	5.9	5.9	H C	11.8	2.0	7.2	6.8	7.9		
	広36	1	0~11		5.5	4.6	6.7	8.1	1.4	3.1	5.3	5.3	H C	—	—	—	—	—		
	広37	1	0~15		5.8	8.3	3.2	1.0	4.2	1.9	3.8	3.8	LiC	—	—	—	—	—		
	広43代表	1	0~15		5.0	5.7	8.3	4.5	1.2	3.2	5.4	5.4	H C	15.4	3.4	6.4	0.5	6.5		
		2	18~28		6.2	7.1	3.1	2.9	6.0	2.7	6.6	6.6	H C	15.6	3.5	6.1	3.0	6.4		
		3	~50		5.3	6.7	0.6	0.7	1.3	2.5	7.3	7.3	H C	14.0	2.7	6.9	2.8	7.2		
拓北	広38	1	0~15		3.4	8.5	2.3	1.5	3.8	2.1	4.0	4.0	LiC	13.9	3.4	5.5	1.0	6.5		
		2	~22		5.1	5.3	1.2	1.6	2.9	2.2	4.8	4.8	H C	14.4	3.2	6.3	4.0	6.7		
		3	~32		2.2	2.8	4.2	4.0	8.2	8.5	8.7	8.7	S L	—	—	—	—	—		
	広44代表	1	0~12		4.0	8.1	3.1	1.0	4.1	1.8	3.9	3.9	LiC	13.0	2.8	5.9	1.2	7.1		
		2	~30		8.4	2.3	—	—	—	—	—	—	—	泥炭	9.1	9.4	7.2	1.8	9.0	
		3	~50		7.8	1.4	1.8	0.7	2.5	4.3	5.3	5.3	H C	10.4	1.0	7.9	1.0	8.9		

化 学 性																	
pH		值 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			※ 塩 換 換 谷 基 量 me/ 100g	※ 換 性 塩 基 m _g /100g _中			磷 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	乾 土 効 果	30°C NH ₃ -N 發生量 m _g /100g		有 効 態 m _g /100g		遊 離 酸 化 鉄 %
H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	湿 土	P ₂ O ₅	N	
4.3	3.7	4.4	5.48	0.43	12.7	21.3	248.1	248	8.3	4.79	738		19.6		2.9		1.13
4.2	3.4	10.0	7.23	0.69	10.4	4.31	523.7	50.2	18.7	50.1	1330		49.2		0.9		1.86
4.0	3.4	6.9	16.35	1.52	10.8	6.86	662.7	45.8	22.7	38.5	765		—		0.5		1.34
4.6	3.8	3.8	—	—	—	18.3	212.2	29.7	2.57	52.5	479		16.0		2.1		1.30
5.2	4.1	8.8	5.72	0.39	14.7	2.77	197.8	56.7	8.4	36.1	1236		33.9		2.3		1.97
5.1	4.1	10.6	7.84	0.58	13.4	33.8	226.9	40.8	5.8	30.2	1136		47.0		2.3		2.02
4.9	4.0	8.8	9.69	0.83	11.6	4.16	269.9	53.3	8.7	29.8	1533		—		2.4		1.55
5.1	4.3	2.5	5.16	0.33	15.8	2.02	210.6	44.5	13.1	49.5	602		16.1		3.1		0.94
5.5	4.5	1.9	2.87	0.16	17.5	1.75	231.2	26.6	14.4	56.0	797		13.9		3.8		1.32
5.8	4.9	1.3	—	—	—	1.67	260.0	45.6	17.9	71.9	614		4.1		2.0		1.60
5.9	4.9	1.3	—	—	—	19.4	266.5	56.2	22.6	66.0	991		—		3.2		1.93
4.6	3.8	3.1	3.58	0.27	13.1	8.0	70.9	15.0	10.0	42.5	379		13.1		4.5		0.70
4.5	3.6	5.6	6.43	0.44	14.5	2.68	477.0	91.1	20.8	81.7	884		21.9		2.4		1.00
4.3	3.3	12.5	—	—	—	2.69	283.1	179.4	24.1	72.5	857		—		2.9		1.00
4.0	3.0	29.4	—	—	—	20.9	167.2	52.6	29.9	44.0	588		—		3.3		1.10
4.2	3.5	6.3	4.14	0.31	13.3	18.9	260.0	28.9	11.6	57.7	1073		14.7		2.6		1.20
4.5	3.5	6.3	7.93	0.56	14.2	36.6	467.6	70.8	21.2	70.5	—		33.5		1.2		1.16
4.4	3.8	3.1	7.78	0.51	15.1	4.20	433.1	22.5	22.1	64.0	464		—		1.0		1.24
5.2	4.1	5.0	2.74	0.20	13.8	22.8	313.5	65.5	11.2	64.0	1069		11.6		2.5		2.04
5.1	4.1	7.5	4.99	0.36	14.0	23.7	147.5	33.2	8.5	29.5	1151		29.1		1.6		2.18
5.2	4.2	3.8	3.40	0.22	15.8	22.0	398.0	51.7	15.3	77.7	958		11.4		2.6		1.96
5.3	4.2	3.1	4.28	0.25	17.1	31.9	351.4	209.8	19.7	73.0	1049		17.9		2.3		0.90
5.0	4.0	8.8	4.02	0.25	16.4	30.5	242.1	222.5	17.5	65.6	585		—		1.6		1.03
5.1	4.0	8.1	5.10	0.32	15.9	25.4	209.9	38.4	7.4	37.8	888		20.3		3.6		1.06
5.3	4.1	7.5	3.20	0.16	20.4	24.6	294.7	64.4	9.9	56.5	721		10.8		2.5		0.62
5.5	4.4	4.4	1.70	0.06	26.6	9.2	73.4	9.1	4.7	33.7	464		—		7.0		0.31
4.9	4.0	6.9	4.85	0.30	16.0	2.14	187.8	104.0	12.5	57.0	542		19.4		2.7		1.37
5.0	4.0	5.0	3.87	0.89	15.5	4.68	425.6	77.0	23.2	41.7	1029		66.0		1.1		1.40
5.2	4.1	4.4	8.61	0.54	16.1	41.8	486.1	104.3	17.9	54.8	929		—		1.2		0.90

保全 対策 区	土 地 区 名	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性													
					礫 (風 乾 物 中) W%	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 に お け る 100cc 容 中				
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %
穂 栄	穂 栄 - 1	恵 2 0 代 表	1	0~13		4.0	10.0	28.1	7.9	36.0	32.2	31.7	LiC	124.0	35.3	47.2	17.5	64.7
			2	~28		11.4	—	—	—	—	—	—	泥炭	79.8	11.5	62.8	25.7	88.5
			3	~50		11.3	—	—	—	—	—	—	—	泥炭	97.0	5.8	83.7	19.5
		広 5 3	1	0~8		5.1	7.2	10.4	35.3	45.7	31.4	22.9	CL	149.8	34.8	63.3	1.9	65.2
			2	~17		3.9	5.2	4.4	71.1	75.5	13.5	11.0	SL	—	—	—	—	—
			3	~38		5.6	8.7	2.7	67.0	69.7	19.0	11.3	SL	—	—	—	—	—
	穂 栄 - 2	広 4 7 代 表	1	0~15		5.0	13.0	33.5	16.7	50.2	26.0	23.8	CL	—	—	—	—	—
			2	~37		7.8	22.6	28.0	41.4	69.4	13.3	17.3	SCL	—	—	—	—	—
	北 島	恵 ¹⁷ 代 表	1	0~14		4.0	—	44.3	10.9	55.2	24.3	20.5	CL	—	—	—	—	—
			恵 2 1	1	0~20		3.8	10.0	58.5	11.5	70.0	18.3	11.7	SL	123.3	36.9	49.4	13.7
		2	25~43		9.5	—	—	—	—	—	—	—	泥炭	101.7	12.4	81.8	5.8	87.6
	下 北	恵 1 0 代 表	1	0~14		4.8	10.1	30.7	11.5	42.2	34.4	23.4	CL	125.0	31.9	51.6	16.5	68.1
			2	15~22		11.5	—	—	—	—	—	—	泥炭	90.0	11.6	72.4	16.0	88.4
			3	22~47		13.5	—	—	—	—	—	—	泥炭	—	—	—	—	—
4			55~90		11.3	—	—	—	—	—	—	泥炭	—	—	—	—	—	
広 5 5		1	0~15		4.2	9.6	37.8	28.0	65.8	21.0	13.2	SL	130.4	25.1	70.9	4.0	74.9	
2	20~50		15.8	23.7	—	—	—	—	—	—	—	100.6	10.9	85.4	3.7	89.1		

化 学 性																	
pH		直 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			※ 直 換 基 量 me/ 100g	※ 直 換 性 塩 基 mg/100g中			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	乾 土 效 果	30°C NH ₃ -N 発 生 量 mg/100g		有 効 態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
H ₂ O	Kcl		※ T-C %	※ T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	湿 土	P ₂ O ₅	N	
4.4	3.5	9.4	5.98	0.44	13.7	2.34	22.01	2.02	34.9	4.06	5.04		2.41		2.5	1.20	
4.2	3.4	8.8	—	—	—	8.76	56.75	7.26	29.7	2.78	4.18		9.20		0.7	2.03	
4.2	3.4	8.8	—	—	—	8.61	41.00	5.86	6.2	2.04	3.66		—		0.4	2.10	
5.2	4.2	5.6	4.30	0.23	1.85	2.46	29.47	10.34	1.20	6.46	6.43		13.9		2.8	1.33	
5.0	4.0	10.0	3.12	0.15	2.12	2.04	129.3	33.6	2.7	3.14	8.91		2.9		2.3	0.98	
4.9	3.9	11.3	5.19	0.23	2.24	2.75	182.4	40.9	3.6	3.13	5.68		—		5.7	1.13	
5.2	4.3	3.8	7.78	0.54	1.45	2.62	21.79	5.08	9.0	4.01	1.122		2.06		3.4	1.15	
5.1	4.1	1.3	13.56	1.06	12.8	2.18	13.91	2.61	5.0	2.94	1.374		4.74		2.5	1.54	
4.6	3.8	6.3	—	—	—	2.36	19.87	1.93	1.00	3.52	7.88		2.33		3.3	0.98	
4.8	3.9	4.4	5.98	0.44	13.7	1.86	17.81	1.44	8.6	3.87	5.08		2.04		2.9	0.98	
4.3	3.5	6.3	—	—	—	1.88	55.36	7.7	14.0	2.96	1.505		2.5.7		1.1	1.45	
4.6	3.9	4.4	6.03	0.44	13.7	2.53	24.22	1.62	10.9	3.79	9.53		1.54		6.2	1.01	
4.4	3.7	2.5	—	—	—	7.53	54.46	2.76	13.8	2.80	4.68		7.39		0.6	1.50	
4.2	3.6	3.8	—	—	—	7.56	43.37	3.70	1.27	2.33	4.09		—		1.2	2.08	
4.4	3.9	2.5	—	—	—	5.32	61.37	4.32	1.69	4.59	—		—		1.4	0.62	
5.5	4.5	1.9	5.70	0.35	1.66	1.95	17.53	1.84	8.3	3.74	1.038		1.83		1.21	1.08	
5.0	4.3	1.9	4.24	0.84	1.69	11.02	1.410.6	1.32.6	1.3.9	5.1.9	1.2.9.0		5.8.2		1.0	1.4.6	

分析成績 (畑)

保 全 对 策 区	土 壤 区 名	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										性				
					燥 (風 乾 物 中) W%	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 お け る 1 0 0 cc 容 中					
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	
千 歳	駒 里 - 1	千 3 3 代 表	1	0~30	5.04	1.0	1.8	87.9	8.0	95.9	4.1	0	S	-	-	-	-	-	
			2	~55	4.07	0.3	-	95.2	3.1	98.3	1.7	0	S	-	-	-	-	-	
			3	~73	11.2	0.3	-	91.3	3.7	95.0	3.9	1.1	S	-	-	-	-	-	
			4	~89	26.0	7.1	9.8	62.7	17.2	79.9	16.3	3.8	SL	-	-	-	-	-	
			5	89~	25.0	6.1	3.4	72.9	15.9	88.8	10.5	0.7	LS	-	-	-	-	-	
		千 8 2		1	0~30	38.9	9.1	5.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			2	72~100	17.6	23.7	9.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		駒 里 - 2	千 3 1	1	0~27	16.5	0.9	3.2	89.0	6.2	95.2	4.0	0.8	LS	-	-	-	-	
	2			~48	9.3	0.3	-	93.1	2.4	95.5	4.5	0	S	-	-	-	-		
	3			~55	27.9	4.2	8.0	61.8	19.9	81.7	14.5	3.8	SL	-	-	-	-		
	4			~70	22.9	6.6	10.5	59.8	18.5	78.3	17.3	4.4	SL	-	-	-	-		
	5			~78	19.5	5.2	6.9	76.2	11.2	87.4	10.4	2.2	LS	-	-	-	-		
	6			78~	16.2	2.5	-	86.2	8.7	94.9	4.6	0.5	S	-	-	-	-		
		千 歳 - 1	千 5 0 代 表	1	0~25	6.01	1.2	3.9	-	-	-	-	-	-	9.28	3.95	7.5	53.0	60.5
2	~60			29.7	0.3	-	92.9	3.3	96.2	3.2	0.6	S	11.60	4.23	16.2	4.15	57.7		
3	~71			-	9.6	9.4	-	-	-	-	-	-	6.28	2.50	52.5	2.25	75.0		
4	~85			37.6	7.9	8.6	49.6	29.4	79.0	20.6	0.4	SL	7.42	2.74	39.6	33.0	72.6		
5	~100			-	2.3	10.5	20.2	57.6	57.8	38.0	4.2	L	4.66	1.76	47.9	34.5	82.4		
6	100~			-	2.6	6.6	-	-	-	-	-	-	4.64	1.76	56.9	25.5	82.4		
	千 5 6			1	0~30	47.1	0.8	-	83.5	9.6	93.1	6.0	0.9	S	-	-	-	-	
			2	50	15.0	0.3	-	87.7	5.6	93.3	6.2	0.5	S	-	-	-	-		
			3	66	41.9	9.4	-	46.2	21.6	67.8	22.0	10.2	SL	-	-	-	-		
			4	84	39.1	10.0	-	50.7	28.7	79.4	17.9	2.7	SL	-	-	-	-		
	千 5 9			1	0~22	6.00	1.3	3.2	86.2	6.8	93.0	5.6	1.4	S	10.12	4.16	10.4	48.0	58.4
			2	~44	11.9	0.2	-	92.5	3.6	96.0	3.0	0.9	S	12.01	4.58	12.2	42.0	54.2	
		3	~53	48.1	6.9	10.7	41.2	24.8	65.8	28.1	5.9	L	6.15	2.39	46.1	30.0	76.1		
		4	~73	36.5	7.2	4.7	61.3	26.1	87.4	12.0	0.6	S	7.43	28.0	36.5	35.5	82.0		
		5	~90	10.9	11.5	9.4	17.6	41.5	59.1	37.0	3.9	L	50.9	20.7	50.8	28.5	79.3		

化 学 性																	
pH		值 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			※ 塩 置 換 容 量 me/100g	直換性塩基 ※ mg/100g中			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	乾 土 效 果	30℃NH ₃ -N 発 生 量 mg/100g		有 効 態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
H ₂ O	Kcl		※ T-C %	※ T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	湿 土	P ₂ O ₅	N	
6.3	5.5	0.6	1.08	0.06	1.78	4.0	58.9	14.6	2.6	52.5	7.0			8.3			
6.6	5.8	0.6	—	—	—	1.0	22.5	4.0	2.4	80.0	3.6			6.2			
5.9	5.4	1.3	—	—	—	3.4	16.9	6.5	10.4	17.7	1.8			5.3			
5.7	4.9	0.6	6.10	0.40	15.3	22.4	245.0	27.8	25.6	38.8	17.14			0.3			
5.9	5.4	0.6	2.13	0.13	1.67	9.1	65.7	4.3	11.9	25.3	11.04			0.2			
5.7	5.1	1.3	3.27	0.21	15.6	9.1	183.5	6.6	6.3	72.5	9.8			29.8			
6.7	6.2	0.6	7.43	0.55	13.5	23.7	147.5	17.6	9.4	22.4	20.24			0.9			
5.8	5.3	0.6	1.85	0.09	2.03	5.0	67.9	44.8	7.7	46.0	5.2			12.4			
6.2	4.6	1.9	—	—	—	1.0	28.1	10.5	2.6	100.0	5.2			7.7			
5.4	4.9	0.6	4.84	0.25	19.3	2.19	35.13	37.9	15.9	57.1	10.34			2.6			
5.3	4.8	1.3	6.54	0.35	18.5	30.8	45.00	37.1	15.4	52.3	17.32			0.9			
5.9	5.2	0.6	4.25	0.25	16.8	12.9	145.6	10.2	13.5	40.3	12.64			0.5			
6.1	5.5	0.6	—	—	—	4.1	46.1	tr	4.1	39.0	60.0			0.9			
5.3	4.8	0.6	2.29	0.15	15.1	3.4	72.7	62.0	4.7	76.5	7.0			36.3			
5.6	4.9	1.3	—	—	—	2.8	16.9	15.3	27.1	21.4	4.4			5.3			
5.0	4.4	0.6	7.39	0.51	14.5	33.2	233.3	43.7	23.7	25.0	21.04			tr			
4.9	4.4	0.6	5.41	0.34	16.1	17.9	97.4	30.6	16.3	19.6	19.54			0.9			
5.8	5.1	0.6	6.93	0.43	16.0	32.8	217.4	59.7	30.8	23.8	22.90			1.2			
5.7	5.2	0.6	4.42	0.30	14.8	23.8	179.6	55.4	30.9	26.9	23.24			tr			
5.7	5.0	0.6	—	—	—	3.0	62.2	4.0	3.2	73.3	13.4			17.2			
6.1	5.3	0.6	—	—	—	1.4	23.7	tr	34.9	57.1	7.0			9.0			
6.1	5.4	0.6	—	—	—	37.5	513.9	tr	24.5	48.8	20.50			0.3			
6.0	5.3	0.6	—	—	—	2.13	158.2	6.2	20.9	26.8	20.50			0.2			
6.0	5.4	0.6	1.89	0.14	13.4	4.9	79.5	19.7	3.2	57.1	12.4			53.4			
6.2	5.4	0.6	—	—	—	1.2	15.7	7.3	15.4	50.0	7.0			18.3			
6.3	5.6	0.6	6.68	0.35	18.8	31.1	481.8	48.5	9.2	55.3	16.80			2.1			
6.4	5.7	0.6	2.96	0.17	17.2	15.5	188.7	27.8	11.2	43.2	16.98			0.2			
6.2	5.4	0.6	6.17	0.36	17.1	33.9	307.9	53.8	6.12	32.5	22.36			tr			

保全 対策区	土 壌 区 名	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現地における1000CC容中					孔 隙 率 %
					礫 (風 乾 物 中) W %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC	空 気 容 積 CC			
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %								
千歳	千歳-2	千84	1	0~26	33.8	1.3	2.1	79.8	8.5	88.3	6.1	5.6	LS	112.8	42.8	3.2	44.0	57.2		
			2	~46	4.7	0.3		89.4	5.9	95.3	3.7	1.0	S	111.2	39.7	15.3	45.0	60.3		
			3	~58	29.2	9.6	15.7	42.9	23.5	66.4	23.6	10.0	SL	55.5	21.8	51.2	27.0	77.2		
			4	~70	27.3	4.7	4.1	79.0	14.0	93.0	6.4	0.6	S	82.7	28.7	32.8	38.5	71.3		
			5	70~	—	11.5	10.8	31.0	28.4	59.4	30.5	10.1	L	62.9	24.1	49.4	21.5	75.9		
	千歳-3	千69	千69	1	0~22	13.7	2.5	7.0	77.4	9.4	86.8	9.5	3.7	LS	99.7	39.2	25.8	35.5	60.8	
				2	~35	—	12.5	18.0	23.8	29.6	53.4	34.5	12.1	L	59.9	23.6	60.4	16.0	76.4	
				3	~44	—	12.8	12.0	14.7	38.3	53.0	42.4	4.6	L	49.0	18.7	55.8	25.5	81.3	
				4	~55	7.9	12.5	9.3	21.1	50.0	71.1	28.5	0.4	SL	—	—	—	—	—	
		千78 代表	千78	千78	1	0~20	17.4	0.6	1.6	90.7	5.1	95.8	4.0	0.2	S	—	—	—	—	—
					2	~31	11.1	0.3		93.9	3.8	97.7	2.3	0	S	105.9	39.9	16.1	44.0	60.1
					3	~40	31.3	10.1	19.2	37.7	22.1	59.8	25.2	15.0	L	50.1	20.9	57.1	22.0	79.1
					4	~52	15.8	8.4	8.8	60.0	23.6	83.6	13.3	3.1	SL	63.0	24.3	47.2	28.5	75.7
					5	~63	15.6	12.6	10.3	30.0	33.7	63.7	29.6	6.7	L	57.9	21.3	53.2	25.5	78.7
					6	~75	18.5	11.9	7.8	20.9	49.2	70.1	29.1	0.8	SL	51.4	18.4	57.1	24.5	81.6
					7	~85	19.1	13.6		34.6	52.9	87.5	11.2	1.3	LS	—	—	—	—	—
		恵78	恵78	恵78	1	0~25		0.6	3.1	84.9	7.1	92.0	6.3	1.7	S	125.4	36.9	23.6	39.5	63.1
					2	~38		0.1	1.1	83.4	6.9	90.3	9.0	0.6	S	105.2	18.9	55.1	26.0	81.1
					3	~46		10.0	14.4	15.4	35.5	50.9	37.1	12.0	L	99.8	18.8	48.2	33.0	81.2
					4	~54		11.0	12.9	14.2	42.3	56.5	34.0	9.4	L	95.6	15.9	52.1	32.0	84.1
5	~62					12.4	13.1	10.4	48.0	58.4	35.2	6.5	L	89.0	13.3	47.7	39.0	86.7		
6	~75					12.2	10.9	8.3	52.5	60.8	34.5	4.7	L	107.3	18.9	53.1	28.0	81.1		
7	~90					11.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
恵84	恵84	恵84	1	0~27		1.3	3.1	79.5	8.4	87.9	9.9	2.2	LS	125.8	32.4	29.1	38.5	67.6		
			2	34~58		9.7	8.8	18.4	37.4	55.8	36.2	8.0	L	119.3	21.1	59.9	19.0	78.9		
			3	~71		12.6	9.3	8.6	57.7	66.3	31.0	2.7	SL	91.8	12.5	53.5	34.0	87.5		
			4	71~		15.8	3.8	10.9	73.7	84.6	13.2	2.2	SL	96.8	14.1	52.9	33.0	85.9		
新川	千77	千77	1	0~28	13.7	3.8	7.0	73.5	11.4	84.9	13.5	1.6	SL	—	—	—	—	—		
			2	~45	12.4	13.0	—	44.8	44.5	89.3	10.7	0	S	—	—	—	—	—		
			3	45~	15.0	12.2	—	61.2	33.6	94.8	5.2	0	S	—	—	—	—	—		

化 学 性																	
pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			鹽 基 換 容 量 g/100g	置 換 性 塩 基 mg/100g中			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	乾 土 効 果	30℃NH ₃ -N 發 生 量 mg/100g		有 効 態 mg/100g		遊 離 酸 化 鐵 %
H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	濕 土	P ₂ O ₅	N	
5.7	5.2	0.6	1.24	0.07	17.4	6.5	185.2	30.2	22.3	10.15	150				24.5		
6.1	5.5	0.6	—	—	—	1.0	29.3	11.3	4.6	100.0	2,262				6.0		
5.8	5.1	0.6	10.08	0.52	19.4	40.9	527.2	40.1	32.5	46.0	2,042				tr		
5.9	5.3	0.6	2.50	0.12	21.6	10.5	101.2	15.2	12.2	34.3	1,290				0.2		
5.8	5.1	0.6	7.11	0.45	15.7	38.4	489.2	27.3	40.2	45.3	2,166				0.2		
5.4	4.6	1.3	4.16	0.25	16.9	13.1	6.8	0.8	10.5	1.5	1,972				15.2		
5.2	4.7	0.6	11.96	0.71	16.8	43.0	251.2	44.2	21.3	20.7	1,856				0.3		
5.3	4.7	1.3	7.98	0.60	13.4	46.3	180.1	11.1	6.2	13.8	822				tr		
5.6	5.0	1.9	6.15	0.42	14.5	27.4	132.0	12.0	4.3	17.2	1,246				tr		
5.7	5.1	1.9	0.93	0.05	18.4	3.6	55.3	25.2	3.8	55.6	106				28.1		
6.0	5.1	1.3	—	—	—	2.4	31.5	39.6	3.0	45.8	62				10.1		
5.9	5.1	0.6	12.40	0.80	15.8	50.0	579.9	53.8	37.6	41.4	2,086				0.8		
5.7	5.1	0.6	5.56	0.47	15.9	20.1	139.7	23.8	17.5	24.9	2,050				tr		
5.5	5.0	1.3	6.88	0.49	13.9	28.1	206.6	29.5	29.1	26.0	2,210				tr		
5.7	5.2	0.6	5.19	0.36	14.1	24.5	150.1	28.4	27.9	21.6	2,324				tr		
6.0	5.5	0.6	—	—	—	15.7	134.9	485	21.5	31.2	2,122				tr		
6.0	4.4	1.3	1.85	0.09	20.3	4.7	110.0	2.0	6.0	83.0	183				47.8		
6.0	4.6	0.6	0.63	0.01	57.5	1.3	10.1	0.8	3.6	30.3	2,154				12.0		
6.2	5.0	1.3	8.66	0.49	17.8	46.0	703.2	27.5	29.0	54.6	2,662				3.0		
5.8	4.8	0.6	7.74	0.39	19.8	40.3	322.3	12.4	24.6	28.5	2,788				2.5		
5.7	4.7	1.3	7.83	0.41	19.2	38.7	213.0	6.3	18.0	19.6	2,766				2.0		
5.3	4.6	1.9	6.57	0.36	18.1	29.6	133.4	8.2	12.6	16.2	2,777				2.3		
5.8	5.1	0.6	—	—	—	20.0	103.9	5.8	11.6	18.5	2,554				4.4		
5.5	4.6	1.3	1.88	0.84	2.2	9.1	78.4	4.0	16.2	30.8	557				9.1		
5.9	5.0	0.6	5.31	0.26	20.1	22.4	190.7	6.1	8.8	30.4	2,500				1.8		
6.0	5.1	0.6	5.60	0.29	19.5	27.2	209.7	7.2	8.1	27.6	2,789				1.2		
6.0	5.3	0.6	2.27	0.11	20.1	14.1	116.8	3.7	12.0	29.8	2,846				2.3		
5.6	4.8	0.6	4.21	0.26	16.2	12.9	145.8	52.8	34.7	40.3	902				3.8		
6.0	5.6	0.6	—	—	—	16.1	77.3	13.9	97.9	17.4	2,156				0.2		
6.4	5.9	1.3	—	—	—	15.5	56.3	23.9	59.0	13.6	1,972				tr		

保 全 对 策 区	土 壤 区 名	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性													
					礫 (風乾物中) w %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地における100cc容中				
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %
島松	島松-1	恵	62	1	0~14	7.5	—	37.8	24.5	62.3	26.4	11.3	L	96.3	26.3	36.5	37.2	73.7
				2	~24	7.7	—	33.7	26.2	59.9	27.5	11.3	L	115.8	30.1	46.7	23.2	69.9
				3	~35	12.2	—	11.4	49.6	61.0	32.3	6.6	L	118.2	26.9	58.8	14.3	73.1
				4	~55	10.7	—	13.5	55.2	68.7	24.5	6.8	SL	139.1	34.2	53.9	11.9	65.8
	島松-2	恵	94	1	0~15	4.0	8.9	59.9	15.6	75.5	16.1	8.3	SL	144.1	41.8	40.8	17.4	58.2
				2	~28	12.5	11.8	19.7	38.8	58.5	31.5	9.9	L	113.2	25.2	50.5	24.3	74.8
				3	~47	13.9	5.3	12.3	61.3	73.6	20.8	5.6	SL	101.6	21.3	51.8	26.9	78.7
				4	~68	10.8	2.8	23.4	58.0	81.4	14.3	4.3	SL	112.7	27.0	50.5	22.5	73.0
	牧場-1	恵	87	1	0~22	1.5	3.4	74.6	12.8	87.4	9.5	3.1	LS	125.9	35.1	25.9	39.0	64.9
				2	~36	—	13.7	20.1	34.6	54.7	23.8	21.5	CL	114.7	24.9	53.1	22.0	75.1
				3	~52	9.2	12.1	20.5	38.2	58.7	27.1	14.3	L	98.6	19.0	47.0	34.0	81.0
				4	~67	2.9	—	29.2	57.6	86.8	10.3	2.9	LS	80.5	21.0	30.0	49.0	79.0
				5	~88	2.0	—	12.0	77.0	89.0	8.7	2.3	L	91.9	22.5	30.5	47.0	77.5
	牧場-2	恵	86	1	0~16	1.3	3.7	72.8	13.2	86.0	10.8	3.1	LS	136.4	38.2	31.3	30.5	61.8
				2	35~65	4.5	—	5.3	41.1	46.4	40.7	12.9	L	125.8	29.8	46.2	24.0	70.2
	長都	中島松	恵	83	1	0~15	2.4	6.8	71.3	10.4	81.7	10.9	7.3	SL	152.7	41.2	41.8	17.0
2					~25	10.9	15.9	21.3	20.6	41.9	35.4	22.7	CL	115.8	22.3	59.7	18.0	77.7
3					~40	13.0	21.9	9.2	38.9	48.1	37.8	14.1	L	107.3	16.5	62.5	21.0	83.5
4					~63	11.7	9.5	9.1	57.3	60.4	30.9	8.7	L	—	—	—	—	—
幌加-2		千	80	1	0~25	1.2	3.7	87.4	7.2	91.0	2.3	3.1	LS	—	—	—	—	—
				2	~45	0.3	—	91.4	3.6	95.0	5.0	0	S	—	—	—	—	—
				3	~55	9.2	22.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				4	~71	5.6	8.2	75.3	9.5	84.8	9.7	5.5	SL	—	—	—	—	—
				5	77~	5.3	1.1	27.9	16.1	44.0	29.4	26.6	LiC	—	—	—	—	—

化 学 性																	
pH		置換酸度 Y ₁	有 機 物			* 塩置換 容 基量 100g	置換性塩基 mg/100g中			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	乾土効 果	30°C N H ₃ -N 発 生 量 mg/100g		有効態 mg/100g		遊離 酸 化 鉄 %
H ₂ O	KCl		* T-C %	* T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	湿 土	P ₂ O ₅	N	
6.0	4.9	1.3	—	—	—	26.9	29.6	27.7	28.4	39.4	2.192				1.5		
5.9	4.8	1.9	—	—	—	24.8	26.8	23.5	27.6	38.7	2.562				0.1		
6.1	5.0	0.6	—	—	—	20.4	13.2	16.3	18.8	23.0	2.469				0.7		
6.5	5.5	0.6	—	—	—	13.5	129.1	15.2	14.2	34.1	1.870				0.7		
5.5	4.4	2.5	5.31	0.31	17.4	17.7	133.5	9.3	31.6	27.1	1.207				23.3		
5.4	4.6	1.3	7.08	0.39	18.3	30.4	218.2	18.1	54.0	25.7	2.780				3.4		
6.1	5.3	0.6	3.16	0.18	17.4	18.2	134.2	24.8	35.5	26.4	2.747				2.0		
6.3	5.6	1.3	1.68	0.09	19.0	12.6	118.0	9.9	31.0	33.3	2.368				2.0		
5.8	4.8	0.6	2.03	0.12	17.2	8.3	137.1	1.2	4.9	59.0	2.92				43.3		
5.5	4.6	0.6	8.20	0.57	14.3	36.8	470.0	21.0	8.8	45.6	1.946				2.8		
5.6	4.5	2.5	7.24	0.41	17.6	28.8	189.8	4.4	8.7	23.6	2.189				3.6		
5.8	4.8	0.6	—	—	—	6.2	23.0	1.6	8.2	12.9	5.91				7.2		
5.8	4.8	0.6	—	—	—	4.3	35.5	2.4	7.3	30.2	6.69				3.9		
6.3	5.3	0.6	2.22	0.14	15.7	9.1	178.9	8.6	32.4	70.3	3.40				27.5		
5.6	4.8	1.9	—	—	—	20.5	481.7	16.0	128.7	83.9	9.70				4.9		
6.0	4.9	1.3	4.09	0.28	14.7	31.1	295.7	6.1	3.3	33.8	2.71				9.1		
6.4	5.5	1.3	9.54	0.75	12.7	68.7	170.8	51.0	7.1	88.5	2.211				2.3		
6.3	5.2	0.6	13.14	0.91	14.4	55.1	863.1	49.1	8.3	55.9	2.783				1.2		
6.2	5.0	0.6	5.69	0.32	18.0	14.3	197.9	20.7	5.4	49.6	2.681				1.2		
5.7	4.9	0.6	2.18	0.16	13.4	8.5	96.4	29.3	23.1	40.0	1.42				45.4		
5.0	4.6	1.3	—	—	—	2.8	6.7	9.7	7.4	7.1	6.2				6.1		
5.1	4.6	1.3	14.50	1.48	9.8	47.8	635.9	72.8	50.6	47.5	1.166				0.8		
5.7	5.1	0.6	5.03	0.33	15.3	16.9	158.0	23.9	17.8	33.1	1.264				0.3		
5.3	4.3	1.9	0.64	0.02	30.5	26.2	118.5	45.9	27.0	16.0	2.48				0.9		

保全 対策 区	土 壙 区 名	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現地における100cc容中				
					礫 (風乾物中) w %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %							
加 千 65	嶋	3	1	0~3.5	28.6	1.3	3.2	80.0	7.5	87.5	5.7	6.8	LS	—	—	—	—	—	
			2	~5.0	24.5	0.7	—	86.4	6.2	92.6	6.1	1.3	S	—	—	—	—	—	
			3	~6.8	—	5.8	3.0	6.2	4.0	10.2	28.1	61.7	HC	—	—	—	—	—	
			4	~7.6	—	10.2	1.3	3.0	23.6	54.3	28.4	17.3	CL	—	—	—	—	—	
	山 北	恵	73	1	0~2.2	—	1.6	—	64.2	13.6	77.8	15.7	6.4	SL	121.3	40.5	23.3	36.2	59.5
				2	2.6~4.0	—	4.0	—	4.4	29.9	34.3	56.7	8.9	SiL	110.7	28.1	41.1	30.8	71.9
				3	~5.2	—	5.7	9.1	2.4	14.4	16.8	54.2	29.0	SiL	109.2	26.6	44.1	29.3	73.4
				4	~6.0	—	5.7	4.7	0.5	29.1	29.6	50.6	19.8	SiCL	125.9	28.6	47.8	23.6	71.4
				5	6.0~	—	1.9	—	8.6	68.3	76.9	11.5	11.7	SL	—	—	—	—	—
	長 都 千 44	1	2	1	0~1.2	—	6.5	16.3	9.6	53.7	63.3	26.2	10.5	L	—	—	—	—	—
				2	~2.2	—	1.6	—	10.8	80.1	90.9	6.0	3.1	S	—	—	—	—	—
	西 里 一 1	広	29	1	0~2.5	—	6.0	12.8	27.1	20.8	47.9	31.8	20.3	CL	122.7	31.5	42.5	26.0	68.5
2				~3.6	—	9.5	13.2	4.1	24.4	28.5	39.5	32.0	LiC	131.5	27.2	59.8	13.0	72.8	
3				~4.3	—	6.4	6.0	5.6	20.4	26.0	36.3	37.7	LiC	150.7	37.1	52.9	10.0	62.9	
4				~5.1	—	0.7	1.8	7.3	26.3	33.6	35.6	30.8	LiC	188.9	54.5	41.5	14.0	55.5	
5				5.1~	—	4.9	—	14.5	24.4	38.9	31.9	29.2	LiC	189.7	54.3	41.2	4.5	45.7	
西 里 二 2	広	31	1	0~1.8	—	7.1	14.0	33.4	19.3	52.7	28.6	18.7	CL	139.0	31.5	61.5	7.0	68.5	
			2	~3.6	—	8.8	14.8	59.6	18.8	78.4	1.5	20.1	SCL	114.4	19.0	58.5	22.5	81.0	
			3	~5.0	—	10.7	6.8	9.6	73.8	83.4	7.5	9.1	SL	140.2	30.2	56.3	13.5	69.8	
			4	~8.0	—	9.2	3.0	15.2	35.5	50.7	36.9	12.4	L	—	—	—	—	—	
西 里 三 野 南	広	32	1	0~2.1	—	4.7	—	26.4	18.2	44.6	24.0	31.4	LiC	—	—	—	—	—	
			2	~3.5	—	7.0	12.3	26.7	18.3	45.0	31.3	23.7	CL	—	—	—	—	—	
			3	~6.3	—	9.5	8.3	7.8	47.2	55.0	31.0	14.0	L	—	—	—	—	—	

化 学 性																	
pH		置換酸度 Y ₁	有 機 物			* 塩置換容 基量 me/g 100	* 置換性塩基* mg/100g中			石灰飽和度 %	磷酸吸收係數	乾土 効果	30°C NH ₃ -N 發生量 mg/100g		有効態 mg/100g		遊離酸化鉄 %
H ₂ O	KCl		T-C %	T-C %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	湿 土	P ₂ O ₅	N	
6.6	6.5		0.6	1.86	0.13		14.2	5.3	184.1				28.6	17.0	124.5	194	
6.2	5.3	1.3	—	—	—	2.0	22.6	20.3	30.6	40.0	80			3.3			
5.3	4.5	3.1	1.84	0.18	10.2	2.66	343.0	113.0	23.2	45.9	1758			0.7			
5.6	4.7	1.9	7.30	0.43	16.8	39.0	204.9	78.2	10.0	19.0	2130			0.2			
5.8	4.5	1.9	—	—	—	8.1	88.9	3.2	19.5	39.5	95.1			19.4			
5.9	5.0	1.3	—	—	—	17.5	396.5	7.6	49.1	80.6	1736			2.5			
6.0	4.8	0.6	5.45	0.33	16.3	36.4	616.4	25.6	22.0	60.4	1196			3.6			
5.7	4.4	2.5	2.82	0.19	15.1	20.5	429.1	29.8	11.0	74.6	496			1.8			
6.1	4.5	1.9	—	—	—	10.0	173.7	44.3	24.5	62.0	477			3.9			
4.2	3.6	8.8	0.16	0.81	12.5	25.1	119.9	30.1	14.3	17.1	50			2.6			
4.0	3.5	12.5	—	—	—	6.1	22.8	12.3	8.0	13.0	160			1.4			
5.4	4.7	0.4	7.71	0.44	17.5	36.7	596.8	2.14	11.0	58.0	1513			8.8			
5.2	4.3	8.8	7.91	0.35	22.5	51.2	343.8	30.9	10.5	24.0	2314			6.8			
5.0	4.1	8.1	3.60	0.15	24.5	27.9	226.7	30.0	6.0	29.0	1553			8.5			
4.7	4.0	3.8	1.08	0.04	30.9	—	—	—	—	—	781			10.4			
5.9	4.4	0.8	—	—	—	19.7	329.4	82.9	8.4	59.4	791			7.5			
5.7	4.9	0.4	8.42	0.59	14.2	34.1	485.3	104.5	58.2	50.7	1823			9.8			
5.5	4.7	0.6	8.87	0.62	14.2	37.4	366.1	36.0	80.1	35.0	2205			3.8			
5.0	4.4	1.3	4.06	0.23	17.7	18.4	37.2	1.8	59.6	7.1	2594			3.8			
5.2	4.7	0.8	1.83	0.09	19.4	13.1	61.3	6.1	114.7	16.8	2043			6.8			
5.5	4.4	1.9	—	—	—	20.5	353.5	16.9	26.8	61.5	869			13.0			
5.3	4.6	0.8	7.40	0.46	16.2	31.2	421.3	44.8	63.8	48.1	1671			4.6			
5.7	4.8	0.5	4.96	0.29	16.9	29.8	294.8	30.9	35.9	35.2	2469			4.3			
5.4	4.4	1.5	1.89	0.09	20.5	19.1	174.6	39.0	23.2	32.5	1793			7.5			

保全対策区	土曜区名	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性													
					礫 (風乾物中) W%	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における100cc容中				
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 %	固 相 容 積 %	水 分 容 積 %	空 気 容 積 %	孔 隙 率 %
輪厚	石山	広島14	1	0~35	5.3	10.0	43.6	26.1	69.7	21.1	9.2	SL	119.3	30.6	41.4	28.0	69.4	
			2	~49	13.2	16.4	11.5	35.0	46.5	34.0	19.5	CL	103.7	20.2	52.3	27.5	79.8	
			3	~63	12.5	11.1	24.8	47.5	72.3	21.7	6.0	SL	101.1	19.7	49.3	31.0	80.3	
	広島-1	広島28	1	0~20	6.9	12.8	38.5	24.8	63.3	24.6	12.1	L	124.3	29.1	48.9	22.0	70.9	
			2	~33	8.7	12.7	24.5	46.5	71.0	17.8	11.2	SL	102.7	17.2	55.3	27.5	82.8	
			3	~57	9.8	6.0	11.5	60.4	71.9	25.1	3.0	SL	111.9	19.7	56.3	24.0	80.3	
			4	~74	8.4	—	14.7	44.4	59.1	32.4	8.5	L	126.5	22.7	61.3	16.0	77.3	
			5	74~	6.9	—	23.3	61.8	85.1	13.5	1.4	LS	—	—	—	—	—	
	広島-2	広島18	1	0~25	9.0	14.5	35.7	21.5	57.0	27.0	16.0	CL	97.4	20.2	43.8	36.0	79.8	
			2	~35	15.5	16.5	9.4	33.0	42.4	37.6	20.0	CL	106.9	20.1	69.4	10.5	79.9	
			3	~49	12.2	8.6	10.4	50.5	60.9	31.4	7.7	L	115.6	18.9	62.1	19.0	81.1	
			4	~68	10.1	—	13.0	54.7	67.7	27.2	5.1	SL	132.8	24.7	61.3	14.0	75.3	
輪厚-1	広島24	1	0~26	5.6	10.4	41.2	24.4	65.6	25.1	9.3	SL	138.3	34.8	47.7	17.5	65.2		
		2	~43	14.2	15.0	10.6	32.6	43.2	39.3	17.5	CL	122.5	25.3	61.7	13.0	74.7		
		3	~55	12.1	5.8	10.5	50.2	60.7	32.1	7.2	L	129.8	27.0	59.0	14.0	73.0		
		4	55~	8.9	—	8.1	32.9	41.0	42.3	16.7	CL	143.2	30.9	57.1	12.0	69.1		
輪厚-2	広島25	1	0~17	6.0	10.8	31.4	27.6	59.0	27.6	13.4	L	116.5	28.5	42.5	29.0	71.5		
		2	~29	12.4	13.7	15.6	33.0	48.6	35.0	16.4	CL	102.8	20.1	48.4	31.5	79.9		
		3	~50	13.5	7.8	9.0	51.3	60.3	35.1	4.6	L	104.9	16.8	55.2	28.0	83.2		
		4	~70	8.1	2.5	8.5	41.1	49.6	38.6	11.8	L	134.2	27.8	55.2	17.0	72.2		
		5	70~	8.4	—	8.1	35.1	43.2	37.5	19.3	CL	159.7	38.0	53.0	9.0	62.0		

化 学 性																	
PH		置換酸度 Y ₁	有 機 物			※ 塩換容量 me/ 100g	置換性塩基 me/100g中			石灰飽和度 %	磷酸 吸收 係數	乾 土 効 果	300NH ₃ -N 發生量 mg/100g		有 効 態 mg/ 100g		遊離 酸 化 鉄 %
H ₂ O	Kcl		※ T-C %	※ T-N %	C/ N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	湿 土	P ₂ O ₅	N	
5.1	4.3	1.3	5.98	0.29	2.08	2.25	197.2	5.9	16.0	3.11	1.407				7.8		
4.7	4.0	5.6	9.81	0.45	2.19	50.9	26.28	16.4	27.2	1.85	2.733				5.2		
4.8	4.1	1.9	6.68	0.32	2.09	2.65	71.2	3.6	4.99	9.4	2.723				3.9		
4.6	4.1	3.1	7.71	0.42	1.82	2.99	259.0	5.1	27.4	3.08	1.940				9.1		
4.9	4.2	1.3	7.16	0.45	1.71	1.98	256.0	2.46	16.5	4.60	2.302				6.7		
5.2	4.7	0.4	3.60	0.23	1.57	2.02	149.0	9.8	8.8	2.62	2.504				6.2		
5.3	4.8	0.4	—	—	—	15.8	109.4	3.5	11.3	2.47	2.365				4.2		
5.8	5.0	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	1.985				5.4		
5.5	4.6	0.6	8.69	0.49	1.76	3.75	54.16	1.23	2.01	5.15	1.952				8.8		
4.9	4.2	2.5	9.91	0.58	1.72	50.6	32.64	2.23	2.03	2.29	2.972				4.9		
5.1	4.6	0.6	5.16	0.28	1.87	2.40	17.24	1.27	1.62	2.54	2.469				4.4		
5.4	4.7	0.4	—	—	—	15.6	10.25	6.2	17.6	2.31	2.237				4.9		
5.5	4.7	0.6	6.24	0.33	1.90	2.34	34.82	1.45	3.63	5.30	1.497				13.3		
5.1	4.5	1.3	9.02	0.44	2.05	5.23	53.80	3.22	5.21	3.67	2.787				10.4		
5.1	4.6	0.6	3.50	0.18	1.86	1.95	186.1	10.8	7.53	3.38	2.403				7.8		
5.3	4.8	0.4	—	—	—	16.1	189.3	8.8	11.5	4.16	1.847				7.8		
5.0	4.4	0.6	6.49	0.38	1.73	2.63	31.98	8.6	2.20	4.33	1.451				14.3		
5.0	4.3	1.3	8.21	0.51	1.63	3.93	35.22	2.11	4.66	3.21	2.654				6.9		
5.6	4.6	0.6	4.66	0.28	1.69	2.06	13.20	4.5	2.78	2.28	2.839				4.2		
5.0	4.5	0.4	1.52	0.09	1.73	1.41	14.17	2.10	2.87	3.55	1.895				5.7		
4.7	4.1	3.1	—	—	—	17.9	159.2	2.62	6.42	3.18	1.238				5.4		

保 全 对 策 区	土 郷 区 名	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性													
					礫 (風 乾 物 中) W%	風 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 に お け る 100cc 容 中				
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ルト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %
輪 厚	南1里	広島13	1	0~20		5.5	11.8	43.2	21.6	64.8	22.8	12.4	L	2.72	3.38	4.22	2.40	66.2
			2	~30		10.1	13.9	19.9	38.5	58.4	29.3	12.3	L	2.43	2.65	6.55	8.0	73.5
			3	~47		9.5	8.8	10.4	58.7	69.1	26.6	4.3	S L	1.17	2.18	5.42	2.40	78.2
			4	~70		8.2		14.5	63.2	77.7	17.5	4.8	S L	1.15	2.32	4.63	3.05	76.8
	中ノ沢	広島15	1	0~25		6.0	8.5	36.3	30.2	66.5	22.9	10.6	S L					
			2	~48		4.8	2.8	23.9	41.7	65.6	23.2	11.2	S L					
			3	~68		3.6		25.3	48.3	73.6	20.1	6.3	S L					
	附	恵庭88	1	0~19		2.2	5.1	67.8	15.2	83.0	12.5	4.5	S L					
			2	~34		0.9	1.4	71.3	3.2	74.5	22.3	3.1	S L					
			3	~43		5.4	5.3	19.1	49.2	68.3	21.7	9.9	S L					
			4	~64		7.1	5.5	5.7	55.0	60.7	31.2	8.2	L					
			5	~81		10.9	12.8	13.7	25.2	38.9	40.3	20.9	C L					
	附	恵庭89	1	0~19		1.5	4.6	64.4	17.6	82.0	13.5	4.5	S L					
			2	~32		0.8		58.5	24.7	83.2	15.3	1.5	S L					
			3	~38		6.6	11.6	28.3	37.8	66.1	24.2	9.7	S L					
			4	~59		13.3	15.0	16.0	36.1	52.1	34.4	13.4	L					
			5	~79		14.6	10.7	4.7	36.4	41.1	54.8	4.1	S i L					

化 学 性																	
PH		置換酸度 me/Y ₁	有 機 物			※ 塩置換容量 me/100g	※ 置換性塩基 me/100g中			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	乾土効果	30°C NH ₃ -N 発生量 me/100g		有効態 mg/100g		遊離酸化鉄 %
H ₂ O	KCl		※ T-C %	※ T-N %	C/ N		CaO	MgO	K ₂ O				乾土	湿土	P ₂ O ₅	N	
4.9	4.2	2.3	7.09	0.40	17.6	25.9	224.8	17.8	20.3	30.9	1.496			10.7			
5.0	4.4	0.6	8.35	0.42	19.7	33.7	239.6	10.7	14.1	25.2	2.393			8.1			
5.0	4.5	0.6	5.26	0.25	21.3	22.8	106.9	6.1	21.9	16.7	2.444			4.2			
5.2	4.7	0.4				12.3	69.1	3.5	22.5	20.3	2.067			5.2			
5.0	4.4	1.0	5.11	0.25	20.7	17.2	162.5	10.3	25.2	33.7	1.583			14.1			
4.7	4.0	5.0	1.69	0.06	26.8	11.1	60.5	7.6	14.0	19.8	1.485			6.5			
5.0	4.0	18.0				8.7	51.7	6.6	35.6	20.7	7.98			11.7			
6.0	5.1	0.6	3.09	0.21	14.8	12.3	220.6	7.9	8.2	64.2	5.68			11.5			
6.8	5.7	0.6	0.87	0.03	31.0	3.0	70.7	4.4	2.0	83.3	1.83			17.5			
6.8	5.8	1.3	3.19	0.20	15.7	22.3	549.7	5.9	7.6	87.9	1.245			1.8			
6.9	5.9	1.3	3.28	0.18	18.0	26.3	661.9	2.6	13.7	89.7	1.700			1.0			
6.8	5.8	0.6	7.66	0.47	16.3	59.9	1287.3	24.2	16.0	76.6	2.071			2.8			
5.8	4.8	1.3	2.78	0.15	18.1	7.4	63.1	7.8	4.5	29.7	64.1			9.1			
6.0	5.0	0.6				2.0	20.4	1.2	2.0	35.0	30.8			3.0			
5.9	4.8	1.3	6.99	0.28	24.6	22.8	177.0	7.8	6.8	27.6	1.858			1.8			
5.7	4.6	3.1	9.00	0.40	22.5	51.7	133.5	18.2	4.5	9.3	2.793			3.4			
5.6	4.9	1.3	6.41	0.29	22.1	30.2	21.9	2.7	3.7	2.6	2.904			16.1			